



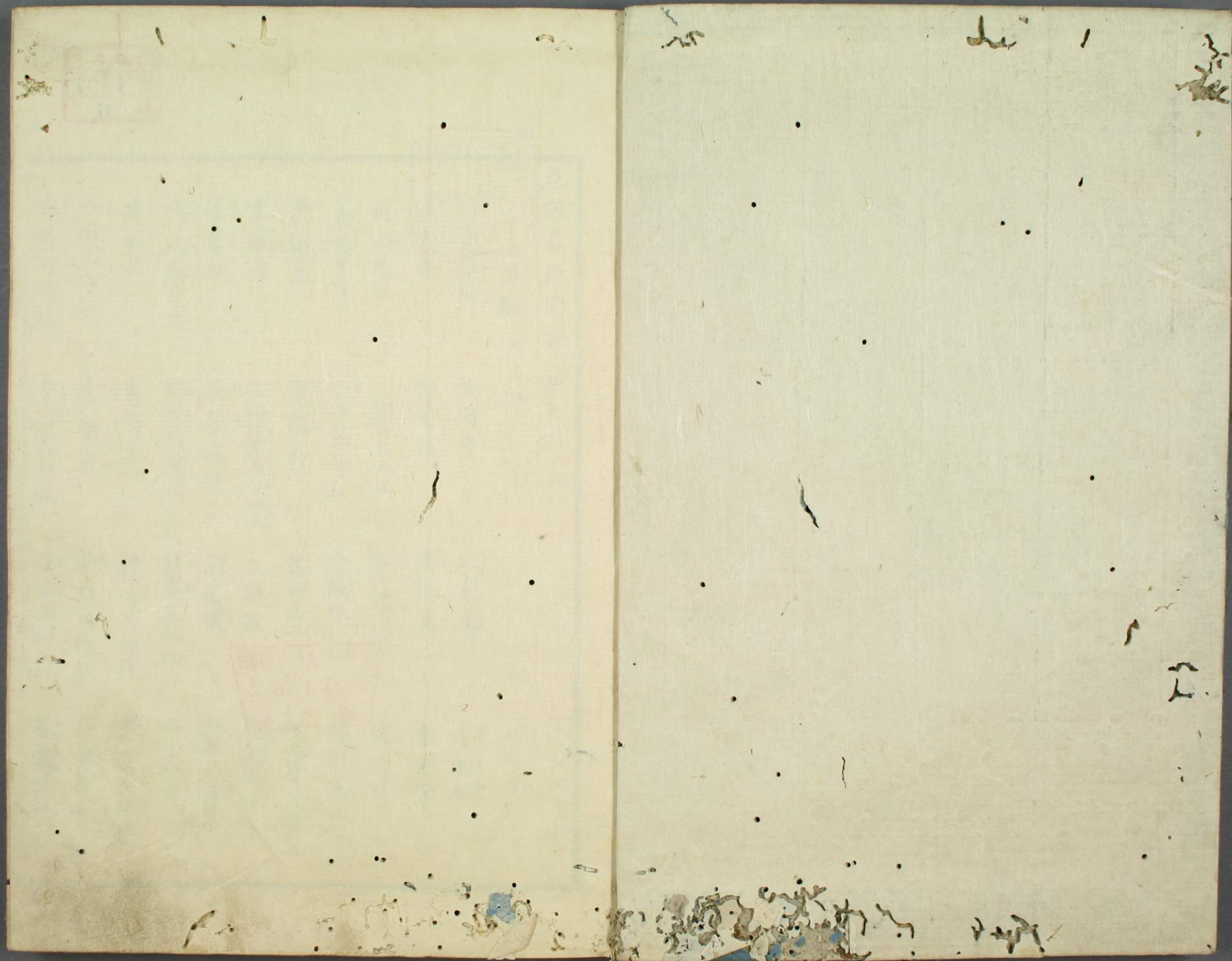
尾張名所圖會 前編

前編

六

ル 4
4597
6





門 4
號 4597
卷 6

尾張名所圖會卷之六



目錄 知多郡

- | | | | | | | | | |
|--------|-------|--------|---------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 延命寺 | 善導寺 | 干海老 | 生路井 | 隘竈石 | 廻り地頭の園 | 唐松井 | 入水天神社 | 武雄天神社 |
| 大府の三本松 | 入海天神社 | 澤瀉井 | 生路隘竈古跡見 | 坂部城址 | 阿久比神社 | 龜崎 | 常樂寺 | 豊石天神社 |
| 石ヶ瀬川 | 八幡社 | 乾坤院 | 生路隘 | 洞雲院 | 箕前比天神社 | 神崎天神社 | 成石天神社 | 壬生天神社 |
| 緒川里 | 緒川城址 | 伊久智天神社 | 三盆砂糖 | 北原天神社 | 平泉寺 | 業兼天神社 | 無量壽寺 | 富貴城址 |
| 文章嶺 | 境川橋 | 仙壽散 | 祇園寺 | 米 | 郡解 | 有松絞 | 曹源寺 | |

早稲田大学図書館
35.1.28
蔵書

阿奈志天神社	海鼠腸	章魚	醫王寺
但馬	幡頭崎	羽豆神社	同神幸の園
真珠	棘鬘魚	羽豆崎城址	篠嶋
妙見齋	後村上帝篠嶋小漂着 _{ひやうやく} 給 _{たま} の園	同本尊に魚と供養する園	日間賀嶋
比摩賀天神社	安樂寺	平島	鷗嶋
野島	松嶋	甬嶋	大磯嶋
木嶋	付久良嶋	式島崎嶋	内地嶋
小磯嶋	鷲渡嶋	屏風嶋	圓藏寺
惠比壽嶋	奈加天嶋	須男天神社	正衆寺
須佐の入江	鯨魚	伊勢山	内海
岩屋寺	久須天神社	乃野天神社	西岸寺
貝品の園	蜃氣樓	持寶院	同花見の園
寶樹院	鯛網の園		

秋葉山	金玉丸足跡石	入見神社	焼く _{やく} 石の古事
性海寺	富具崎	富具天神社	大御堂寺
義朝最後の園	頼朝公大御堂寺に供養する園	乱橋	長田宅址
法山寺	浴室古蹟	野間天神社	報恩寺
金玉丸饗洗池	長田蟹	床嶋	廣石天神社
大谷洞	高讚寺	常滑城址	常滑焼
總心寺	天澤院	鬼ヶ崎	正任院
常石天神社	八幡社	鑄物司	龍雲寺
美御天神社	鉦山天神社	蓮臺寺	標屋天神社
小倉海苔	小倉天神社	光明寺	海音寺
齊年寺	東龍寺	保命酒	内官社
牟山戸權現社	牡蠣	日永神社	一口香
塩湯治	日永崎	慈雲寺	

古見の一本松	皇后井	法海寺	万歳
正法院	景清宅址	八幡社	安樂院
惣五郎塚	蟲供養	横須賀	衣の浦
琴彈松	長益塚	細井平洲の傳	如來山
加家觀音寺	天尾天神社	觀福寺	業平塚
良忍上人の傳	荒太天神社	船津社	名和干温飽
大高村	大高菜	大高城址	鷲津岩址
丸根岩址	豐臣秀次公の傳	火上姉子神社	長壽寺

知多郡

當郡ハ由公の南海中小わく大うゝあれと一和名抄延喜式に智多しわき日本後紀小延暦廿四年七月丙子尾張國智多郡地十三町賜中納言從三位藤原朝臣内磨とんえ万葉集以下の古書に知多とんえ例もまゝんえて今も智多知多と交へ用ひて一定しと南郡尾のこゝに法かゝるり尾張と名付初とんえ流ハ既小初卷國号陸鰭の系下にア西浦ハ伊勢志摩東ハ三河の海小接と郡中凡々一百四十餘村東と東浦西と西浦とふ處地を多々山海秀美のて凡系他郡小街より乾中南の方大井師誘より小中浦柿並まで此際断崖疊々として勢浪浪濤常に雲と競へ又藤原日石賀誘主余の小誘森たの上に浮べる皆眼前小並ひて比教るき眺をうりて文人墨客れい浦小遊歴するとの四時絶るり

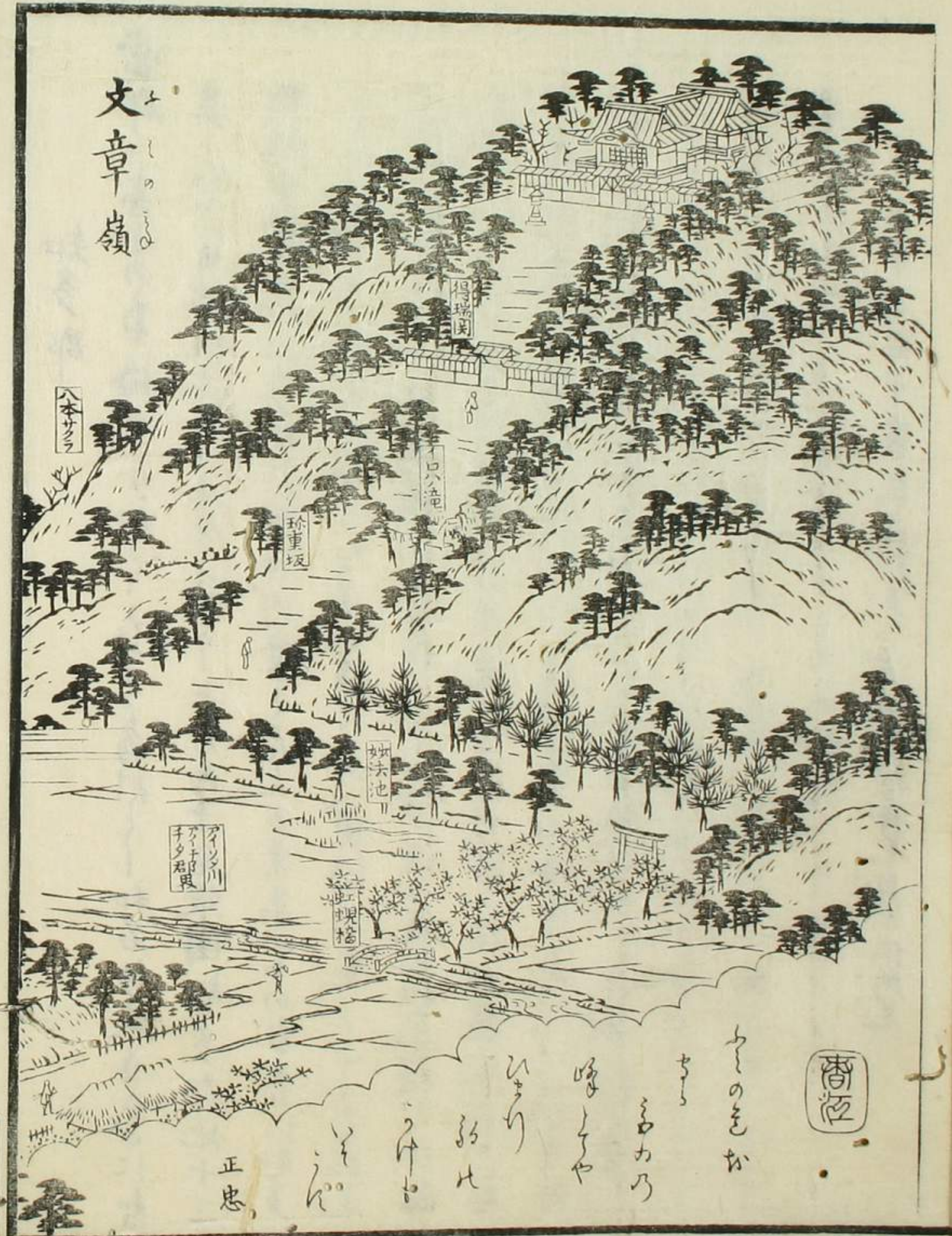
年魚市方臨干家良志知多乃浦尔朝榜舟毛奥尔依所見



一代文章主千
 年威徳神廟成
 聊致祭梅點故
 家春

正瑞

成利
 山此
 柳の
 卯辰



文章嶺

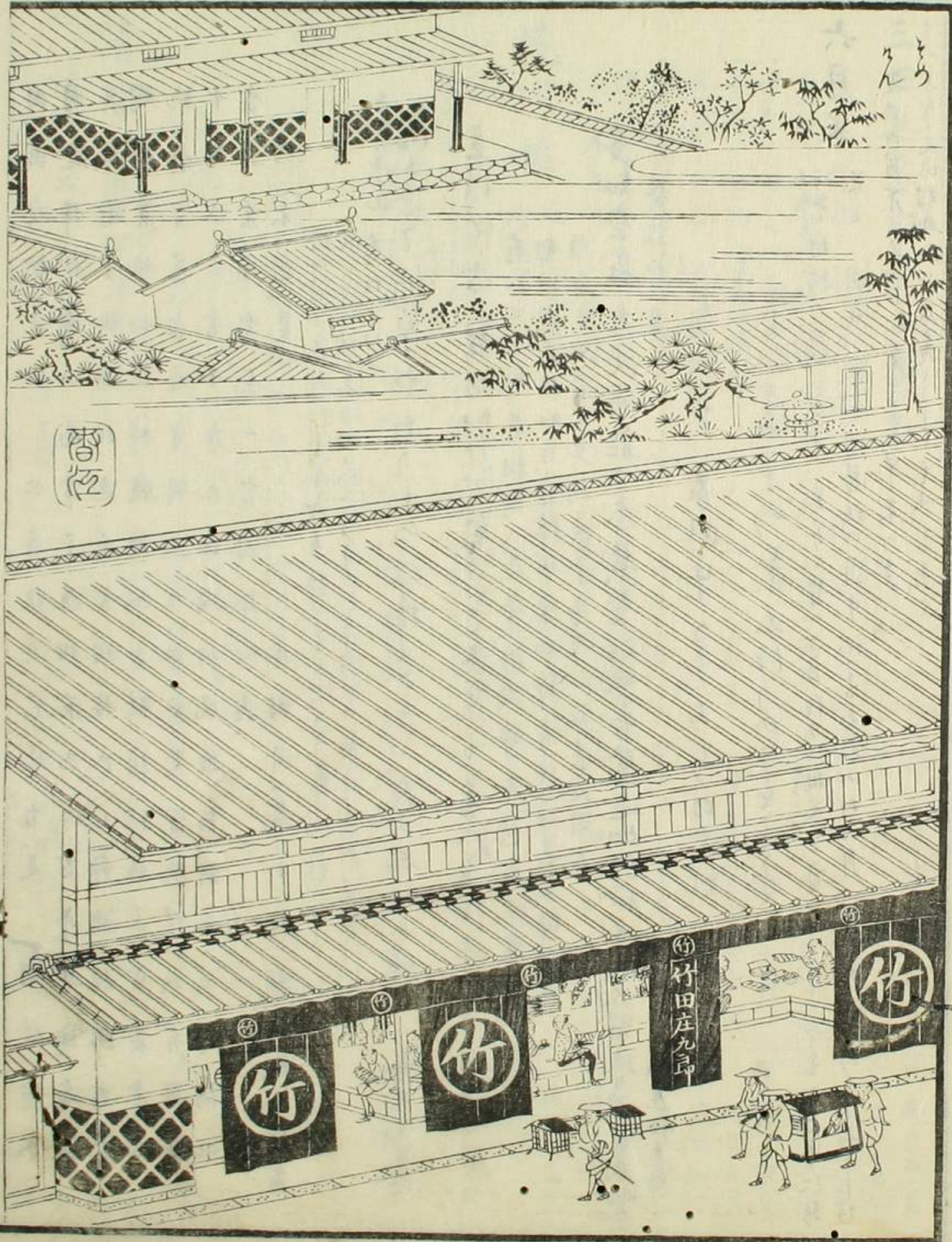
八本ノ

カシノ

正忠

香

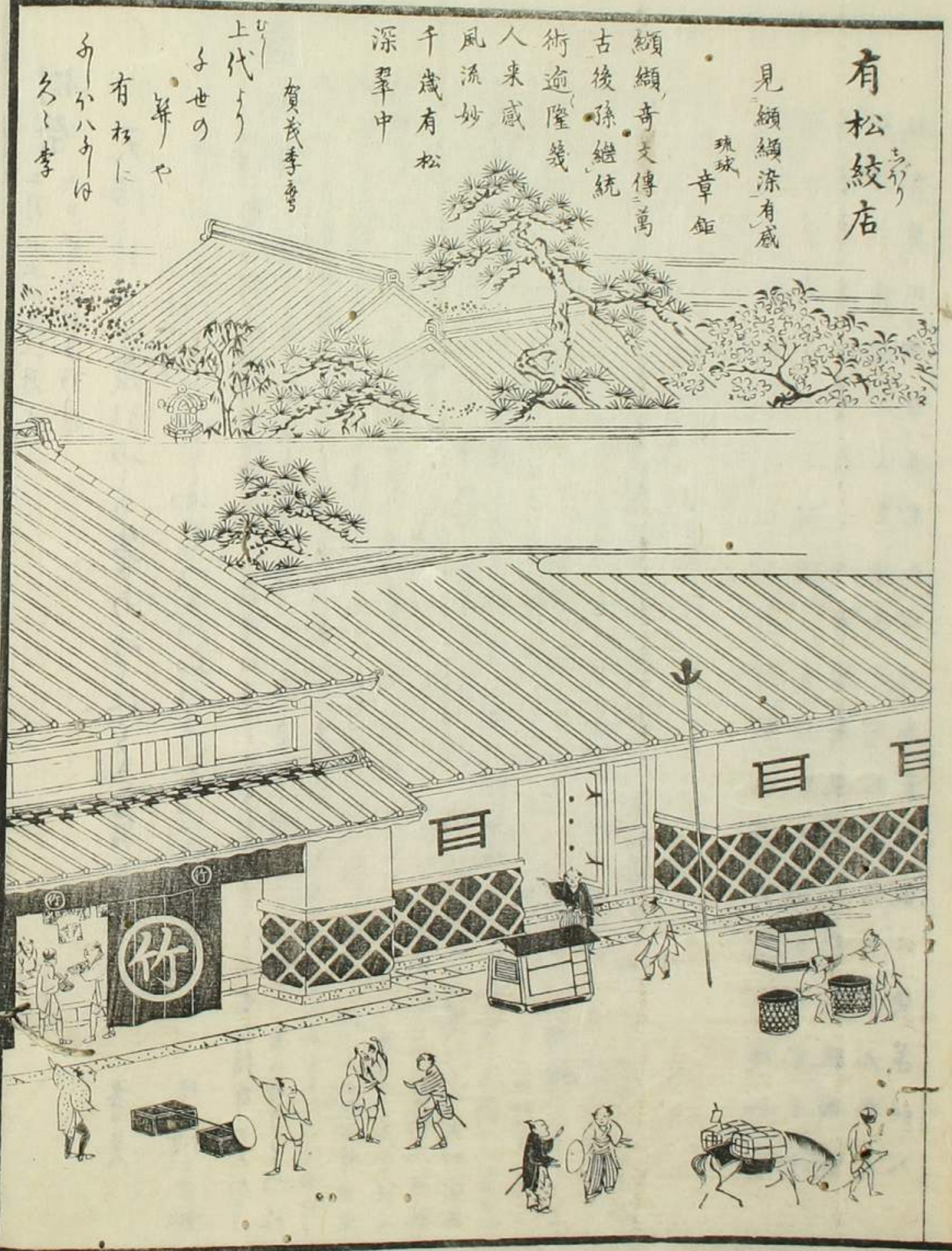
正忠
 香
 山此
 柳の
 卯辰



きん

竹

六ノ五



有松絞店

見縷縷漆有感

琉球 章鉅

額綱奇文傳萬

古後孫繼統

術逾隆幾

人來感

風流妙

千歲有松

深翠中

賀茂季季

上代より

子世の

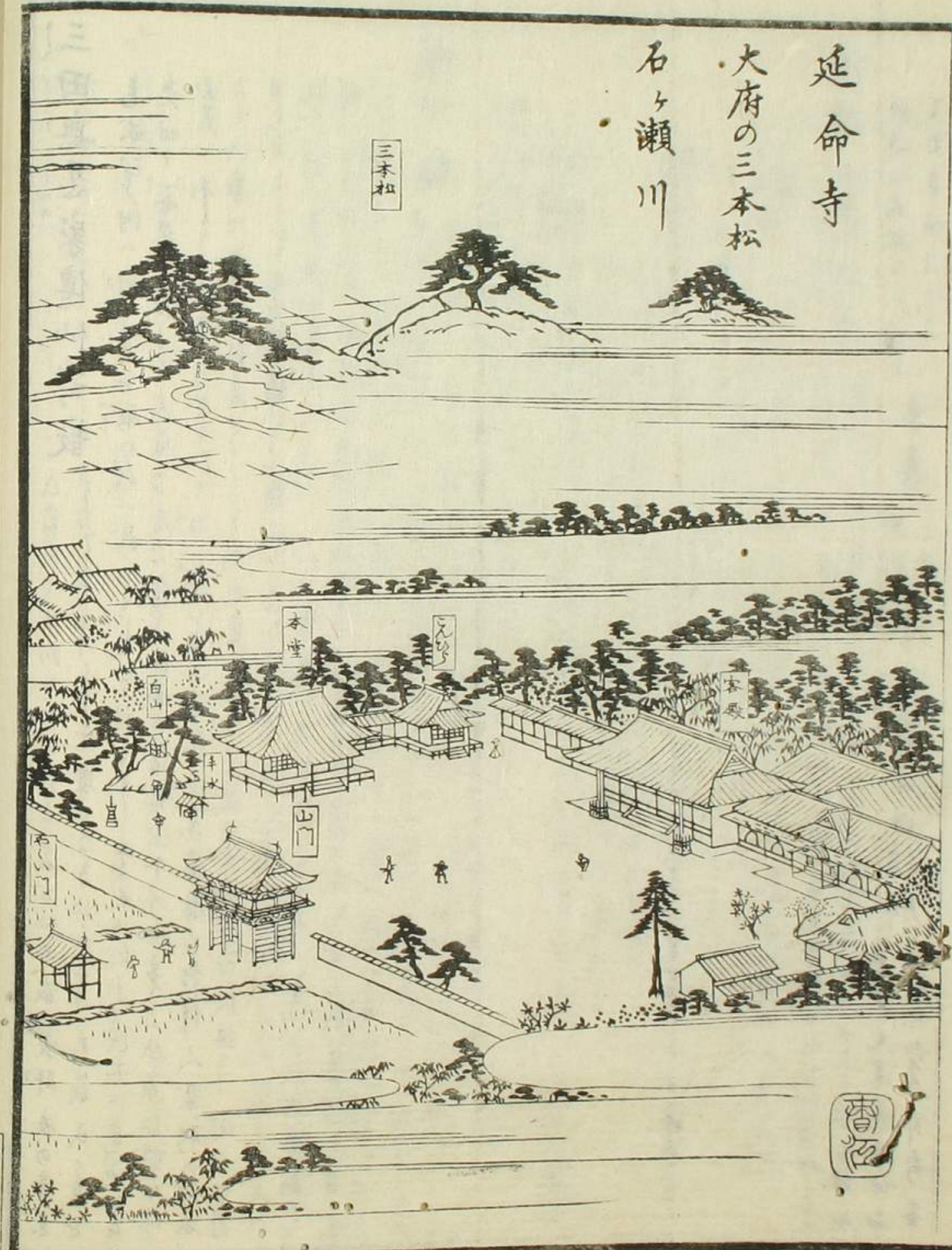
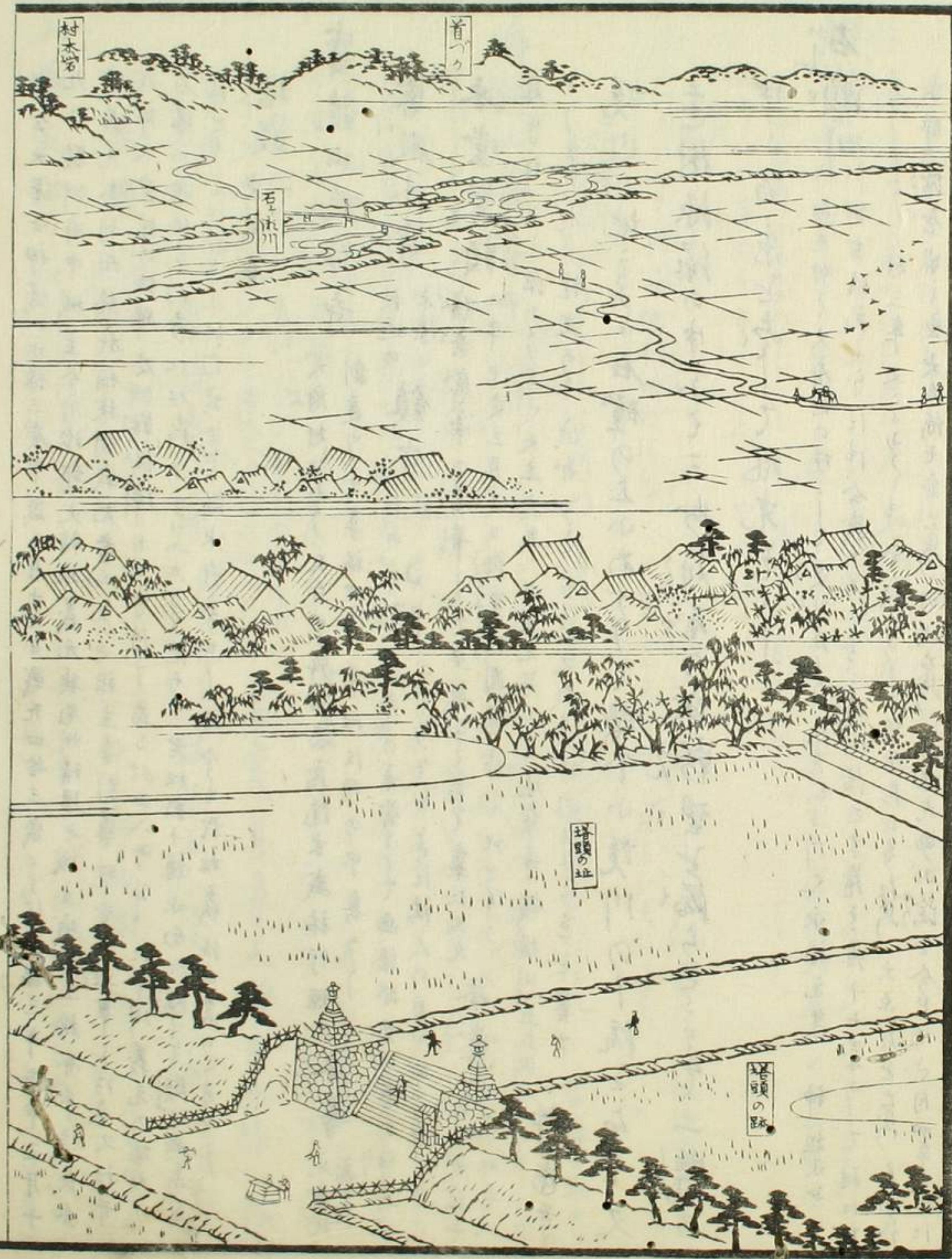
華や

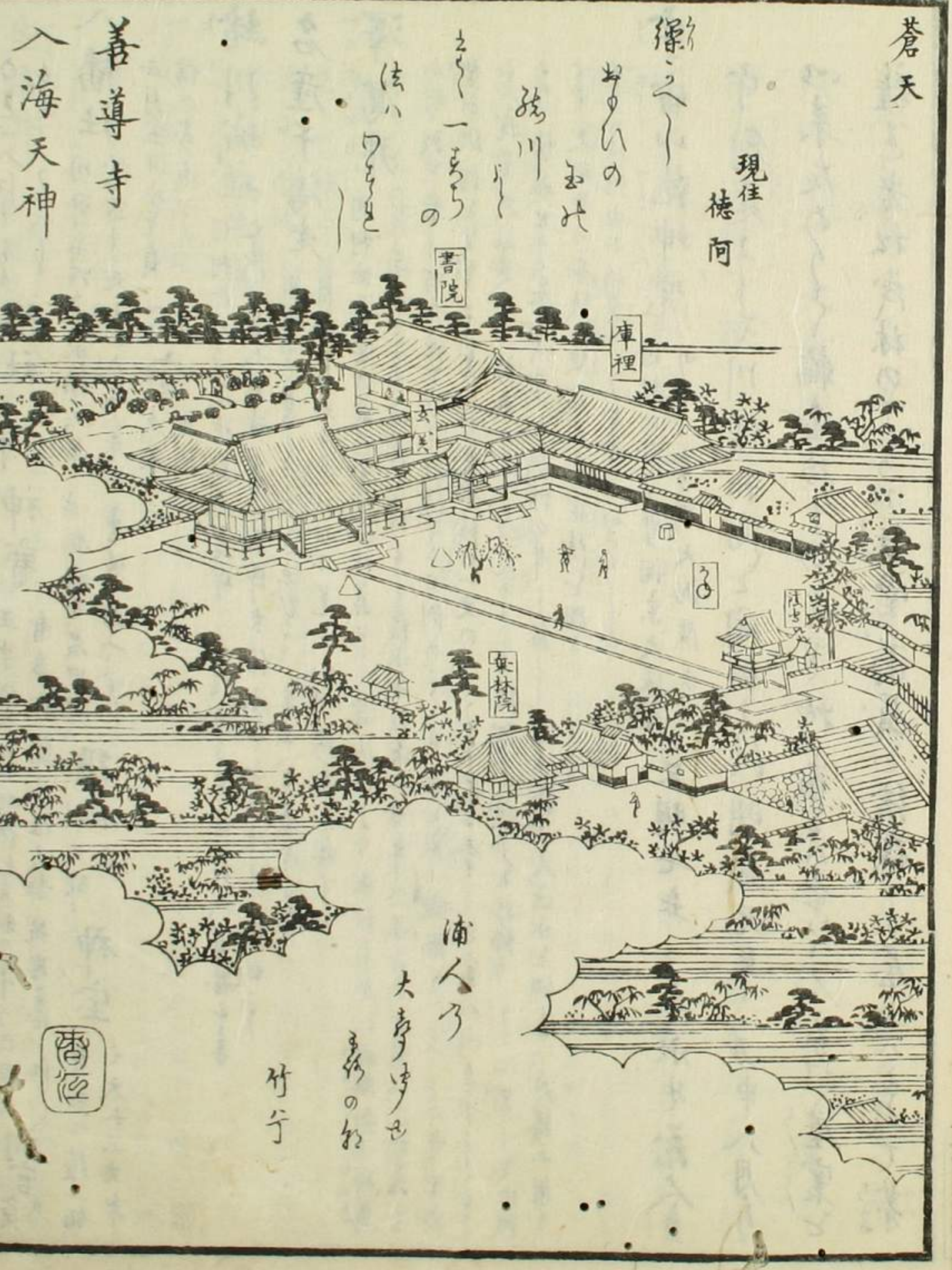
有松に

ゆかりあり

久しき

六ノ五





善導寺
入海天神

現住 徳向
御之
御のいの
玉地
法ハ
書院
庫裡

蒼天

浦人
大寺
竹子

香煙



春日上海鐘山
贈隆上人

僧瑞華

龍宮萬嶺接春烟雲物
乾坤望裡連祇樹花深
含海日浙江潮起冷山
巔登樓足擬賓王興卓
錫當知寶誌賢坐見南
溟千萬里不勞鵬翼擊

夕景
松風巾
夜小入
巴聲

八幡社 因所不知、永禄土年、辰水地、辰四郎、撰社、山形、神寶、正宗の太刀一柄、法に元和三年丁巳、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

信の歩道あり、祠官、久米、八月五日水地貞、祠官、久米

緒川城址 因村にあり、水地、人貞、守、こに、居、其孫、人賢、勝、子、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

名産、千海老、因村、あり、製、小、き、あ、ひ、り、を、運、送、せ、り、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

澤瀉井、因村、地、菴、の、前、に、あり、地、菴、の、昔、中、より、出、現、し、て、壯、觀、の、景、著、り、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

宇宙山乾坤院、因村にあり、曹洞宗、大派、派、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

守創建よりして、川僧和尚と、岡山と、以、明、應、元、年、庚、申、八、月、より、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

以来、あり、輪、番、持、ち、の、と、り、柳、苗、も、ハ、キ、人、家、に、塵、寰、と、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

離、と、老、松、茂、林、の、う、ら、小、巨、堂、高、厦、と、結、構、一、屋、上、ハ、一、と、て、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

と、い、く、昔、く、古、色、隠、然、境、堺、清、淨、朝、々、老、衲、香、と、焚、き、磬、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

供、花、散、燈、と、換、一、凡、俗、の、到、る、者、稀、く、て、白、雲、常、小、迴、廊、と、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

せ、る、真、に、塵、外、の、一、乾、坤、の、て、寺、号、山、号、も、て、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

涯、より、本、尊、親、迎、の、末、寺、尾、三、の、二、州、小、四、十、余、ヶ、寺、あり、て、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

又、水、地、を、賣、り、夫、丈、忠、政、寺、寶、喚、鐘、永、正、十、年、癸、酉、小、川、下、村、に、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

二世、逆、翁、禪、師、の、作、り、水、野、藏、人、貞、守、繪、像、及、び、木、像、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

舟、舟、天、の、画、像、ハ、こ、小、名、人、の、草、り、て、壁、上、小、懸、け、香、花、と、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

初、は、以、い、激、妙、の、音、曲、也、と、い、ふ、少、少、と、い、ふ、水、地、家、代、の、古、澄、文、多、く、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

失、し、て、傍、に、董、揮、寫、せ、り、舎、利、數、千、粒、又、明、十、九、年、五、月、十、八、日、名、古、行、年、五、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

始、ま、り、放生、池、山、門、の、内、に、あり、池、中、に、草、葦、と、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

伊、久、智、天、神、社、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

伊、豆、寺、同、好、聖、小、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

生、路、井、撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

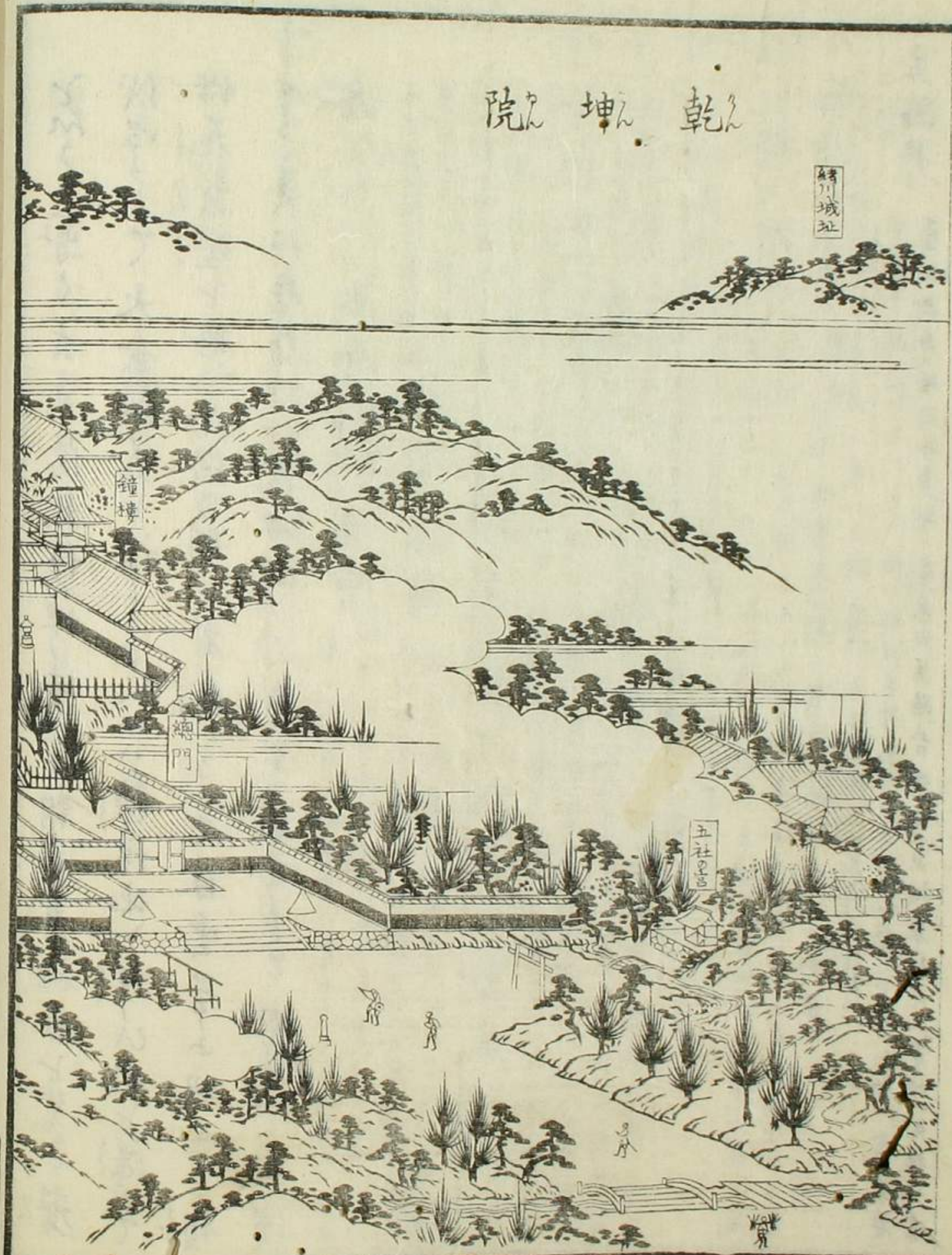
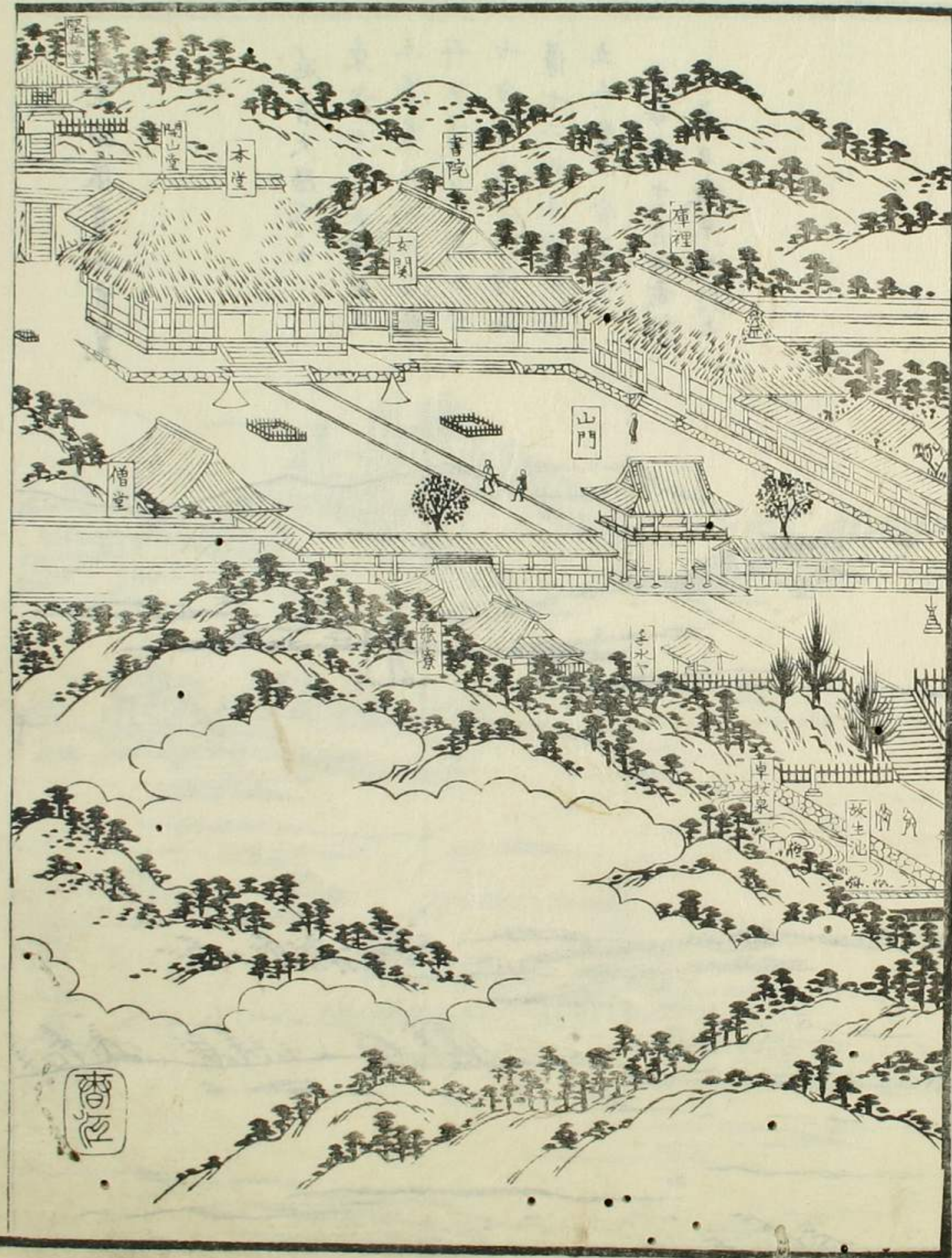
撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年

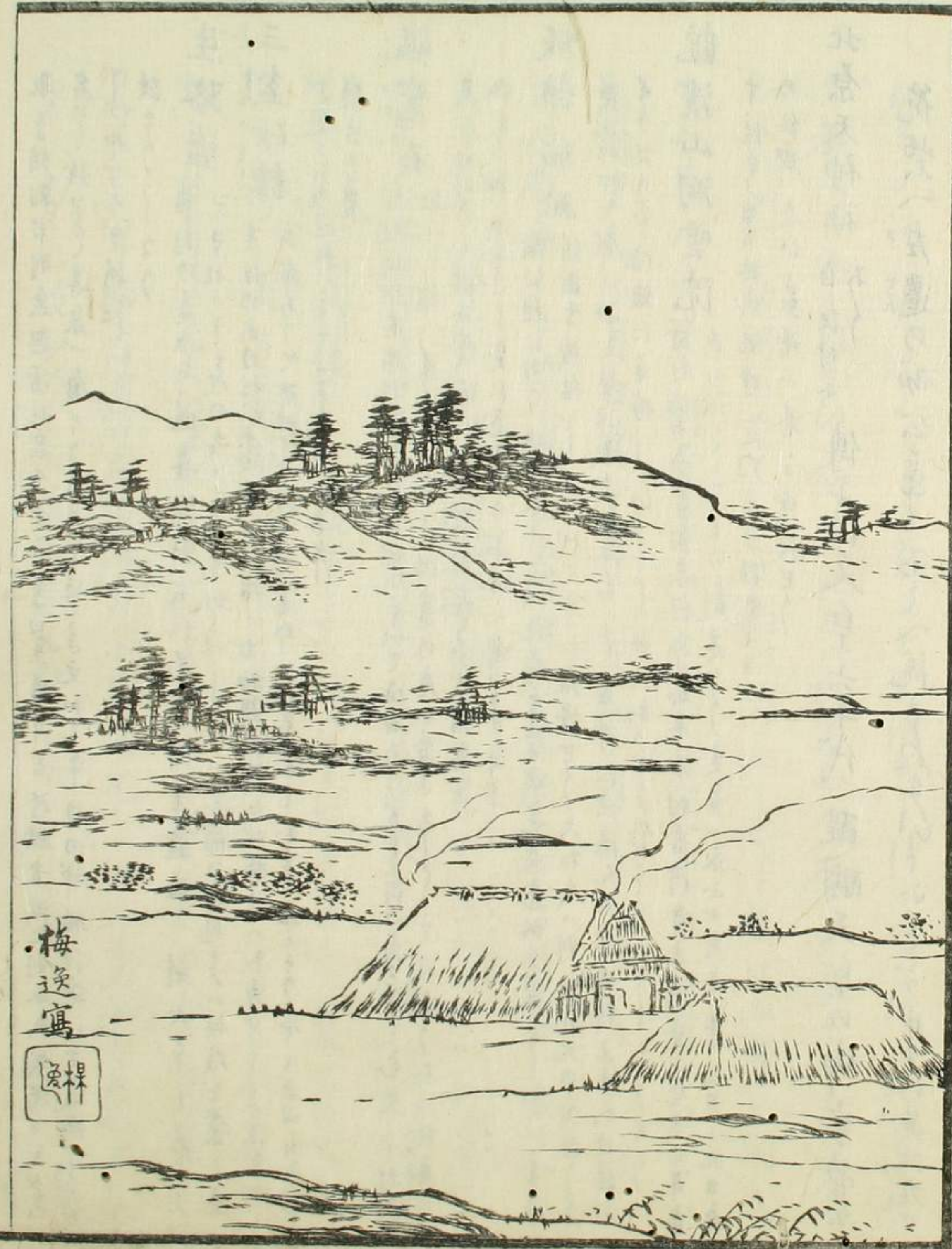
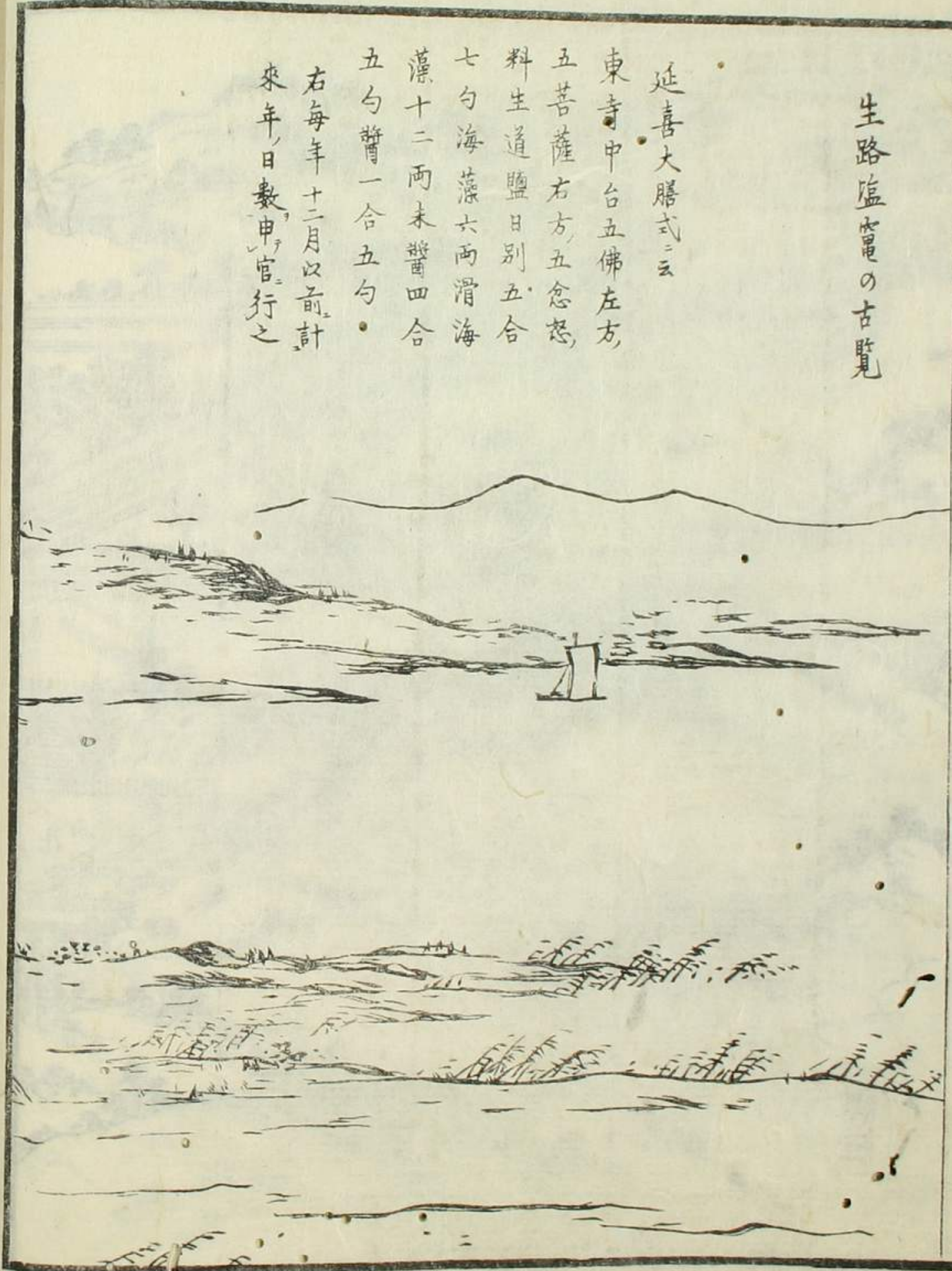
撰社、山形、神寶、辰水地の遺領、天和三年



生路塩竈の古覽

延喜大膳式云

東寺中台五佛左方
五菩薩右方五念怒
料生道鹽日別五合
七勺海藻六兩滑海
藻十二兩未醬四合
五勺醬一合五勺
右每年十二月以前計
來年日數申官行之



梅逸寫

梅林

取弓刺岩則泉忽湧此泉至今存号曰生道井若汚穢者汲之則水色咸濁云云今名の残アとして其泉ハ廢せり昔ハ生道と云文和三年安田神領は進にし道郷と云し中ごろ生道に改まりしなり

生路塩 同村の産なり延喜三計式に尾張國生道塩一斛六斗と云今ハ東浦の諸村多ハ陸焼と兼ふ事保の末同村ハ東田某遊り由物類品薦に砂礫昔ハ和産也事保中ハ

三盆砂糖 在布ありて流疎より種と傳ハ高野に種ありおと尾えり今も東田村の國君ハ貢ぐ

鹽竈石 同村及び有根村陸と筏の地ふまへては石ありりといふ其の産てまも里ハ村民取りて撥りたり陸と云く時竈の産ふまへて陸焼り石に粘着し尾とありて腹ふ腹もれハ病積腹痛なり諸病に治す神延りて實に昂幸の鹽石に類するなり

坂部城址 坂部村にあり從五位下久松紀前古昔是蓋古城と築きしなり其子英比の母ハ世に英比殿と稱す西ハ若神ハ應流之又傳通院夫人後孫ハ長子孫ハ新信俊に再嫁し其子ハ世に知るなりハハにあり

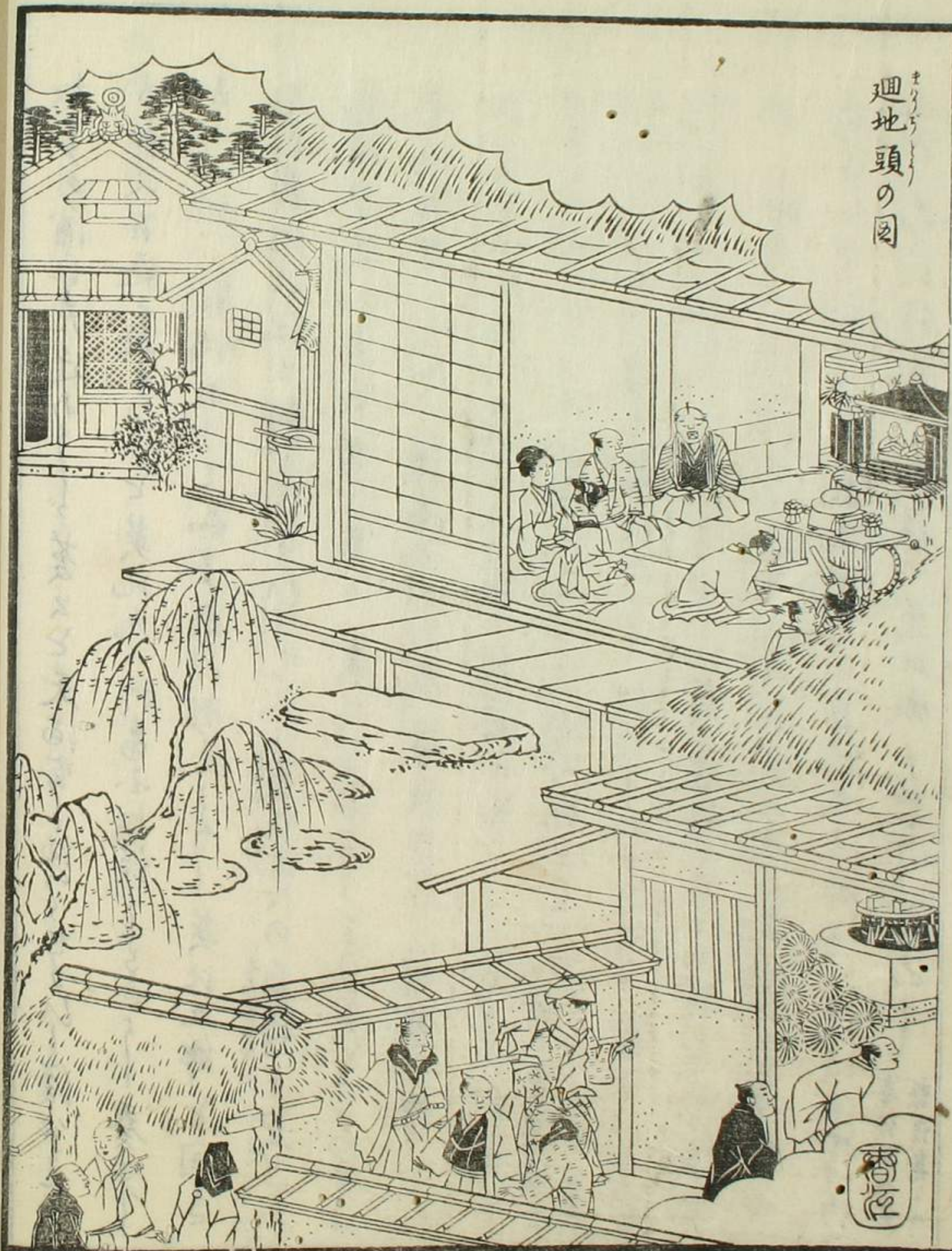
龍溪山洞雲院 同村にあり曹洞宗同郡加木原村普濟寺末明應二癸丑の年當邑の滋之定堂の創建なり定堂ハ永正七庚午年土月十九日卒す法号馨林宗瑞禪定門下子孫代々の位牌及び家譜一卷と寺傳あり

北原天神社 白石村ハ傳曰人皇六十六代醍醐天皇の御宇菅公花紫ハ左遷の御公事もあり流されし中ハ英比丸ハ

知多の浦に左遷ありしが菅公と天満宮と傳はるなり後公連方も都へ召返されしと英比丸ハ後公に伝はるなり奏せしむ小刈勅許ありて知多郡に居りし英比五郷と稱す今其比ハ社も創管多し今英比五々の白袴といふハ當時里民ハ月白袴と稱し菅氏と稱せりといふなり英比殿卒しし後南に民崇敬の余り彼像と作り今たおらそぞ民家一日げ吹雪小彼像と稱し立白の上ハ新薦と稱す其妻ハ是と稱す是よりて地改と云物に彼像の傍形地改ともその像ハ古報より傳はるに是より菅公の公連れを過く満りしといふハ菅家後集ホに詳るれと英比丸と稱しハ是に依るなり地名ハ延喜式以下の古書小見えしやゆはは左遷以て小英比丸と稱しハあやまり少く亦に伝はるなり後小英比殿と稱しハ

寺傳玉師の報集二ハ

廻地頭の圖



阿久比と書きまて刻
は英比とつり

阿久比神社

神宮村にあり後に八幡と
稱す又一の宮ともつり

延喜式に阿久比神社本國帳

小従二位阿久比天神とあり是と又一の宮と稱するは神名式
に高野三座の内南社と云く中一少をとりはたに一の宮は是
おろろろん村名と兼ぶるに稗の初洲比英うろゆえつりの讀
小英比とあやまりて稗の字と用ゆるるん

箭比天神社

矢に村あり今無中極日本國帳に後三位箭比
天神とつり是と今此社の中世國君御傍にあり

鳳凰山平泉寺

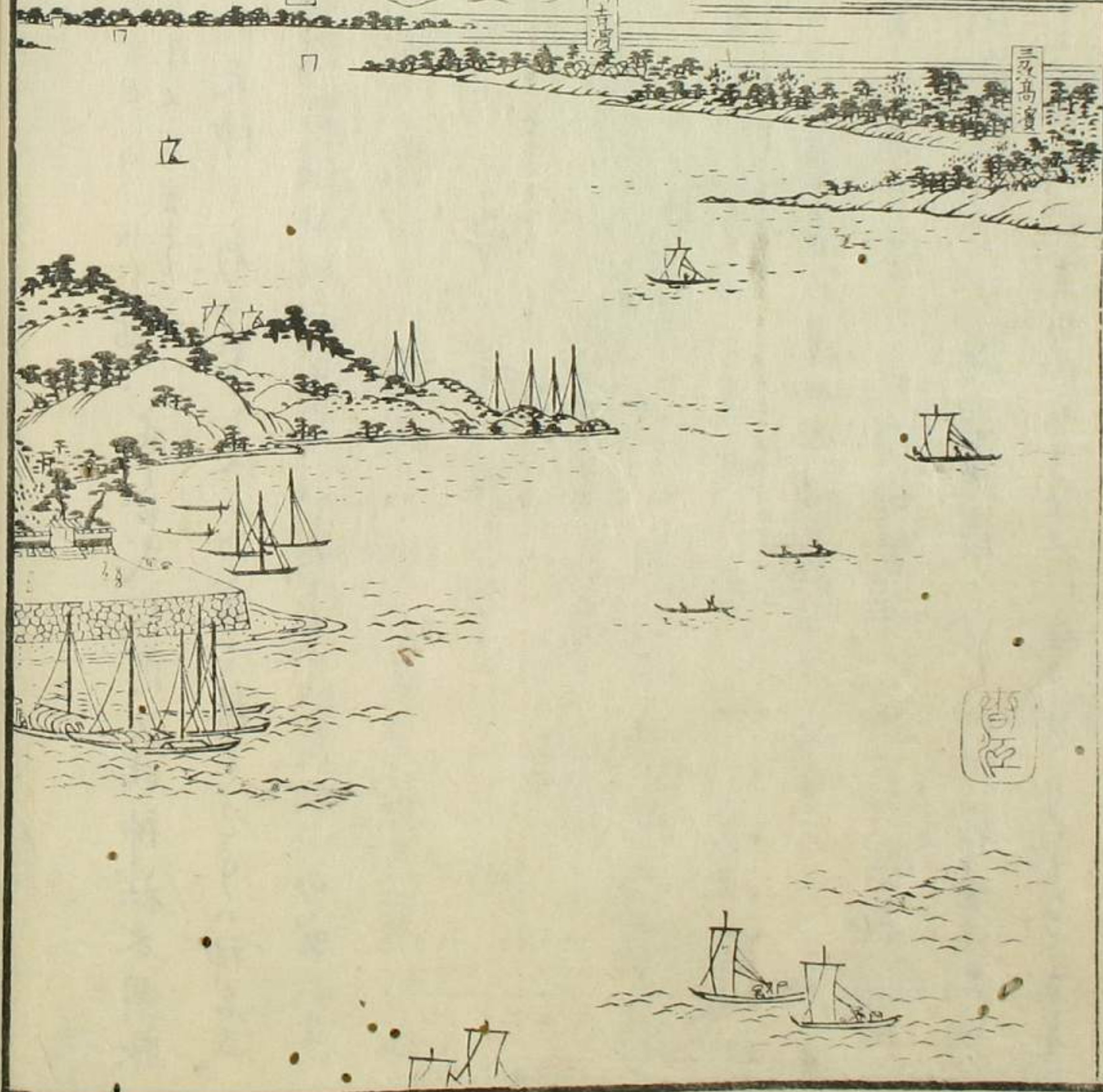
角屋村あり園月坊と号す天台宗也田家院末

當古創建の年月詳なき

開基ハ法守守夢之むいハ大乗坊といひ又古き棟札ハ
平樂ともんをり平泉の泉の成ハ樂の字に誤まるとん
相傳ふ文治六年八月十五日右大將源賴朝云當古に授帝ハ
承院堂にて月と貴ハ多ハ所坊の名をとりハ小寺夢則大
乗坊とせハ右大將月の明らるるに礎ハきりのもろさえ

亀崎

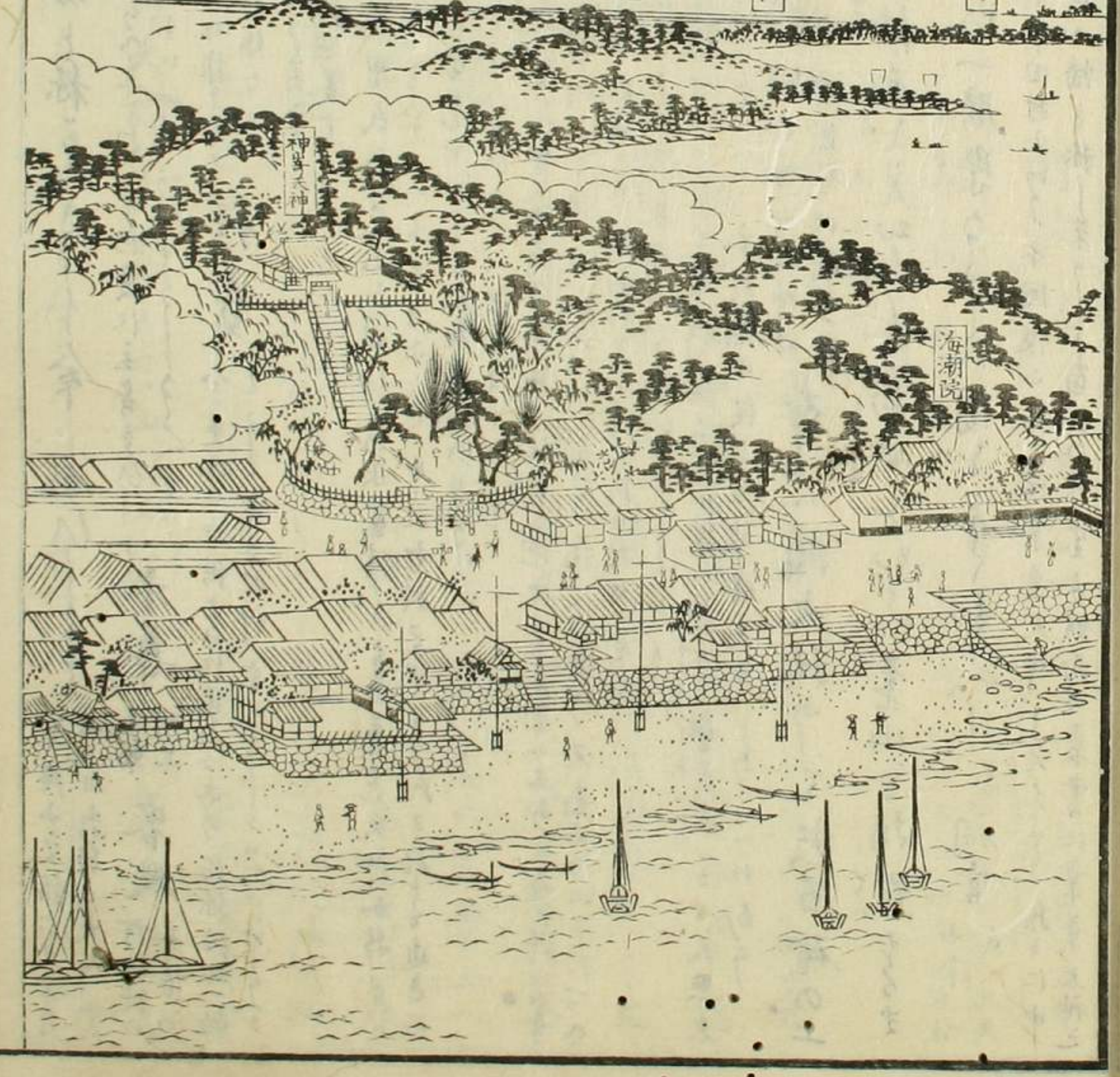
當所ハ船着
して一千余家
漁村なり
富饒の地
直家も少
らば又眺
歩閑きて
の百系千
列あり
南と北
の依久
架橋
えい海
ま



勝景

富士見道元
鹿傍
とあ
ら
ま
な
を
代
海
浦
沼
巴

神寄天神



後山圓月坊と称すきりし令のひし

東渡小文治六年十月廿五日初詣の大御堂

寺に修るうらみりてこれに修るに三きりし

本尊 不動 客殿 阿彌陀の本尊と

八月十五日と云ふは修るへりやま

什寶

今更比の虫供古に用ゆる西の阿彌陀の二軸をりしあきれ什寶と云ふりし

唐松井

因村のりり里民の夕忌と云ふ此の水甚清く是を慈覺大師加持せしと云ふに松の木あり人皆是を仰ぐむ左鹿の井と云ふ

龜崎

乙川村のりり一里余の方所へ地中して水面の二ありは清く又南の山下に一の名井あり寒暑も水清く水ありて清くはれ村中是と云ふ

神崎天神社

無誘村のりり今神と稱す祭神 神日本盤余彦と云ふ天照太

例祭 二月廿五日 三月十六日 撰社 天神社山神社 南社八願大社にて扱百礎の上

小りの眼下に海面と云ふ一島嶼と云ふ一臺山と指點するま

業葉天神社

下田村のりり本因帳小從三位業葉天神と云ふ一御所に中世八幡と稱す

例祭

八月十六日山車と云ふに南北八人並千羽に及び

入水天神社

上田村のりり任吉社と云ふ今任吉と稱す本因帳小從三位入水天

天龍山常樂寺

成岩村のりり浄土宗 宗師田法福と云ふ あり文明十六年甲辰空観宗

覚上人の因基りて南郡西山派の本寺と云ふ小永祿三年庚申桶

狭間合戦の時 神君大言村小清と陣ありしが徳田勢のりり

小清危殆ありきりしと諸川の塔に水也四部は徳と云ふ

一旦常清とて退くはりしと云ふ成岩の天童山へ

案内と云ふ旨令と云ふと云ふ小依と云ふ山嶽小南寺へ成らせり

その時のに御所上人 清前と云ふと云ふはけ夜に清海

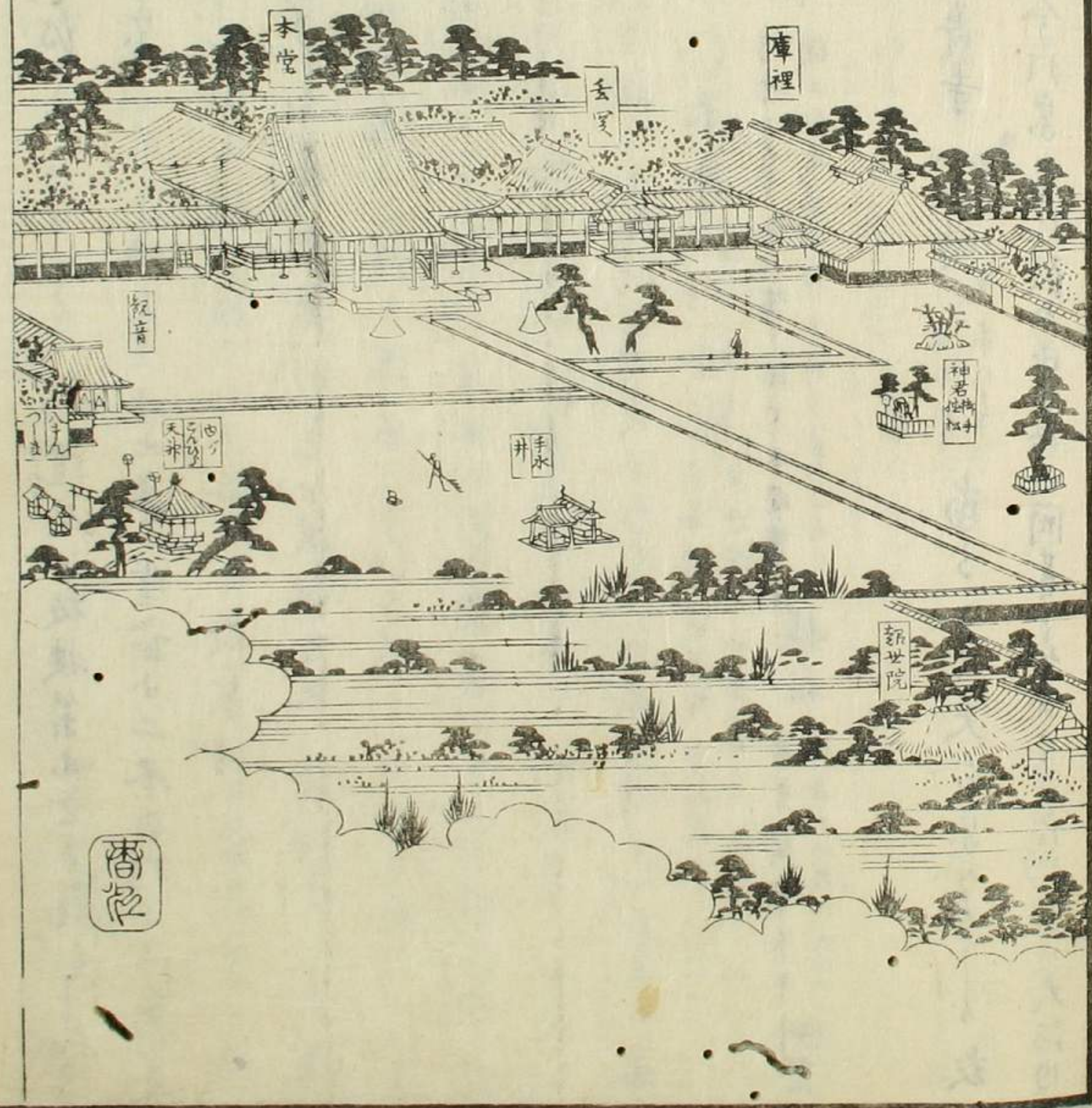
陣清少勢と云ふ愚僧と云ふ子の内聽本と云ふ者大力の勇者

と云ふ彼に一山の大臣と云ふと云ふ山内の裸馬と云ふと云ふ三あり

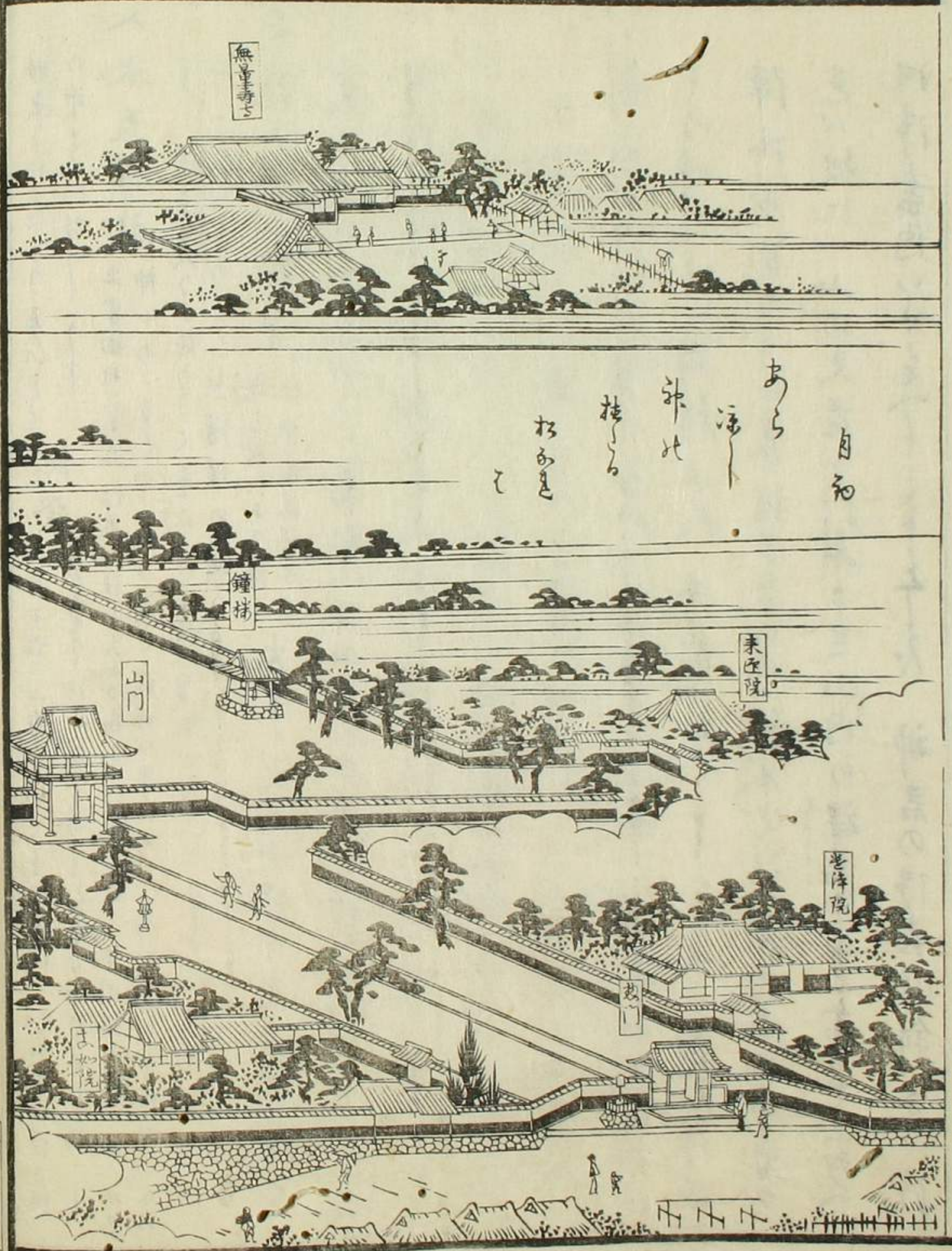
れ清毒内と云ふと云ふと云ふ神君の清表と斜あり清

常樂寺
無量壽寺

御子権
のねを
えま
えま
道直
辛くは
枝葉もまき
くさ代
あま
ま



香



あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま
あま

無量寺

山門

鐘掛

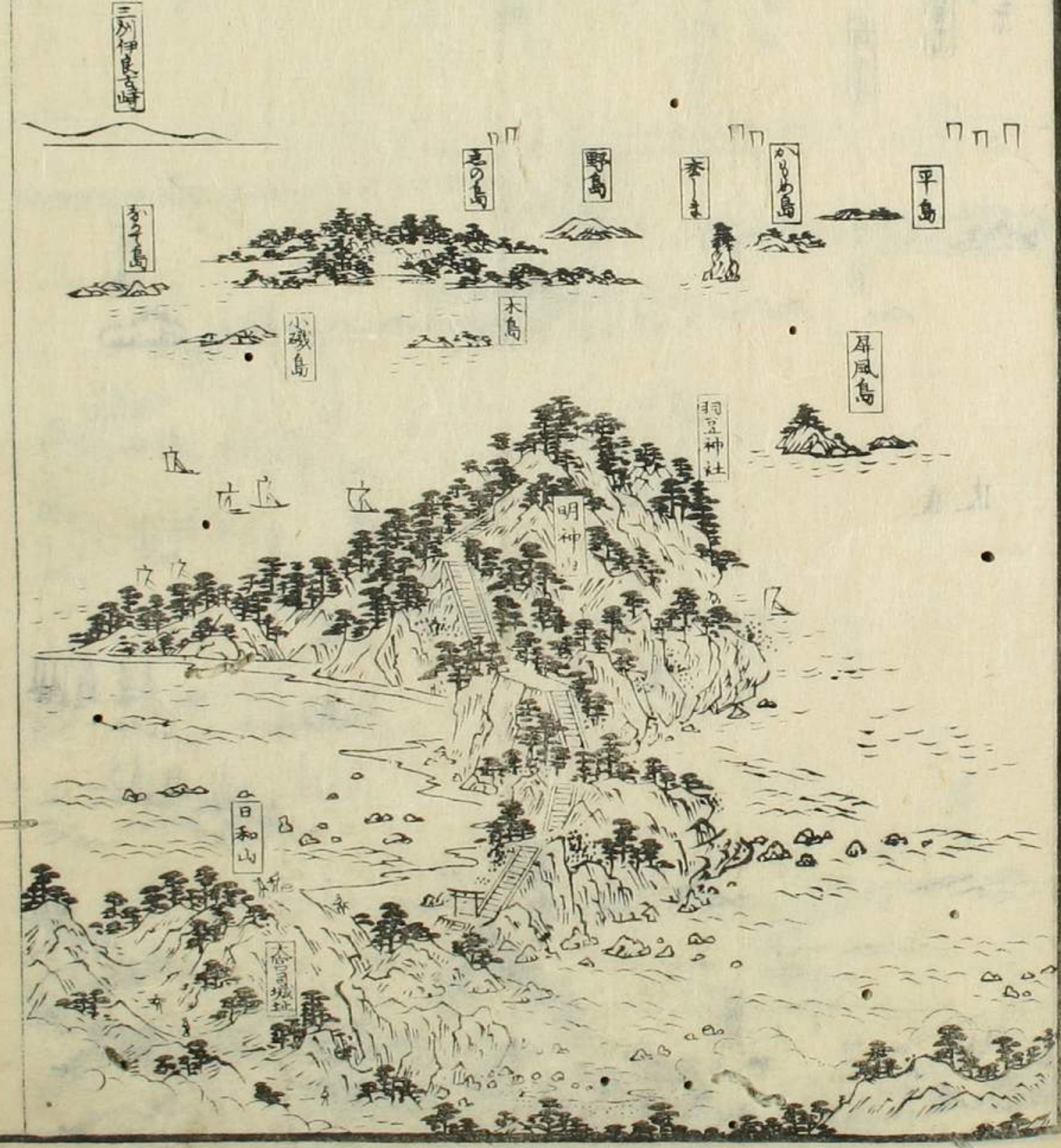
東院

西院

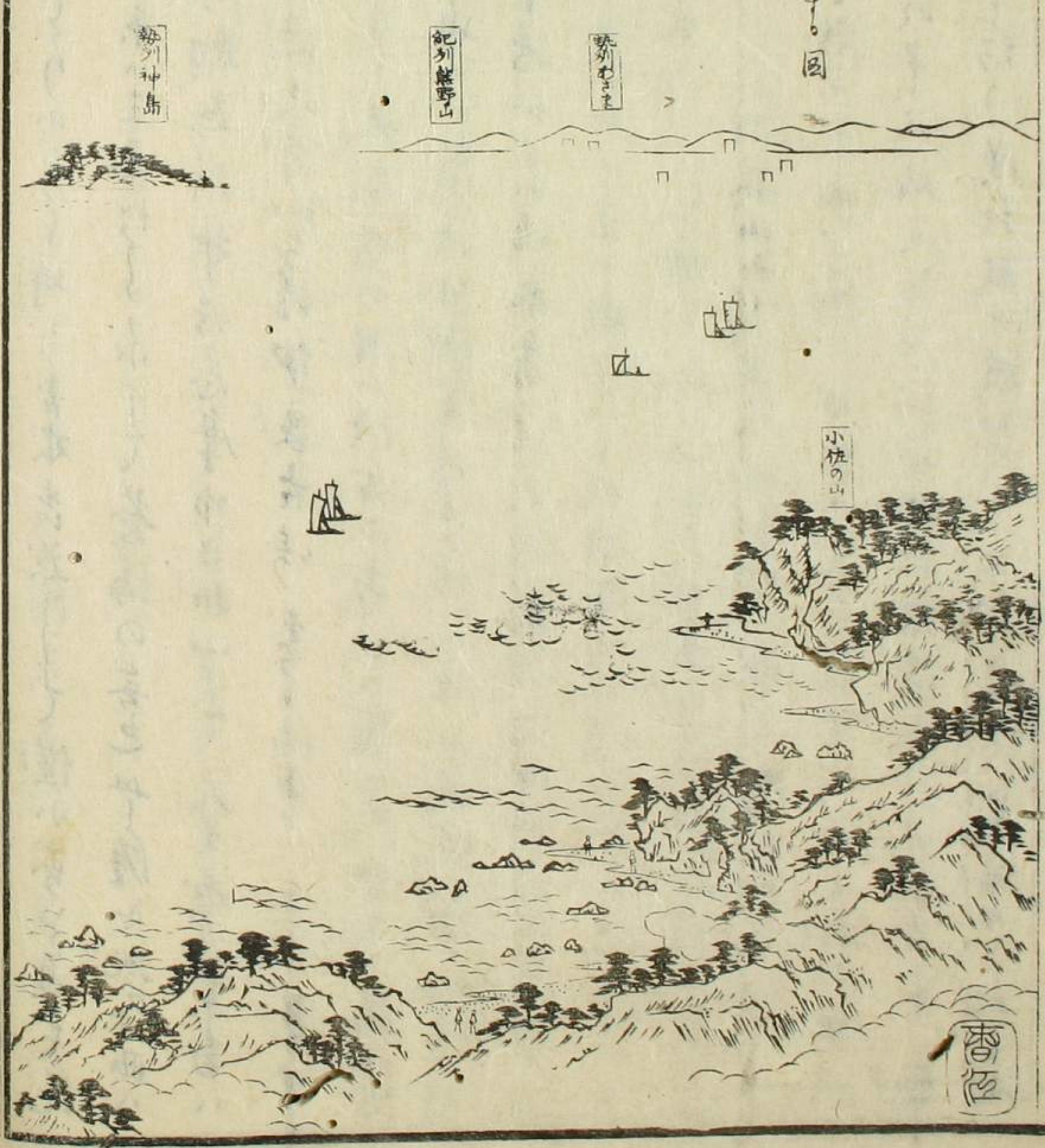
今も松寺宝とて後天正十七年堂前小二本の松と涉りつ
 ら松といふ今も淨手松の松と稱して杖系跡小松茂り此
 昔ハる所ありしが秀吉此の時迄と没収と又 國祖君初多浦
 小澤を振の初あるに救日滞る一ひる依之のゆゑ賜り
 たり今に歴然とて迫き以半田村れ小栗某とて一り也旦那
 あり救千の資財とて附一堂内の庄農と修理せし七宝と
 涉り朱粉と施してその養天とて九品の淨土小松とて想
 いとせり ○本尊 三尊 起世院 遣淨院 真如院
 未迎院の四宇あり
 撰社 若宮 熊野春日 稻荷小の教河あり
 成石天神社 同村にあり今八幡と稱す本國帳に
 從二位成石天神あり 是なり
 六月十五日 八月十五日
 羽塚山無量壽寺 同村にあり東を教
 未未院家あり 尚も之とて天台宗ありしが教
 了善の内今れ家育に改り中興の開基とて了善初りハ大河内

最系國連といひ久く 禁中に在りしが出家の後尚もに來り
 親嘗上人とゆ依して改宗次 三妙少も同馬のちりり共
 祖少上人の名付とて 本尊 阿弥院
 の三像
 塔頭 信光院淨土寺教 光坊の三宇あり 聖徳太子淨作の河添院の木
 縁ハ奇品許多られと略す
 武雄天神社 長尾村にあり 俗に天王と稱す 素盞烏尊ありて大己貴命
 少彦名命とを殿に奉り 本國帳に從三位武雄天神あり 是
 を大社して境地の幽深 神威の儀然とて 例祭 六月十四日 撰社 居守社 孫九郎社 神功皇后社 八幡社
 神威の儀然とて 同十五日 撰社 若宮社 山神社 白山社 天満宮社 神
 峯社 大日靈尊社 本境内 祠官 若田氏名祖ハ若田果負とて 尚村の成りあり
 及び境外に甚多し 及ぶ境外に甚多し 祠官 若田氏名祖ハ若田果負とて 尚村の成りあり
 城址跡あり又若田塚とて之の跡ありこれ果負が 墳墓ありといふなり
 豊石天神社 大足村の街後松林の中にある 本國帳に從三位豊石天神あり 是
 城址跡あり又若田塚とて之の跡ありこれ果負が 墳墓ありといふなり
 壬生天神社 古布村にあり 本國帳に從 三位壬生天神あり 是
 富貴城址 富貴村にあり 戸田孫公卿の遺跡に於て 其跡に下は溢るる農家のこに
 後多者多ハ富貴とて 是なり 祠官 若田氏名祖ハ若田果負とて 尚村の成りあり
 阿奈志天神社 大井村にあり 本國帳に從 三位阿奈志天神あり 是
 海胤腸 大井村の名産ありて 毎年 國君より 朝廷及び 將軍家へ 奉り上り
 其製れりといひ也に 持戒教密の契あり 腸醬と酒和りて 子と銀味

然朝微情堪
興至此開羣
象乍分明海
濶水深潮有
力風緊船小
布帆輕南溟
無邊水汪洋
与天平青山
無古今態湖
沙消長僅視
虛盈山高地
勢極虹銷雨
初晴怒濤兮
駭浪鎮日拍
巖鳴島嶼峰
巖海面浮布
置參差似棋



幡頭寺
日ひ和山わより
平臨へいす。因
精一
有山臨海時
嶺屹屹崢嶸
上有靈祠号
羽豆山亦以
羽豆為名石
磴扶筇上嶽
巖攝衣行踞
踏踞席豹下
瞰觀蛟鯨先
起小魯數窟

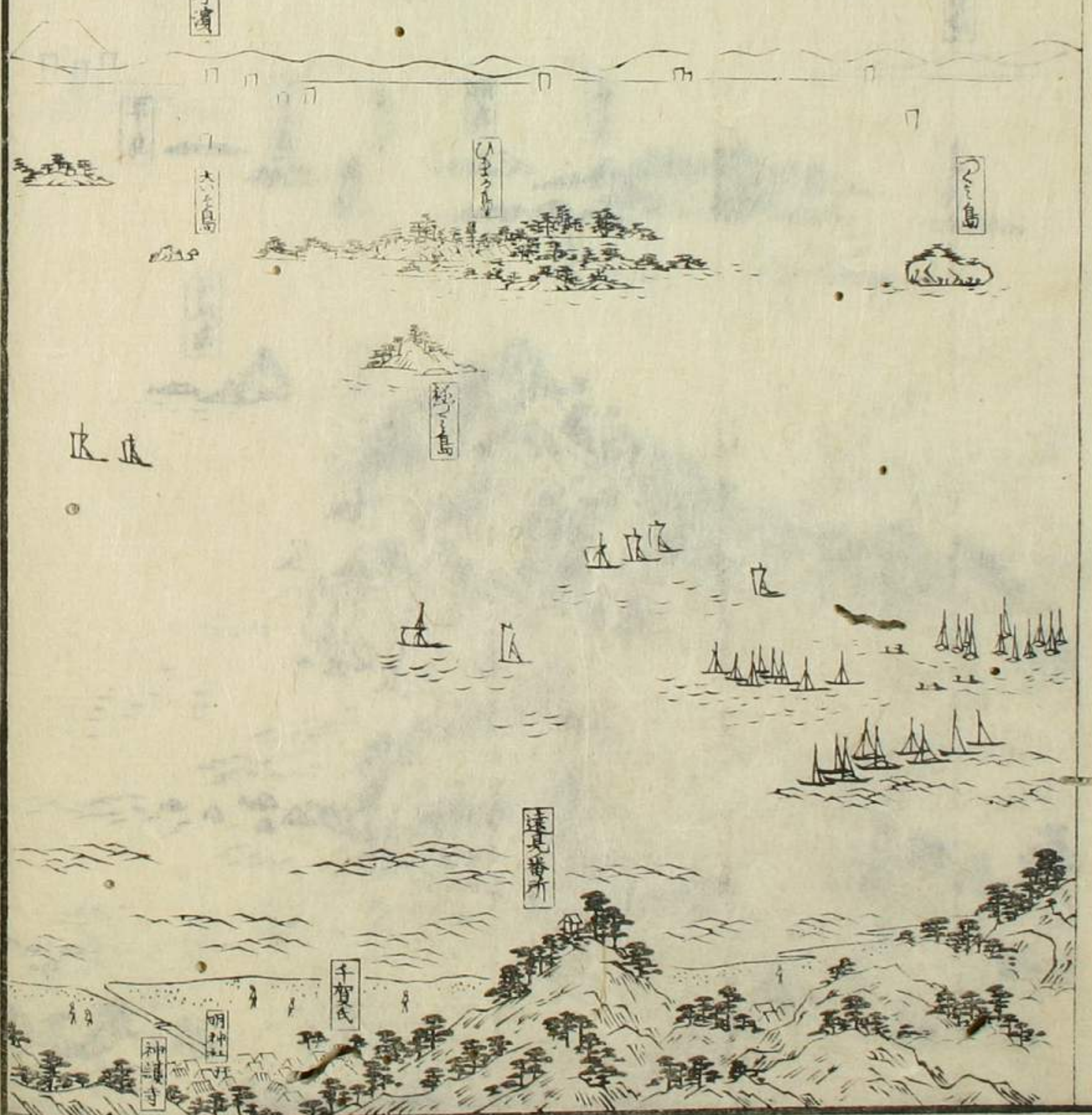


香

秤俯仰看見
 無窮物悟了
 吾一粟生山
 水今日全吾
 有柯須人間
 問幾纒

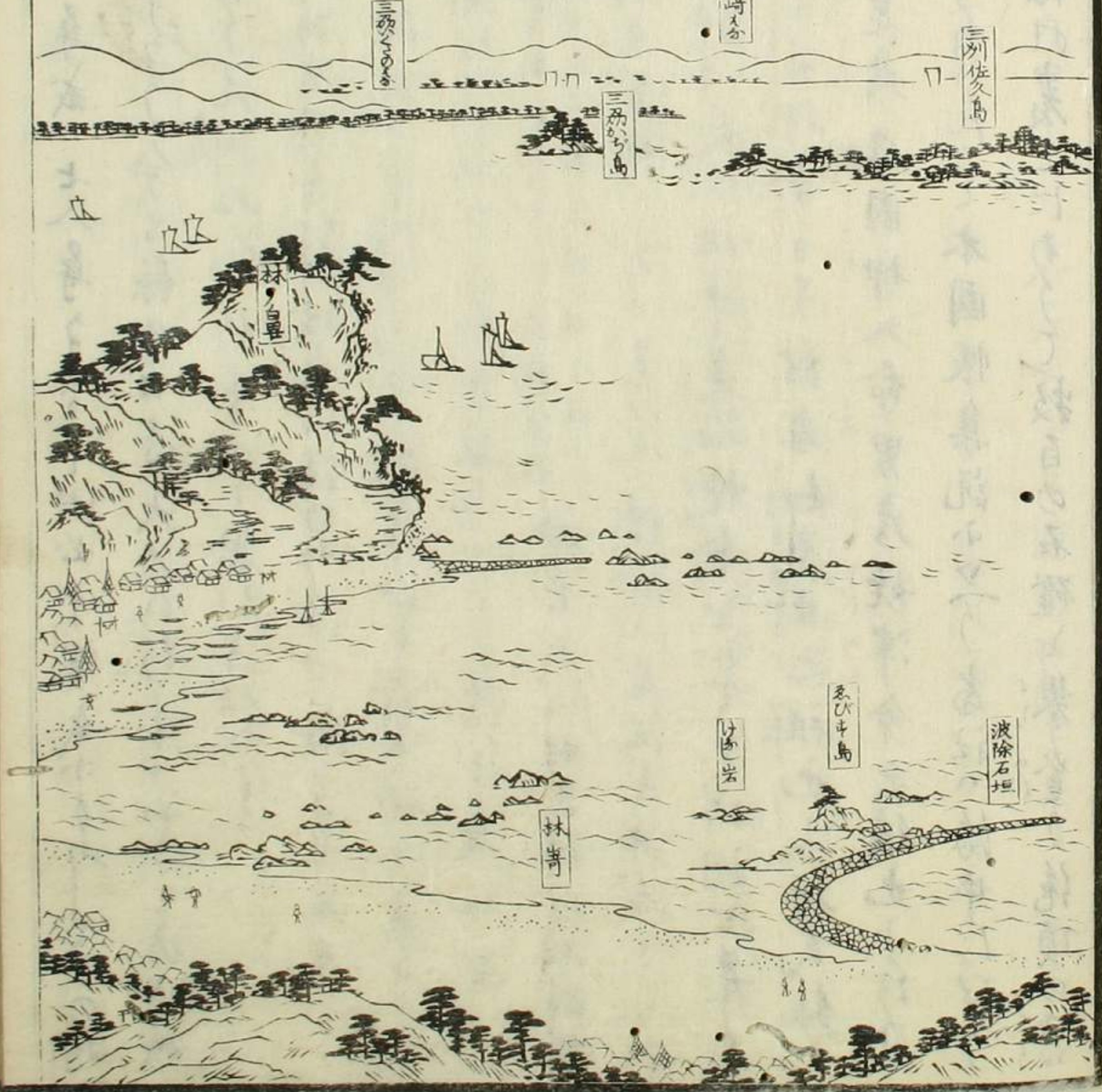
和雄

うみ山の
 けつねき
 まの
 あるまゝ
 への跡を
 ま
 駿馬山
 尾のうらま

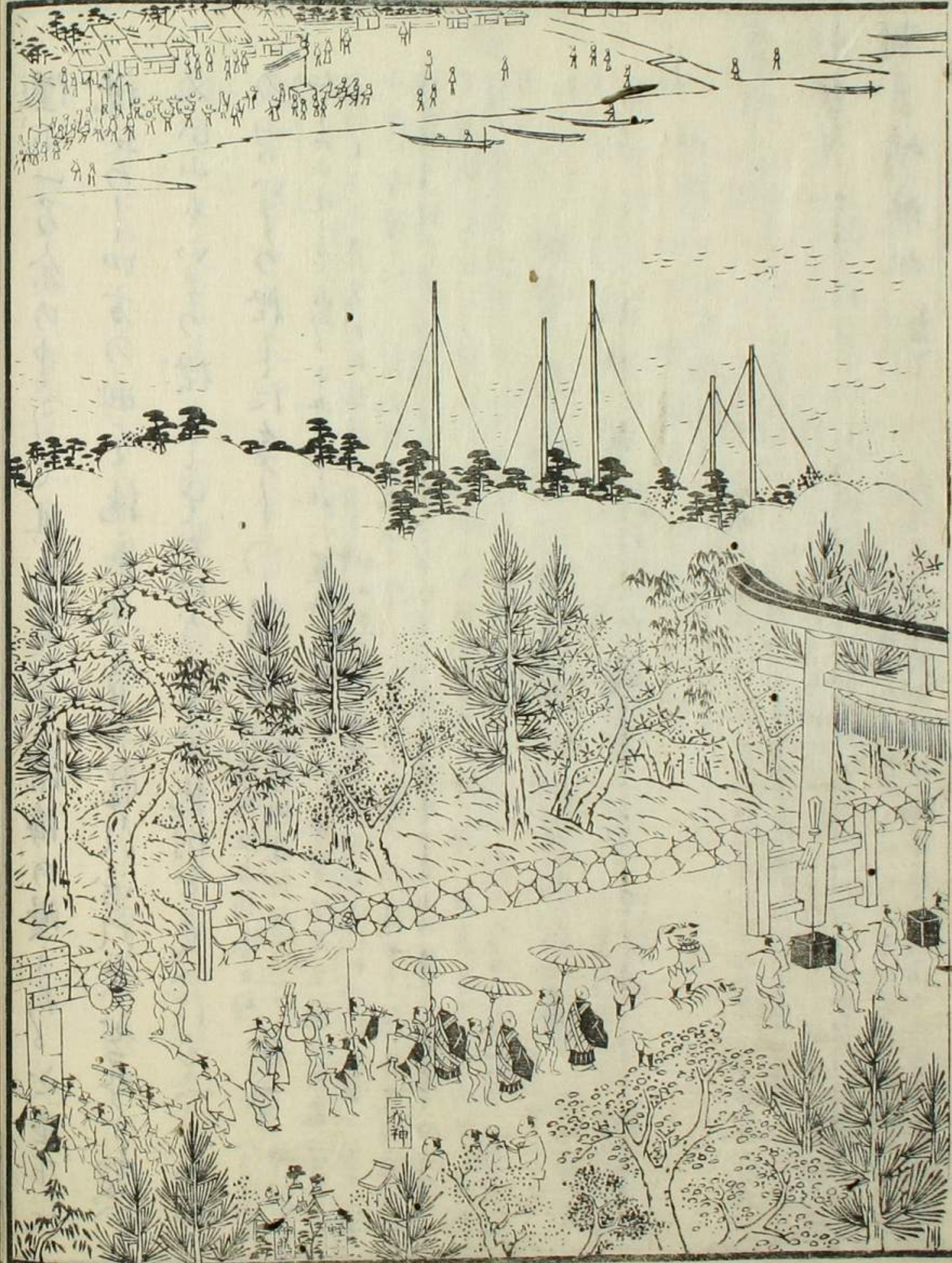
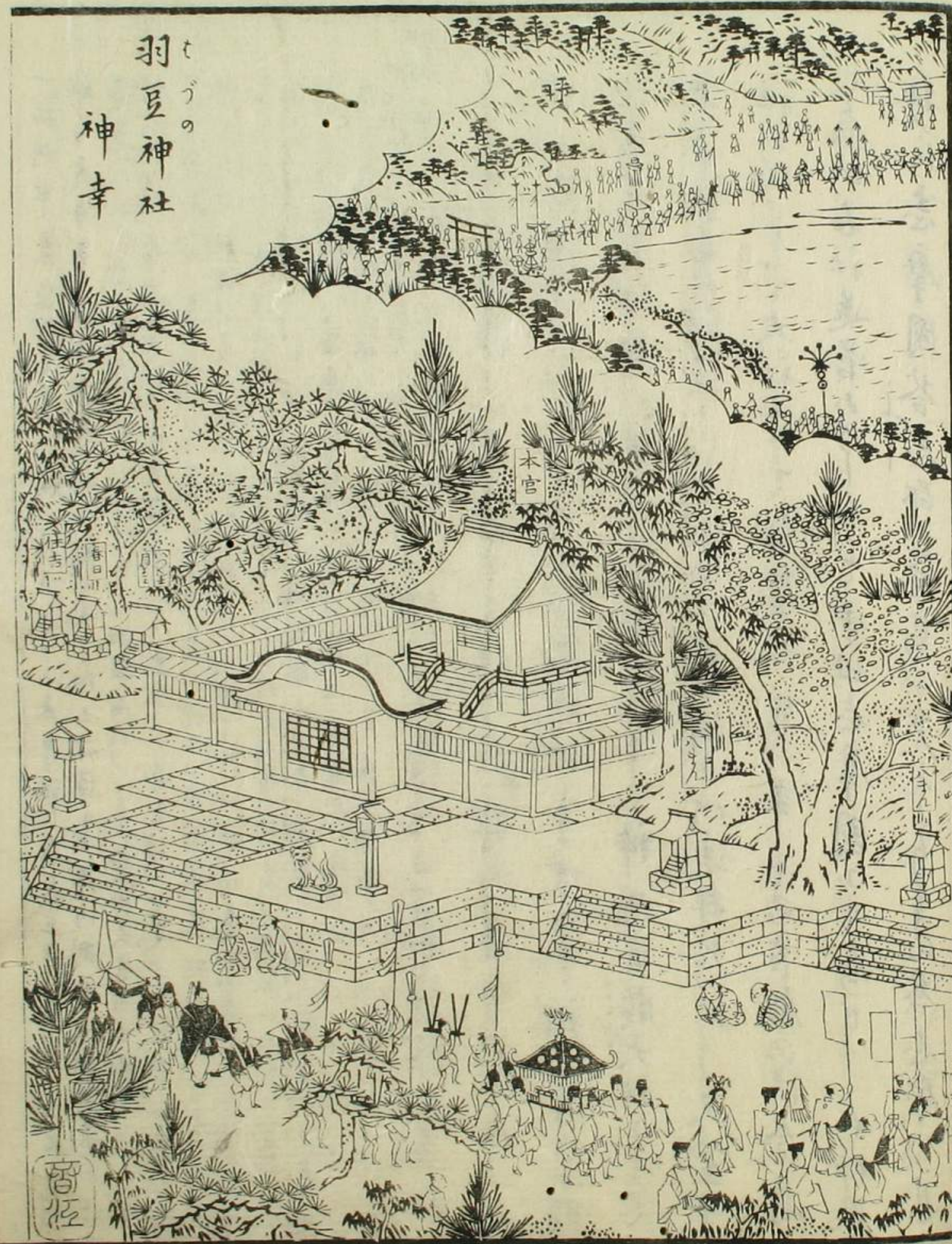


典寿

まま
 さの
 りハ
 い
 まの
 の
 秋の夕
 上小
 海
 羅塔



羽豆神社
の
幸



一品將軍宗良親王より此城に任居りし太平記に應永三年九月十八日銀座刑部々我師受流の志根尾の城小楠を電一付去波浮少勢同刑部大楠取康亦に
美房をされて即旨七十三人より一徹服居りし勢田大宮司の城尾流の國
彼はが流へ居させりし十餘日備居りし數軍の兵とつた夫より伊勢伊賀と經
て吉野嶽へ登らせりし是より久々信法宮の城小一品宮宗良親王ハ十餘年の去
秋と上世信法宮のるに送りむ久々せりし正平二十四年の夏光資と信法にあり
在きりして尾流の志根尾へおさせりし同玉御豆流より清和たりし伊勢流と
行て芳世(清上)たりしと志根尾へ細川孫元の長岡集とより書書小尾流と
番流の時代が士卒の負人等風邪小感冒せりしと
黄砂湯を用いて治療せりしとありて古き城址也

篠嶋

師流の志根上一里許あり

傳へし篠嶋日る加勢佐久島は

三島と所の者ハ三島と稱すといは流りし勢少度會勢小尾山
田庄流橋よりよりされし伊勢神流年中の干鯛三百六十頭
と負す又伊勢流末社十六社ありし、神明宮願大社よりて
あらしむの神社よりふた二見が浦小は遠拜所なり又八王子
社ありし是も大社よりて伊勢流宮の年々の古殿の持令具
といはる社遠宮ありしと中世志摩國小もふせりしと神鳳
抄に志摩國荅志郡篠島とらんよりその荅志郡へ其

近し寺院も亦十一宇あり文祿年中豊太岡尾張海西郡
の長流よりて伊勢流小流一篠流と尾流不定られしといは流
より四をとりしと勢志三の法山一回顧小たり微風とより
流流山岳と動し舟行甚難し南へ海上渺くして眼と
さくさくするものなり無色の大洋小通ど真に一小天地よりて民
屋二百餘家小及べり又南の眾人といはる小流流せりしといは
ども土人といは混ざると島の中よりしむ區別せり

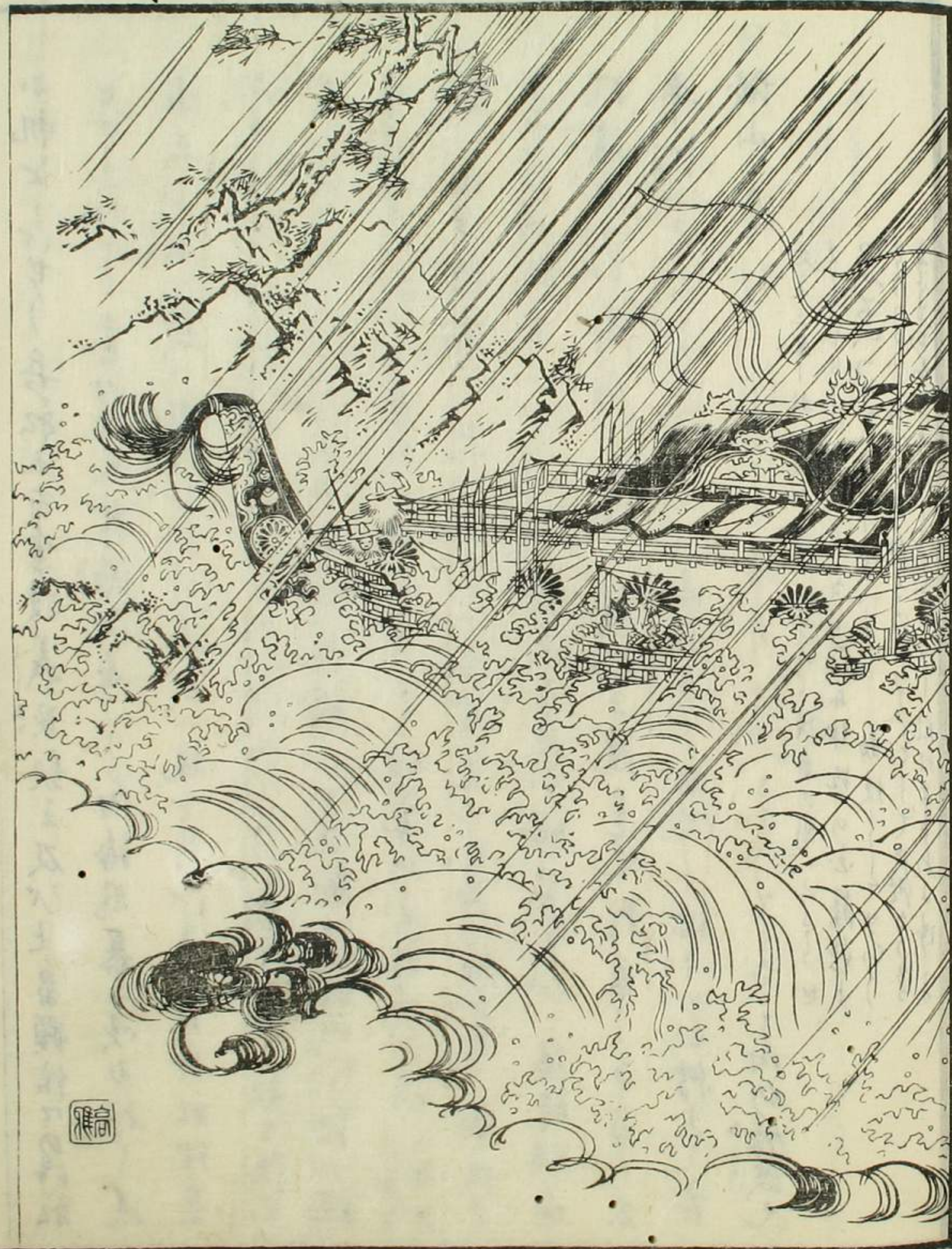
- 弊島集 篠島書懷
- 翠篠 岡孤嶼 神區 天一 涯寺留 帝子迹 人想地仙
- 家五 瀨連 山近 三河 隔岬 除回 巖瀟 湧雪 寒渚 石生
- 花魚 眼輝 朝日 蜃樓 擁暮 霞若 无左 遷罪 見月 送年

古城山妙見齋

篠流にあり曹洞宗 因所正法寺あり

南朝の延元三年官軍志摩國へ

下らせりし時伊勢の大湊より船とより風と流るる九月十二日の
宵より風止雲收りて海上よりまらされし人縦とよきて海天



小帆とふせり兵船五百余艘義良親王及び北畠顯信の舟船
 と申ふたゞ幸江の天然瀬と通うる内海風暴小吹われく送
 浪天と蔽ひ或ハ帆柱と朽らば或ハ桅と折れ多く兵船伊豆
 の大崎めりの泊小吹とせらぬいりりり親王の舟船も既小
 くらぐらん〜〜〜亦ハ光明赫耀る日輪舟のへき小帆
 せりやに朽〜暴風もあつり〜伊勢の玉神風の浪新嘉集
 是こ小が漂着〜〜〜かて吉也より日新僧正と勅使と
 しては磯に下〜〜〜親王吉也小舟せし〜後醍醐帝
 此瀬とくけ即位〜〜後村上院是〜程あ〜きり〜太
 平記小見〜〜と帝のま〜ゆり〜海とついで〜古
 城山とく〜〜今も帝井と〜あつて〜土附の舟波之
 延元三年秋 後村上院 幸て陸奥の國へ〜〜
 ま〜〜〜伊勢の玉神風の浪
 り〜〜〜勅使と〜〜
 是〜〜〜
 是〜〜〜

新嘉集
 けり〜〜〜
 けり〜〜〜

日間賀嶋

師滂の舟一里小りて列條島の心にあたり一里余漁家甚多
 して土色石質もす〜師滂にひ〜且は滂少捕るとその蛤仔ハ其形大〜
 味も長〜に世人日る契あ〜と稱も甚毅対小大〜とのハ徑り三寸四寸に
 及〜又他ハ比較〜名
 及〜〜推て〜

比摩賀天神社

因形にあり今ハ王子と稱も本國帳に
 正四位下比摩賀天神とつら〜

永峯山安樂寺

同形にあり曹洞宗
 是州金剛寺末
 尚もハ文龜二年壬戌僧月傳
 の創建して本尊阿彌陀佛の本像ハ其作甚古〜

野嶋

列の外に三ヶさ〜
 引の交書に于時元龜二年戊午二月五日是ヲ書畢殊二日間賀釣深
 菴公用ニ二代ノ宗珠藏主五十六歳ニテ書置也とあるは釣深菴ハ今廢せりや
 是〜〜〜

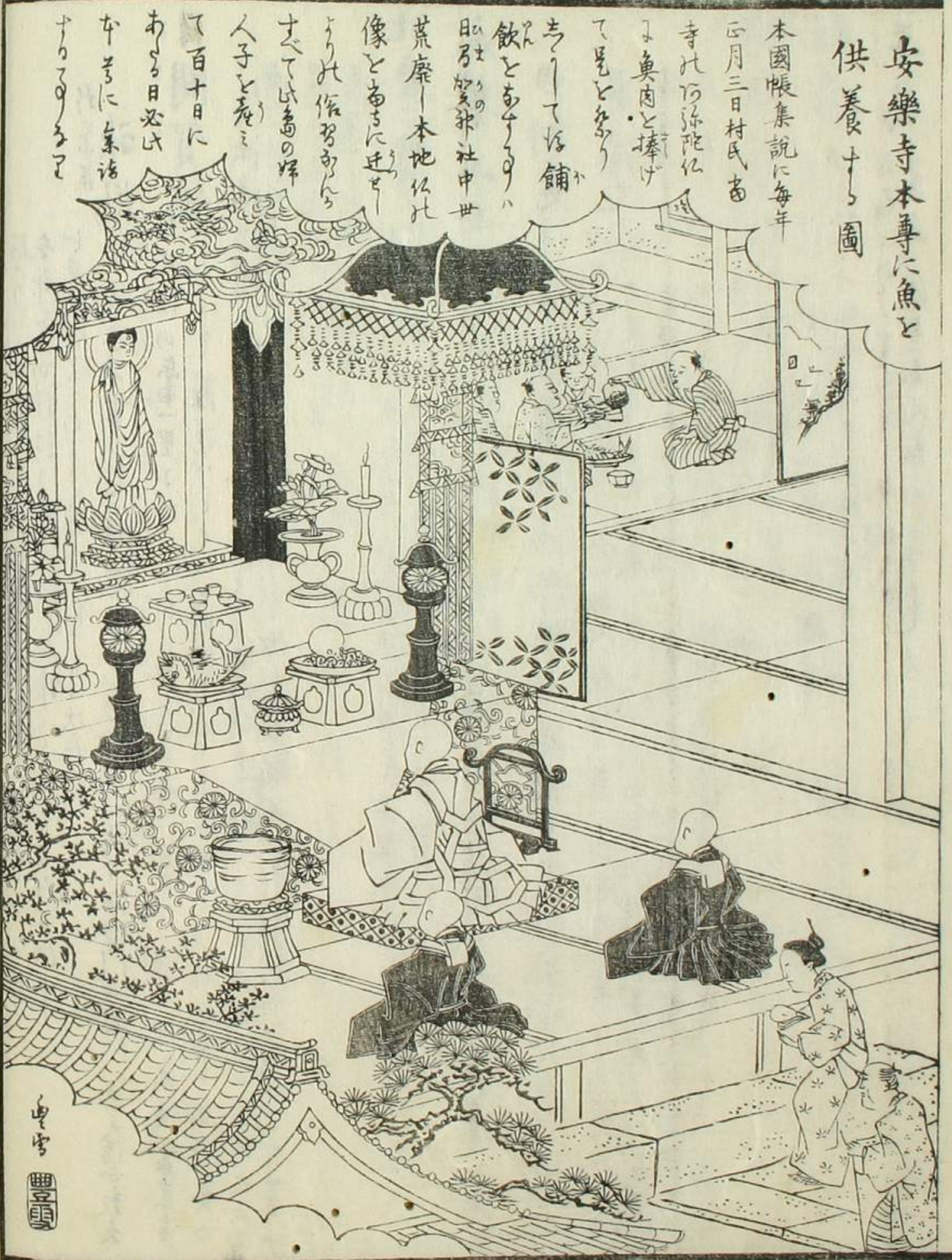
松島

條島の西南にあり小島ありて頗〜
 一松あり〜

平島

因形にあり甚〜平坦〜
 以是名〜

安樂寺本尊に魚と
供養する圖



本國帳集説に毎年
正月三日村民皆
寺に祈禱陀化
し真肉と捧げ
て見せたり
寺にては舖
飲とありし
此の如き社中世
荒廢一本地は此
像とあるに近
より此像あり
大ては島の坪
人子と産
て百十日に
あらし日必
かきに来活
すりりり

鷗嶋

松嶋と平島にあり一巨石嶋として水上に突出
海鷗常に集るに集るは小島又怒龍嶋とも云

木島

藤嶋の山あり民家あり
料木暢茂也とのみ

つくみ嶋

藤嶋の東にあり松樹多し以上の諸嶋ハミナ新岸増嶋とて
舟とよするこゝを難一に登るその稀なる

荒嶋

日る安嶋の北あり
て松樹こゝに多し

大磯嶋

日る安嶋の東にあり巖石の多し
海潮隔りて八僅にま頂とをこり

小磯嶋

藤嶋の北にあり
茶本甚繁茂に

就島渡嶋

式嶋崎嶋内地島

以上三嶋ハ共に日る安嶋の北にあり
海流れがわかれ汐落はバチおは

恵比壽嶋

師嶋の海濱にありて一ツ
の岩あり上小孤松樹あり

奈加天嶋

つくみ嶋小磯嶋の南にあり
人家ありて茶本の多し

屏風嶋

藤嶋の西にあり
是れも民家あり

夫木抄に尾張國もつら嶋あり松葉集秋藤荒ホ中もつら
嶋と尾法の名所と云されど今もつら嶋を按ずるにこゝに
る嶋くのうらわれりて久嶋ありて成後世改号して名

須佐入江

権大納言殿

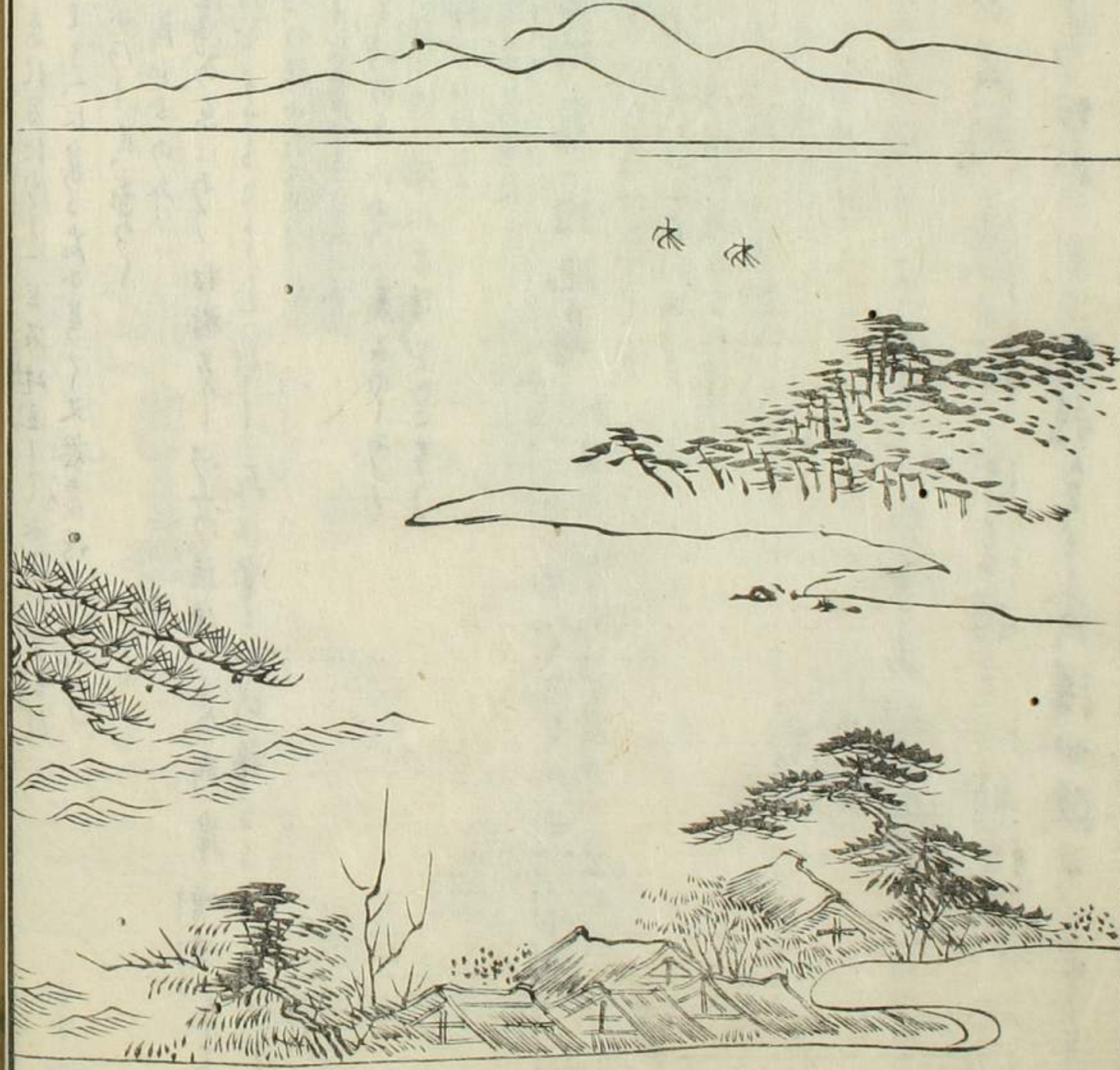
續古今
冬これと

すまの入れれ

こゆるぬと

つるまむ

つる



かにり

幸樂井入道
前大政大臣

続拾遺
風あき

まほの

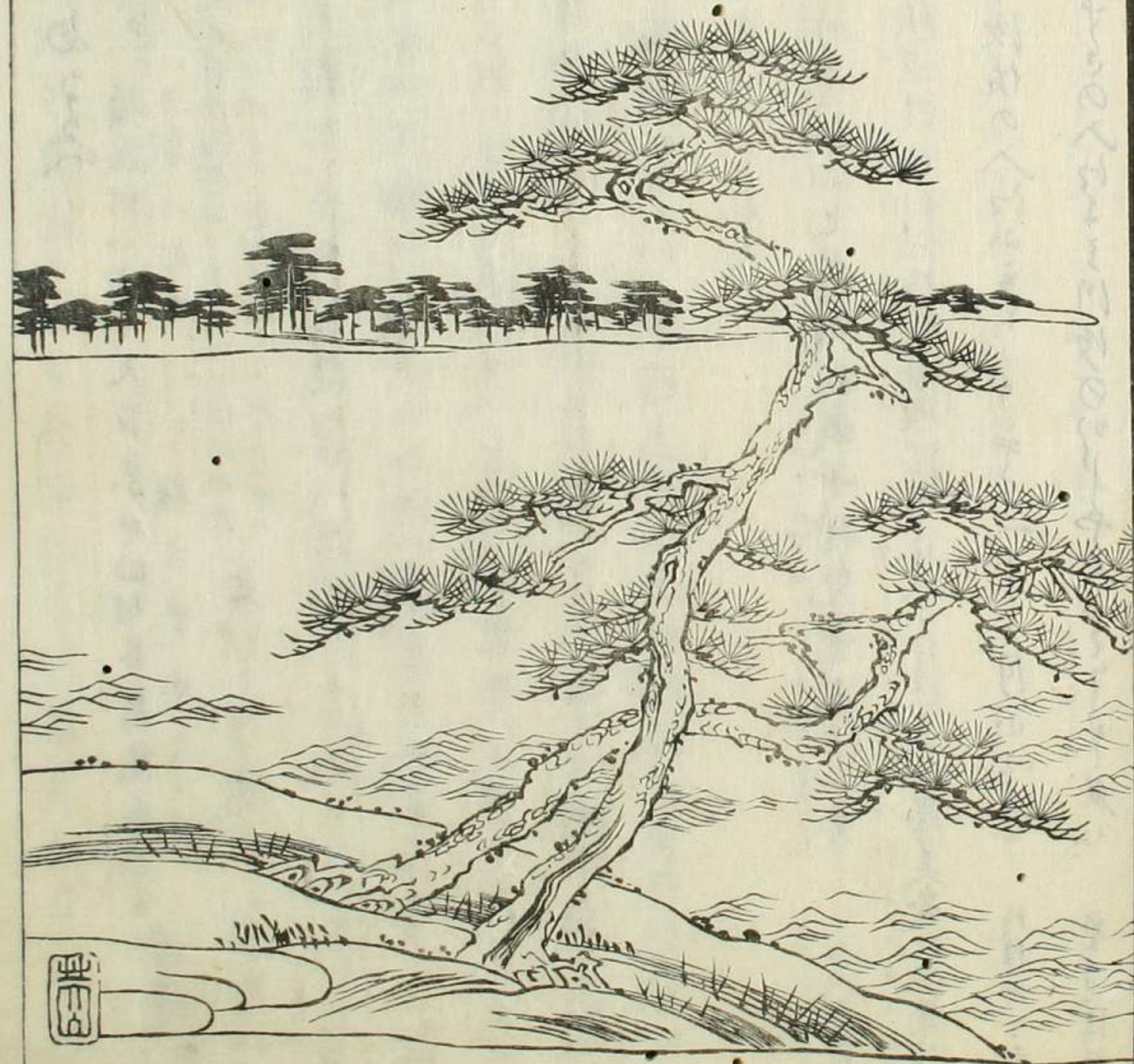
入白小

波こえ

あらしきなり

こく

ぬき池



三三

とくしういりあふべし

白雲山圓藏寺

須佐村のあり天台宗也田村密院未天也 本尊 十二面
五年の創建也 頗古梵刹なり

須佐の入江

須佐村の傍也りて赤い小川の山西 一石のりもが浦もりの或いはり
須佐の地もく南へ流れて入江なるなり

井もりの又類字名所和歌集に拾津の名所もすれを辨

沖法沙の勝地吐懐編小須佐の入江に東國の地名なりとの編

ありて 冬これいすとの入江にここの石葉中十四あふにあら

のむすとの入江のここのりねれきもとらり用らる回未勅されり

ふらふれが拾はれりなり目上もあられりとの入江のり

りそね

味乃住渚沙乃入江之荒磯松我乎待兒等波但一耳

阿知乃須牟須沙能伊利江乃許母理沼乃安奈伊佐豆加思美受比佐爾指天

後若遺 後律師公猷

後若遺 後律師公猷

夫木 後鳥羽院神勅

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

鱒魚

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

須男天神社

須佐村にあり今八級社と 本國帳小從三位須男天神

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

池水山正衆寺

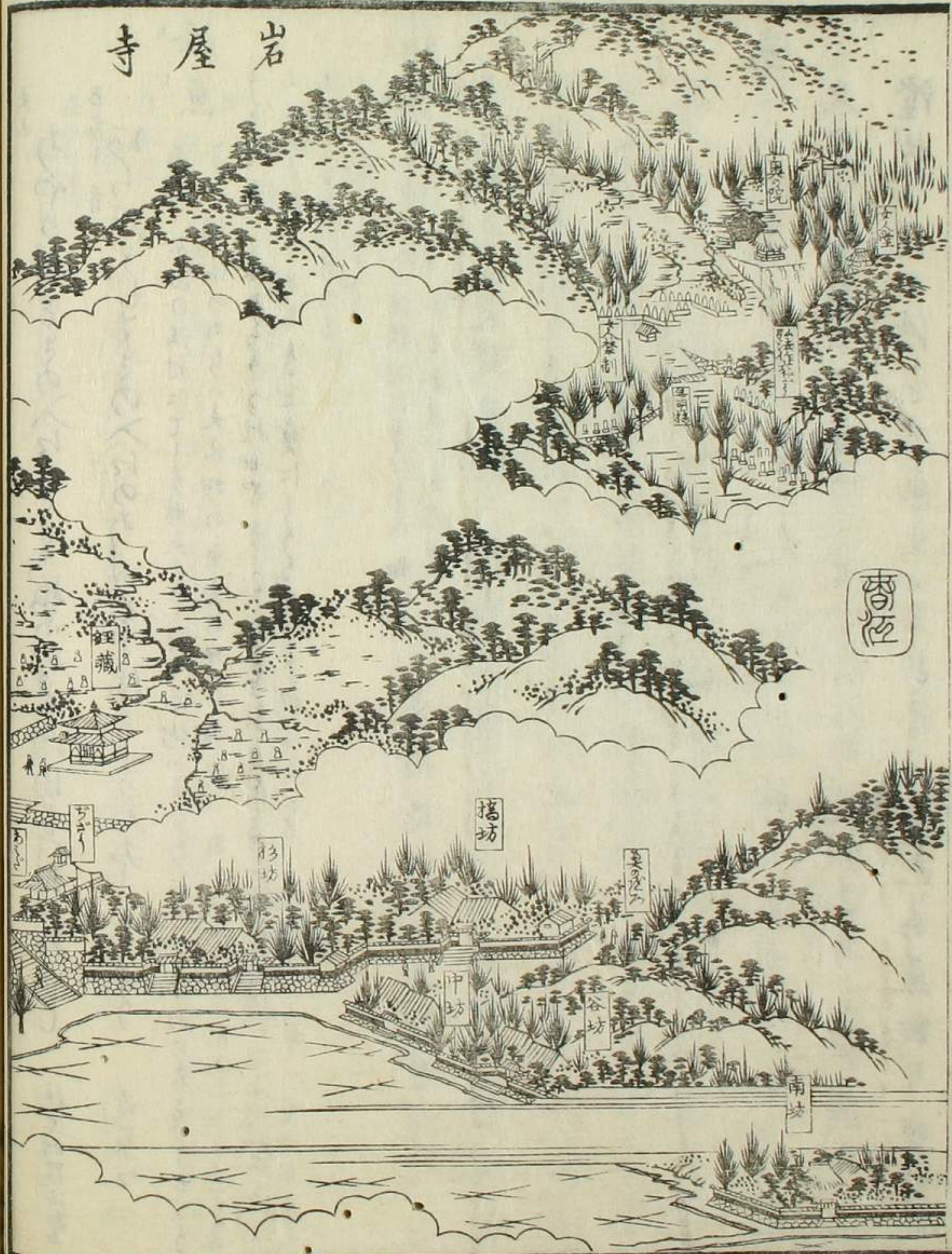
同村にあり曹洞宗 聖徳天皇 院未創建の年記詳なり

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

あやう州とて入江のりぬふり川田をれ神もりし

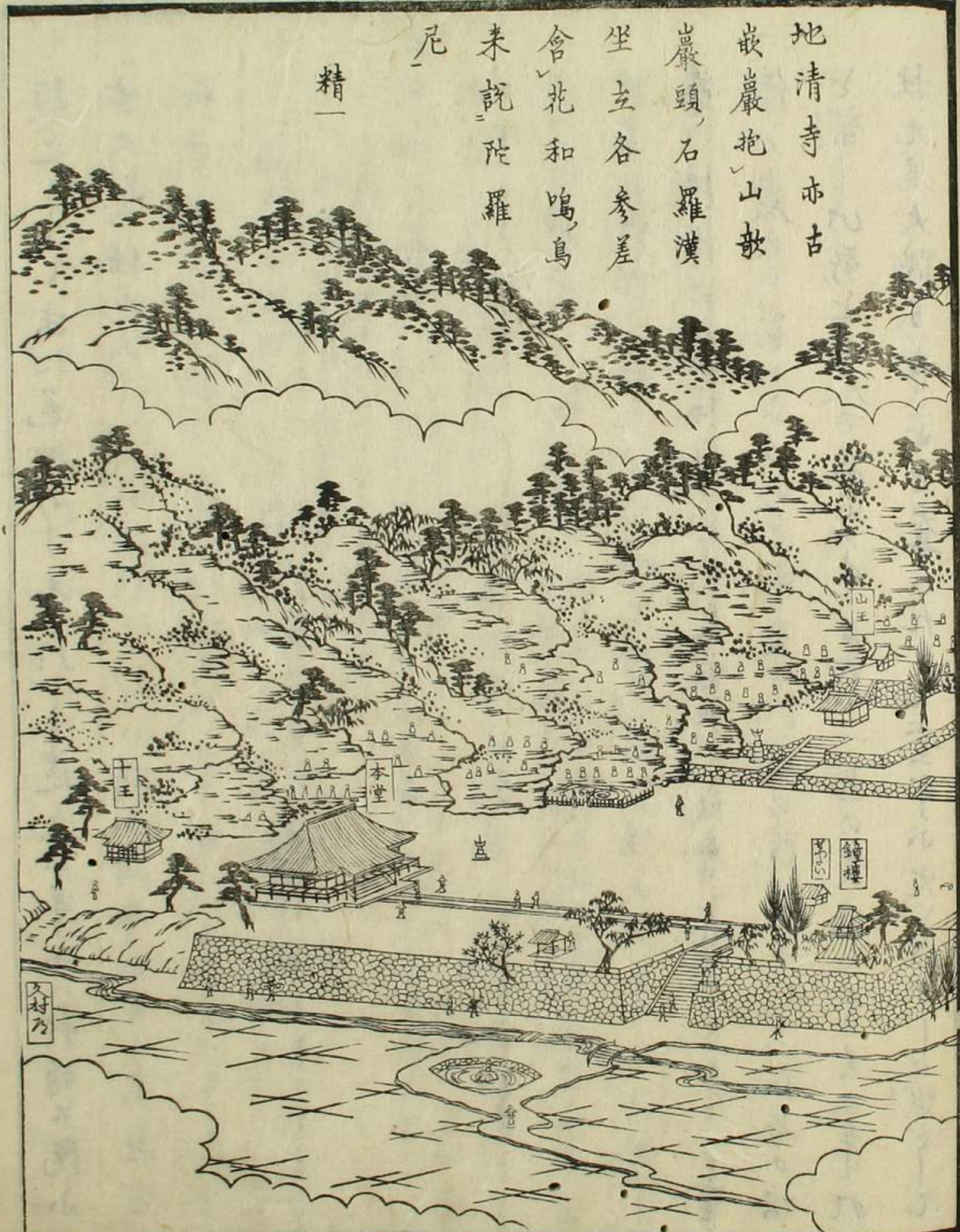
岩屋寺



香燈

地清寺亦古
嵌巖抱山歌
巖頭石羅漢
坐立各參差
會花和鳴鳥
未說陀羅
尼

精



文村乃

あふ石うにまきくまに五條磯石と叫ぶり又文村も伊勢山
りりまきくま部のまきに被津宮の津久津野村のまきくまにあり

内海 いんかい 庄名にしては色まきく内海の名を東澄及び宗祇の方

角抄の内海と云ふ松葉集にみゆ見とまきて尾法の名に云

尚那の海濱詩の海のあきまきくの内海の浦之されは種々の石及び

貝殻など多くあきく児女の玩弄と云ふまきくまのまきくまに

百分の一と聞くとまきく世に博くと又海原もまきく神馬

原 はら 一名まきく神功皇后三韓征伐の時馬ふけ原まきくと

伺ひまきく神馬原と云ふまきく下字集にまきくまに

まきく亦甚難報あり

蟹氣楼 かにきろう 因西の浦まきくまま交の交朗晴の海原の海まきくまに

須臾小又消滅と見則海市と周防とて渡遊と稱し城中の孤のまきくまに

成宮關と見則海市山市まきくまにまきくまに

詠 乾闥婆城 喻 空海

海中巖麗見城槽走馬行人南北東愚者乍觀焉有

實智人能識假而空天堂佛閣人間殿似有還無興

此同可笑嬰兒莫愛取能觀早住真如宮

乃野天神社 ののの 久村ふりり明津と稱し本國帳に従三位乃野天神

月光山西岸寺 げんげい 西端村にあり淨土宗 本尊 三尊の 寺室 芦屋金口

茶入 ちやい 以上三品の内海に城まきくまに佐治傳中まきくまに

佛光山宝樹院 ぶつこうざん 吹越村にあり淨土宗大徳東院まきくまに元龜三年 本尊 阿彌

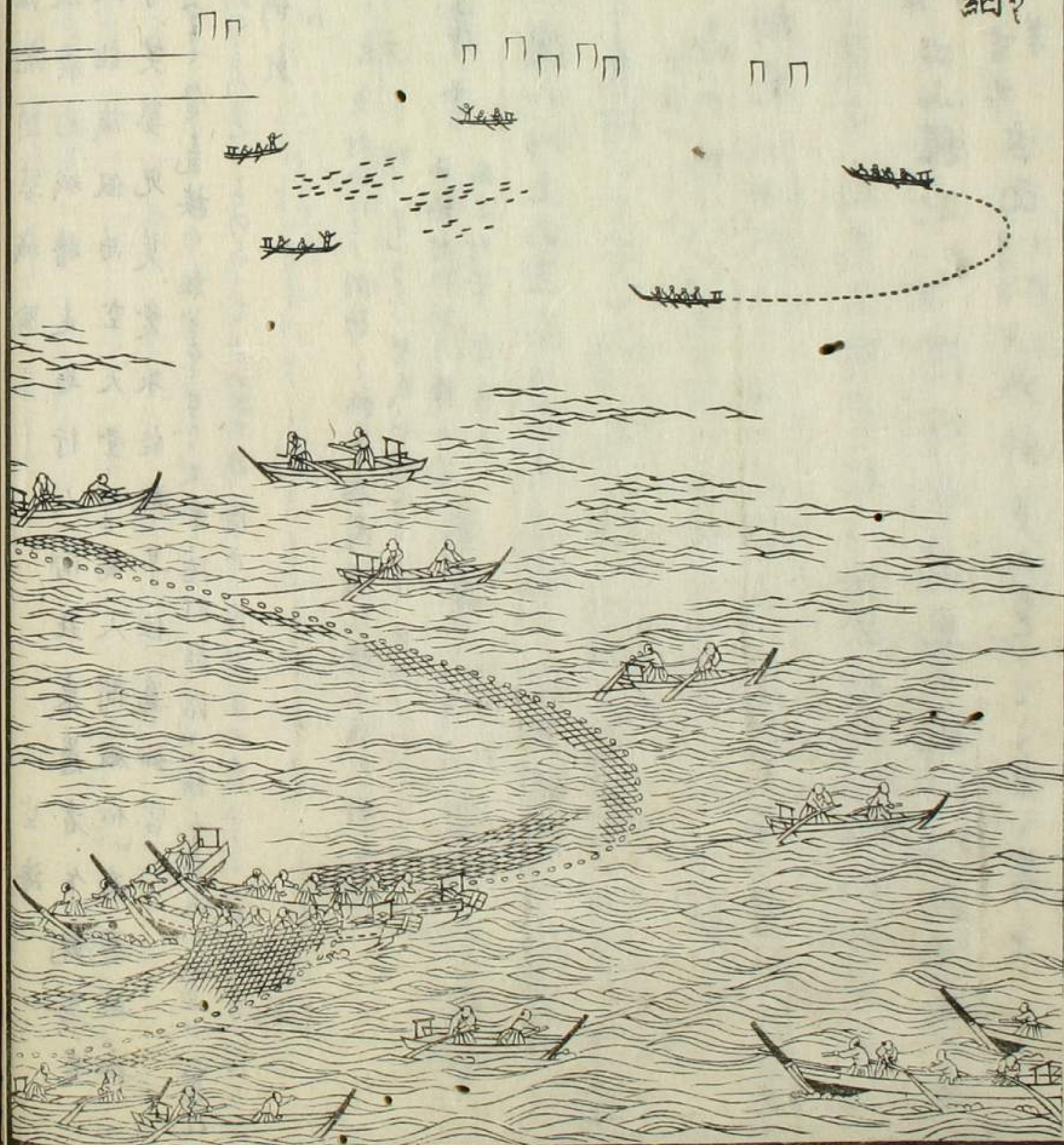
寺室 四光大師舍利一枚起證 しやうじつ 関通上人のまきくまに牡丹睡猫れ

圖 ずい 宅磨法 出山釋迦 しやうた 山樂 隋煬帝遊宴の圖 ずい 李嵩 西湖圖の屏

風一双 ふう 啓書記 古面 こめん 春日の作は外許多まきくまにまきくまに

内海浦鰯網

鰯網ハ五月より十月と日毎に舟一網お人数百人船数十九艘一俣大船二艘網を二艘お船三艘サトトリ舟十二艘と合せて大網一俣ハ網の大サ長三百六十ニ百中五十五百ヤクワクワサトトリ漁又のお魚少し莫の多少と知り流してあくとおつらうお魚網へ入てほたてよう網を早とかなり入とよまといふお魚と大船へお魚と五斗入の籠にてサトトリ取とらる大概一個お十言



お籠やゆきまといこい山に入時おびも多し入

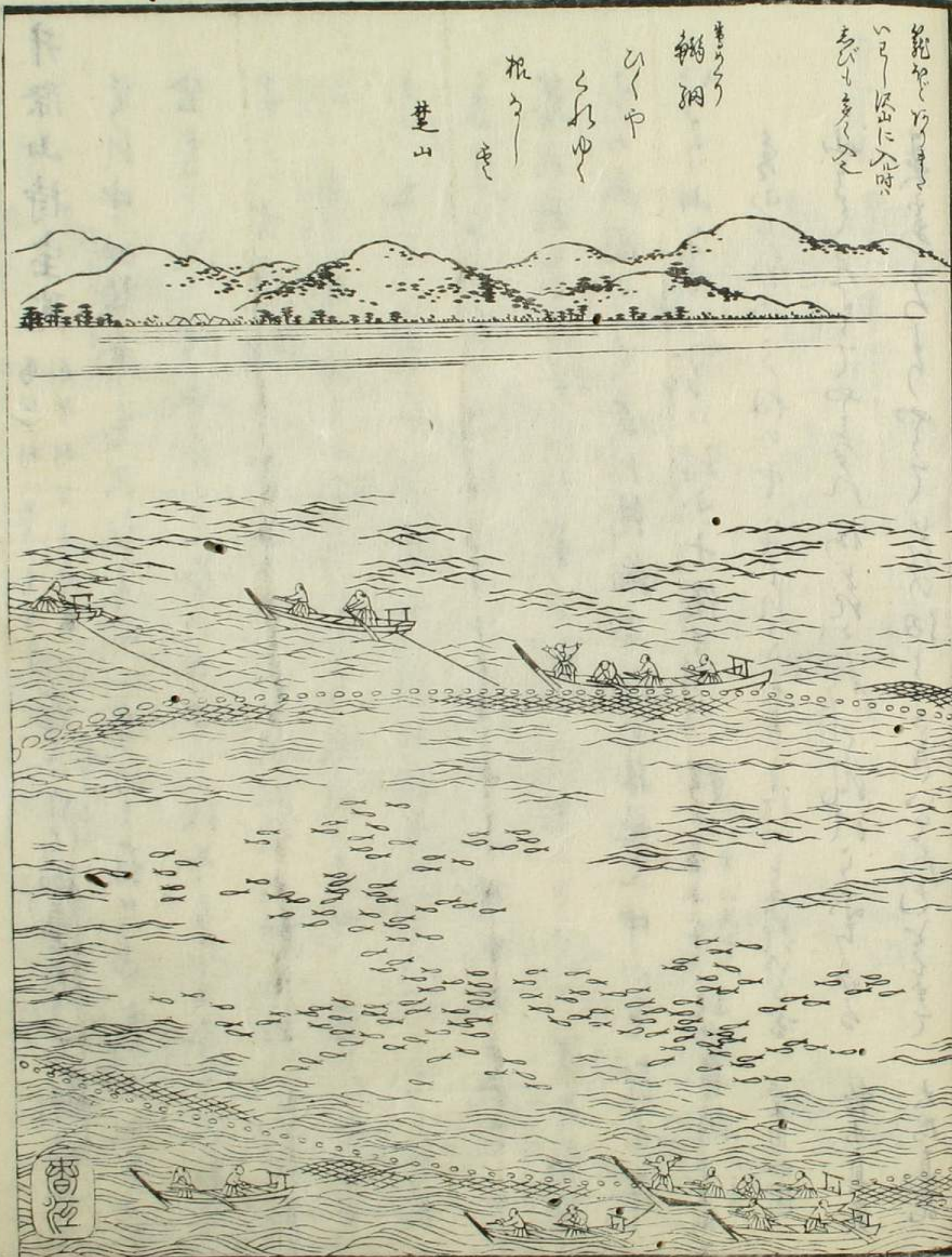
鰯網

いこや

くわや

根や

楚山



香

其二

後水世

くて

ひつ

花の

反

草梅



あはれんくわす家路小ちる花と行りおる赤の山丸 塚田村

秋葉山

同村にあり苗形西浦中一の山ありて眺むる所系む他山より
中古山上に秋葉の社と神清早よりやひつひつハセリ

八杉やハセの湖路小川のちり

竹有

金玉丸足跡石

同村の山中にありて傍に焼糠谷といふ所ありて今も今彼石と焼
く山時忠良思ふ中令王丸近侍世バ大佐の坊うんと奥欄にりよせゆかにいひ
りむされ令王丸何んや候也にありて後ろく昔回が宅の跡跡と空つつけとて
近に中途中老婆にり合ひり安と向いりて既ふりれまひりて今も今令王
丸急怒に揺らす妻とてりて彼老婆とありて老婆急化して石をりて今令王
丸の跡はけし石と足跡石といひり其石少くわたりたれど足の形にありて
洗大津堂ちの傍にも古記ありて足跡と云候の口碑とて今も小まきりし
松井田のちにありゆりて大佐丸足跡石の洗のてり
俚語に似れども未由れ久きまこいふとす

入見神社

中々村小ありて五男三女
と名に八王子と称し

内海十六村の本土神として延喜

式小いといひ入見神社本國帳小從二位入見天神といひ是なり

社前小古樹一株あり唐木あり

撰社

白山祠熊野祠洲原祠
鉾神祠大將軍祠金毘羅祠

例祭

八月十七日

行列あり祠官 市川氏

姥と石の古事



香印

龍海山性海寺

同村小なり。曹洞宗三州。荻村抄源末永正五年戊辰法隆を以て
ちれ羊創りてそと名村小ありと文禄元年壬辰依法
傳中ち為繩今れ地にうつ。堀子九布岳傳吉重法名勢雲總成のあふ依造と加
へて勢雲寺と改号せり。うへび旧号に復し依法代これ牌子なり

本尊

釈迦の本像

寺宝

鞍鎧

依法傳中ちおのふに
そはあち(多)あり

富具崎

細目村にあり。石燈四旋懸崖突りて
漫くしり彼浪にほみ流時。石碯の好風を

尾張風土記、殘編云此

山諸木鬱々四時為緑西崎岨臨海東岩壁洗潮天清氣朗

則勢州山岳在一瞬中云云景々その風光と形容せり。

富具天神社

同村小なり。俗に凡官と稱す。祭神級長津彦神本國帳小
從三位富具天神と有り。是より法座の年記詳あり。後

正六年己巳あ村の城之緒川氏ととと再嘗と抑あ社ハ海岸

絶壁の上にあつてつへは是れ船舟は社前小玉まらふ必

帆と知してさきさきと見はれと崇敬せりあつてし。和名

抄小富具とられは地名の古きなり。○攝社 神明祠 多賀祠

天王祠 楠祠 八幡祠 惠比須祠 船玉明神祠 例祭 正月上午の日水戸系より村
魂神祠 山神祠 富士神祠 等ま多し

小玉林とあり。私田小なり。さき
りし。六月十六日祇園会あり

大御堂寺

柿並村にあり古く
宗寺也万徳寺也

南寺所託の天文三年甲午三月に

勅進帳小 白河院の所建之兼曆年中草創と見え東隆

小文治二年閏七月廿二日前廷尉平康頼法師浴恩澤可為

阿波國麻殖保々司元平氏家
人散位之上所被仰也故左典廐義朝墳

墓在尾張國野間在無人于奉訪没後只荆棘之所掩也而此

康頼任中赴其國時寄附水田三十町建小堂令六口僧修

不断念佛云々仍為被酬件功如此云々とんんんんん或ハ

白河院の御宇改よけ寺なりと云々とんんんんんと康頼別に

一堂と建とんんんんん享祿四年十月十三日兵火小焼失一只

大御堂及び橋門のみ存なり天文三年甲午三月伽藍と再

修なりとなまも五年の秋九鬼大隅と南郡と侵掠なり日坊舎

と焼拂なりいなりくなりりなり頼なり廢なりりなり近年重修して又旧のなり堂宇

依然なりりなり柿平治元年己卯十二月左馬頭源義朝京軍のため小

入見神社



秋は少あり
かきりり
馬六

香

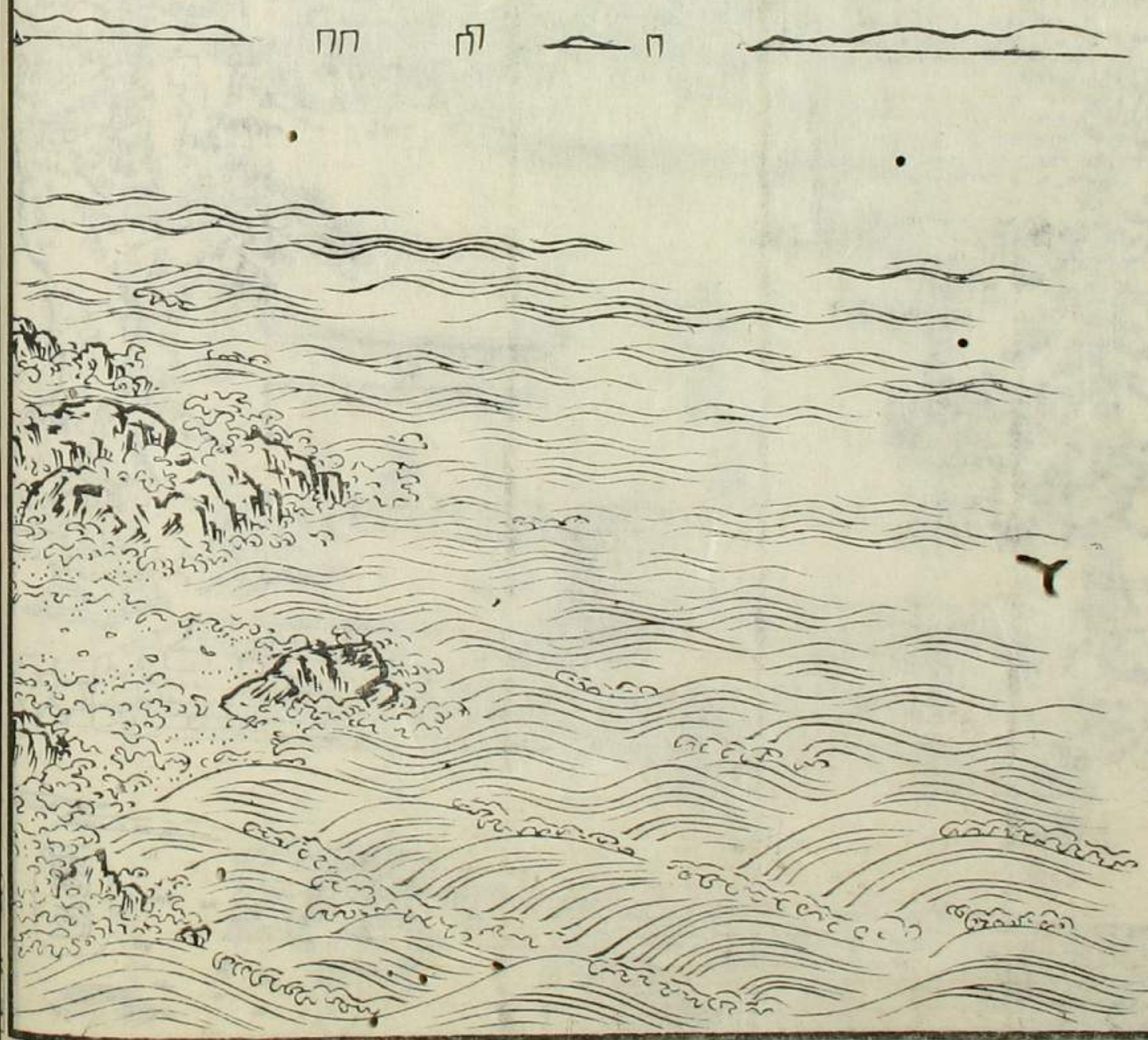
内海
富具崎

晁文洲

暫厭塵囂累言尋
物外遊鶻琴倚怪
石載酒望行舟万
嶽既鋪雪千林早
識秋幽賞木云徧
唯見夕陽收

戸田壽平

望入南荒不見山
蒼波渺々遠連天
風帆幾片飛如鷺
知是東行萬斛船



森真齋

鵬雲飛盡大溟闊
潮送千鯨響若雷
參勢相敬恰似闔
銀濤百疊直排來



森真齋

敗れし濃州青墓の古者大牧が許小落臣夫より東國へ下
らんしむい小大牧ハ懇ふてなりし年と送りあつふ
内下向あふしし中りるがてハ海邊に居りしるん子く尾張乃
押る少即り世田と頼むべしとていそがせらるふもや幕の者及少
つけく二三百人押参りり是とんたり依直武部大捕重成討
死して通しあふせんとして馬少のりあふれ者と散々に散らし
子安の表小入り左馬政義朝自害とるごとく名のりつて面の皮と
とまき腹掻切く空しく参りりりひひま小義朝ハ大牧が弟警
栖玄光と頼む夜小まきれ小舟小あつて株洲川と下り十月
廿九日修徳に廿八日 高田彦日忠宗 或ハ忠致ガ亭に在りし供
小々澄田彦清政清 或ハ正清政家 平賀四郎義宣法本金丸
及び玄光もに四人之忠宗ハ晋代ふいの旧家人として志すも政清ガ
舅とてハ君臣と心に心解く悲くうに滞るあふきけ之忠宗

外小崇教の礼と厚し義朝と書院小清ト置随陪の壮士と
幸く別るに懇い世尉小山海の珍味と集りて餐ま愈唇炙と
考とく之にも内小竊小逆意と扶ま子景致 或ハ景宗
下り入招きりやうのひく六波羅殿より此神教書小義朝と討
て近らせまハ勅賞中との傳まききりあつくと語るハ景致
速に回意しけり折しもあれきとい我君是より東西りるも
とも平家ハ権勢盡うとバ必定人小小かりりらん志し吾ハ御
首と討ちたり平家の忠賞と保永く子孫の榮華と全ふ
せんハはと素懐と密談しとて君を武勇極威の名将小ま
はせハ小勢小まらるせのやも討ちらんこと大幸之十全の兼まハ
湯殿ハと入りてその内舞の政清とハあつて招き酒肴
小定食すべし君討ちしめいぬけり走ま景致妻戸の陰小
討合せ彼と斬きせん又搦七前ハ二女奴の大方うれハ細まと定め

義朝家後の圖



大日本史
 鎌田政家、妻平氏、長田
 華司忠致、女也、平治元
 年、源義朝、兵敗、將走、
 關東、路、抵、尾張、野間、
 投、忠致、家、忠致、戕、義
 朝、併、殺、政家、妻、聞、變、
 至、其、死、處、哀、慕、悲、慟、
 遂、伏、政家、及、而死、





其二

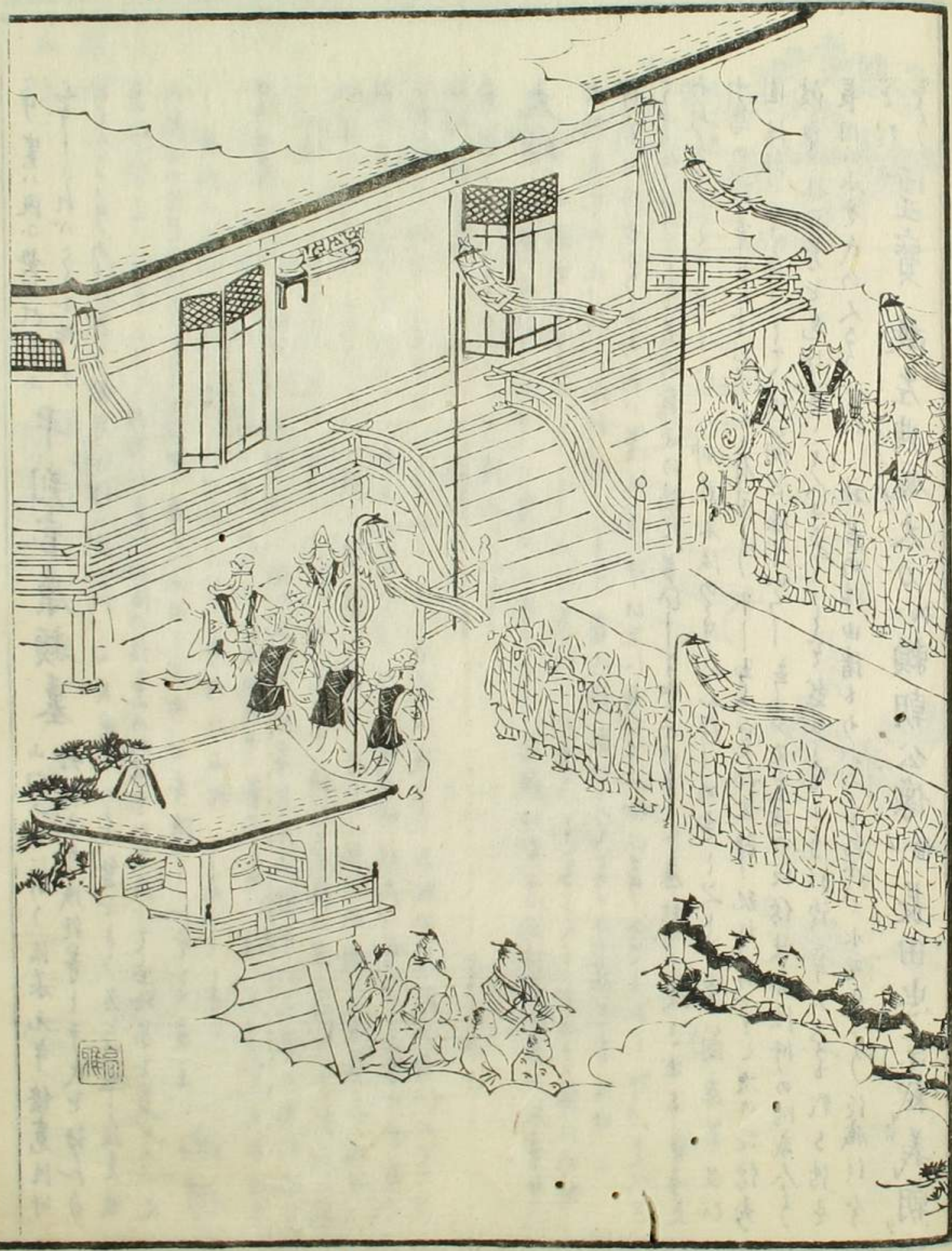
長田父子ハ池小原ノ所首と洗リ免
今高き門方に血池と云ふハ池天下に兵亂あり附ハ池水血ヲ愛むくソム又傍に下馬橋と云ふ義朝の廟と云ふ是下ノ橋也 是と拵ク上流一古波羅の勅
賞と申すに清盛の衣取斜うがも重盛も不義と
悪んぞ重賞と加へたが是故もれ号と云はる長田素に相
遠一程殊哉せしめんも有りがはる是バ子ハ尾張と云はり
かる非道の父子と云ふ天理小遠へ先非と悔い或ハ云はり
ゆと素一ツ急用して年月と違はるるがもら新朝公此
武威日と違ひ烈一々云はれバ才と並に所々父子十騎斗を
羽と云はる満金とあり己ガ罪科と訴へおされバもまじ
く程才命と惜まず拔筆の軍切のバ罪と許さぬもあは
美濃尾張と云はる一々の夜命とて土肥次郎小あつけら
是らる長田父子殊小獲生の心地して路嘉貴みづか徹一拵
州一の谷の軍と云ふた救を成戦功と奏しけり然るに新朝公

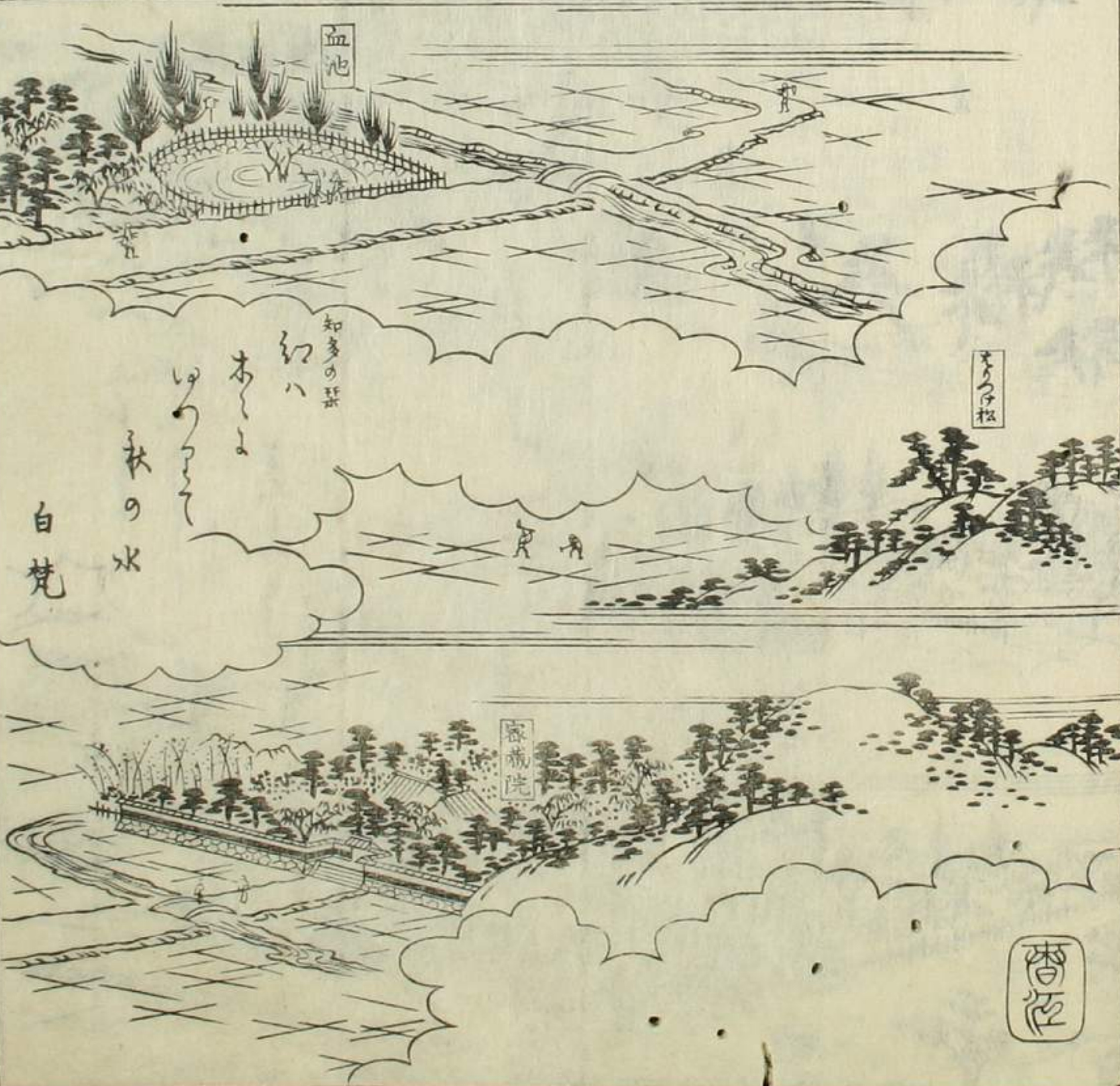
天下平均の後上流の序當地小原駕と相ら先考及び瀧田
の石碑と建所善提のり大御堂寺七堂伽藍と再興
紀伊言也一山の僧侶と清一供養ありかくて長田父子故
かりの殿の山墓をくし来り善約のり今され終りと終る
とて磔はりつけしてうらうらとせしむる
あつりけん
イニキ
うらうらへて命をうらひまのりく刃のりく今も終る

右のふと書て いふ一説ハ長田が 二ふれとて少くまぬ者ハうらりり
已上平治お能参考平治お能東流及び修治ホト
考位考行一付が一と畧抄と云はる
灯断絶うあね追福の供養怠憚り ○本尊 ニギハヤヒ 鎮
守 神明 鐘 銘に建仁二年十月十九日大工 源義朝墓 大御堂の末にあり
若菜光庭勅を以て因り 長田忠宗我朝此
首と云師小傳へ云殿と云はるが長朝最後の附せり木太刀と云はる
と悔ひといふ今も木氏 藤と云ふ木太刀と云はるが長朝の墓に
持げ木太刀 鎌田政清墓 我朝の墓の北小あり 織田三七信孝墓 我朝の墓の南にあり

義朝公尊靈供養の圖

東鑑
 文治六年十月廿五日丙午
 以尾張國御家人須細治
 部大夫為基、為業內者到
 于當國野間庄拜、故左
 典廐廟堂平治有事奉
 筆、十此所云
 給此墳墓被掩、荆棘不
 拂、薛蘿、欽之由日來者
 於閑東遙、令道懷給之
 處、佛閣排扉、莊嚴之
 粧、遊眼僧眾、構座、轉
 經之聲、滿耳也、三品
 怪之為解、晝夜被尋、盤腸
 之處、前足、刷康賴入道守
 于國之時、令寄附於水田三
 十町、以降建立、伽藍奉
 祈三菩提云云





丹波少将成経等と平氏と討つ
 丹波少将成経等と平氏と討つ
 丹波少将成経等と平氏と討つ

平判官康頼墓 山門の西にあり、永承元年俊寛法師
 丹波少将成経等と平氏と討つ
 丹波少将成経等と平氏と討つ

尼墓 我前墓の女にあり、平治の乱に於て平家の子に
 丹波少将成経等と平氏と討つ
 丹波少将成経等と平氏と討つ

大坊 大御堂寺一山中六院の巨擘なり、内殿の本
 丹波少将成経等と平氏と討つ
 丹波少将成経等と平氏と討つ

大坂 大坂の所、陣小勝あり、山縁に居たり、中興
 丹波少将成経等と平氏と討つ
 丹波少将成経等と平氏と討つ

神君 神君の由緒あり、神君の由緒あり、神君の由緒あり

長田 長田の由緒あり、長田の由緒あり、長田の由緒あり

血池 血池の由緒あり、血池の由緒あり、血池の由緒あり

浴室跡 浴室跡の由緒あり、浴室跡の由緒あり、浴室跡の由緒あり

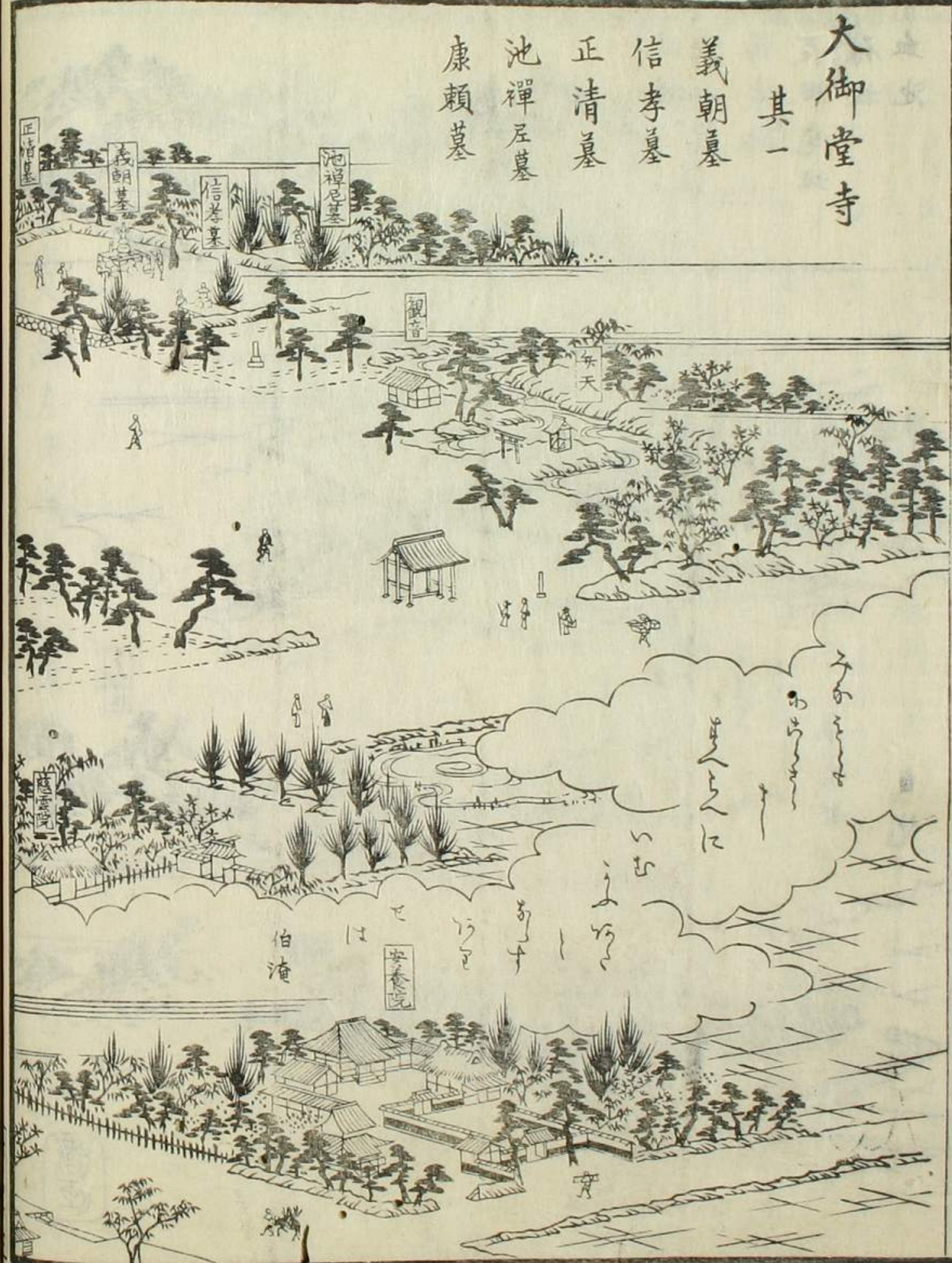
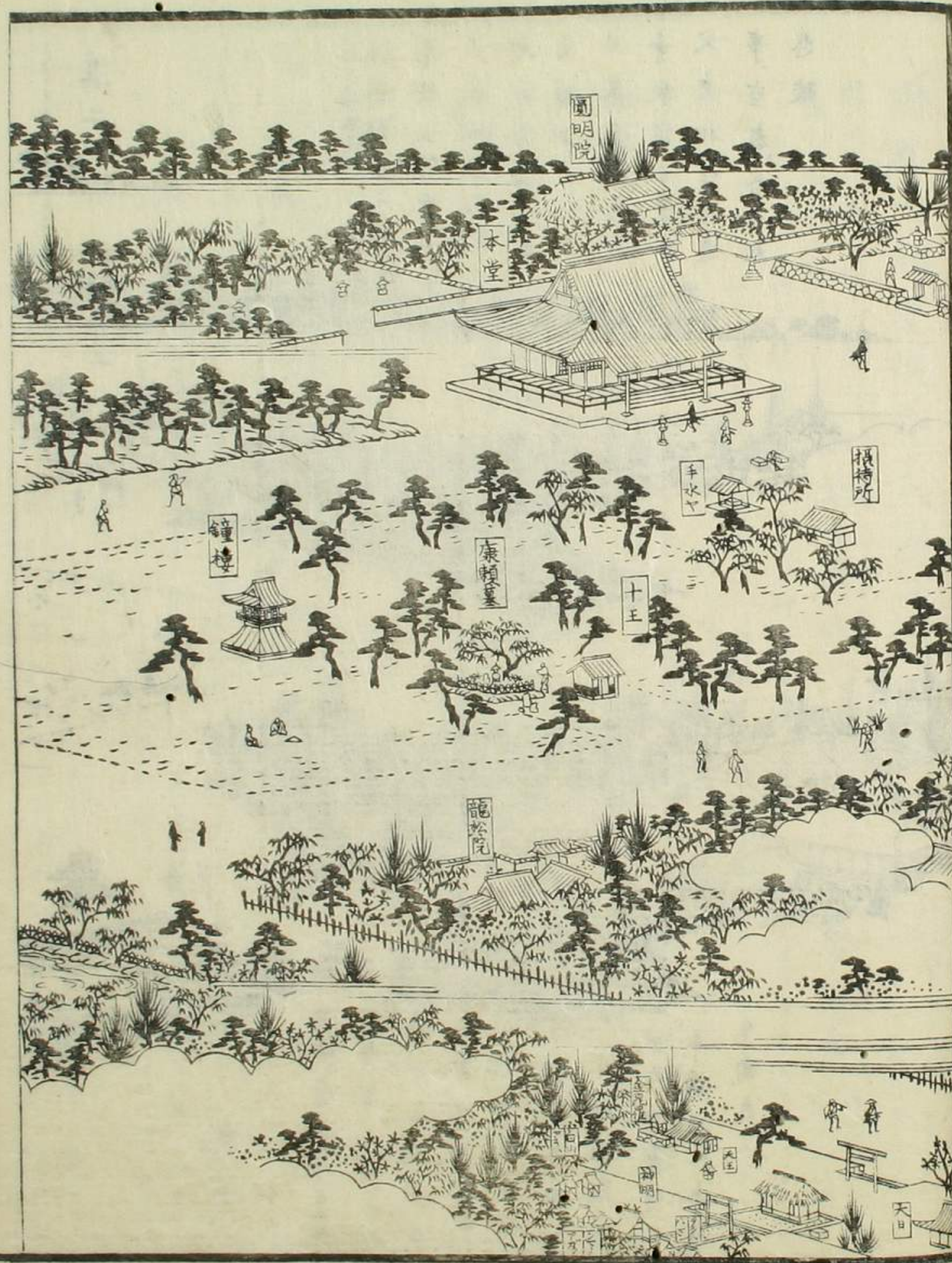
法山寺 法山寺の由緒あり、法山寺の由緒あり、法山寺の由緒あり

乱橋 乱橋の由緒あり、乱橋の由緒あり、乱橋の由緒あり

磔松 磔松の由緒あり、磔松の由緒あり、磔松の由緒あり

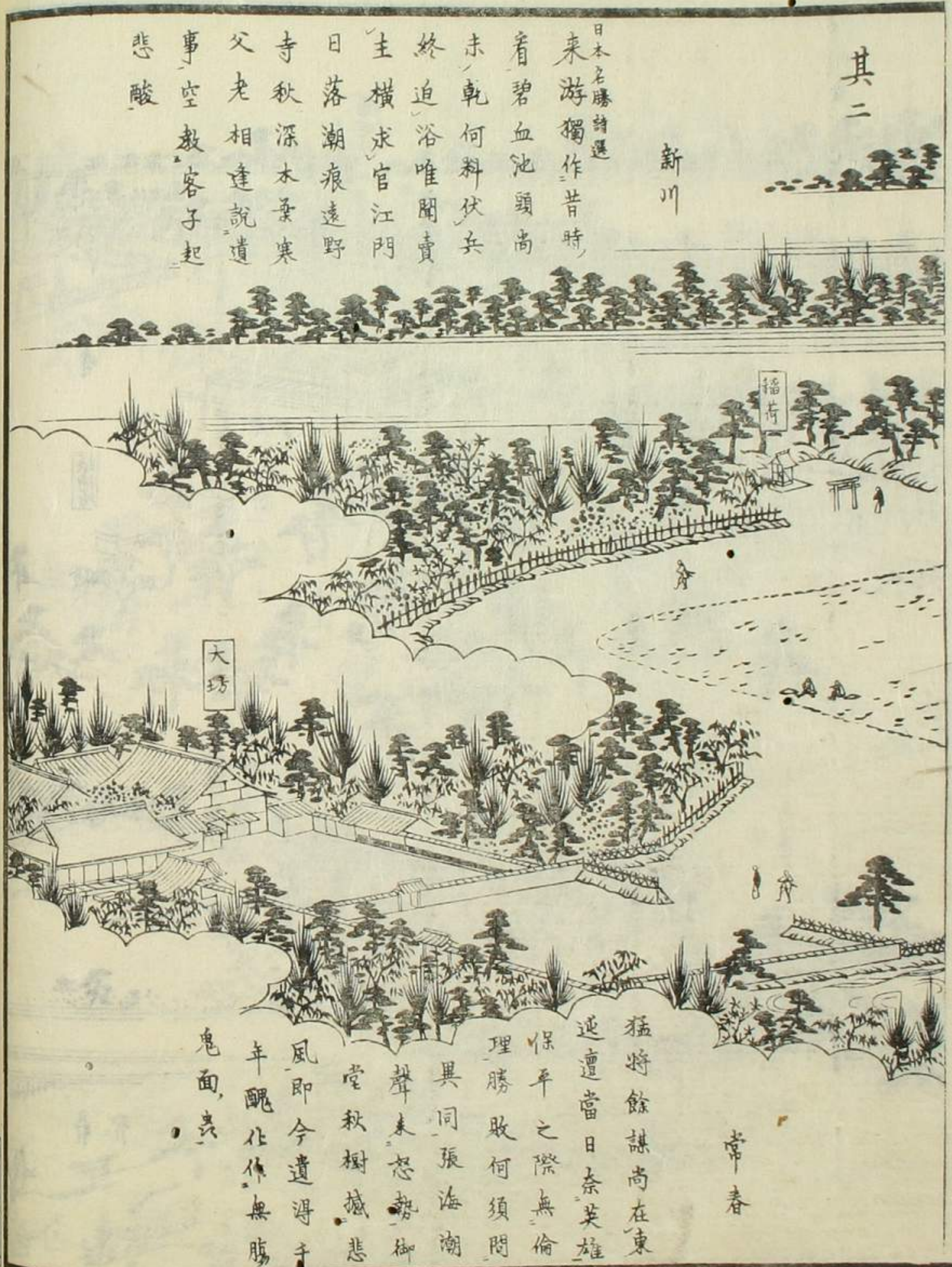
長田宅址 長田宅址の由緒あり、長田宅址の由緒あり、長田宅址の由緒あり

血池 血池の由緒あり、血池の由緒あり、血池の由緒あり



新川

日本名勝詩選
來游獨作昔時
看碧血池頭尚
未乾何料伏兵
終迫浴唯關賣
主橫求官江門
日落潮痕遠野
寺秋深木葉寒
父老相逢說遺
事空教客子起
悲酸



常春

猛將餘謀尚在東
逆遭當日奈英雄
保平之際無倫
理勝敗何須問
異同張海潮
聲未怒勢極
堂秋樹撼悲
風即今遺得千
年醜作無腸
鬼面矣

圖及大御堂供養式圖二幅

國祖君自ら書む
義銘最妙の傳也

血池の涼紙

國祖君狩野守信に命じて
神君神護の繪あといひ表具一且
住昔池水血小涼
天正十一年癸未五月七日秀吉
孝の位牌あり

安養院

公の乃小いりめて生害あり
未期小一首と誣あり
むより主とらみのせり
古画の墨杉に投付られ
血池
付一軸あり其貫曰夜窓和夢到西湖月下見花思老通忽有鐘声來呼醒
峯頭半幅墨梅圖
鎌田政清
位牌あり
密藏院 龍松院 慈雲院
已上六
坊あり

文集

大御堂中持善寺曾聞信孝避離未寫懷歌詠思猶
雅辭別封書情欲推自割肝腸三尺及獨留骸骨一
堆灰行人今日問遺迹竹兩松風声帶哀

狂濤拍岸畫眞知是將軍怒未停洗元池水依然
在潛血時飛陰火青

長田庄司宅

大御堂寺法山寺のるる田中に
畑ありて宅の旧姿と存せり

曇華山法山寺

因村の支村田上村あり
法山寺のるる田中に
大御堂寺に存せり
行基并の奉創中にて
存夢想云師

本尊

茶師如來大御堂寺に存せり
建文二年三月十一日
教朝云の奉進
狀小尾州知多郡田上茶師領之事云々
文中小鈎り時相授

浴室の古蹟

法山寺茶師堂の後あり
田のりて我祖と裁せり
大御堂
寺の条下に詳に今古松ありて傍小湯殿あり
言れと

遠く好羊家の
探案に依りす

松風とむらと注の秋のま

茂東

乳室山報恩寺

有栗田村小あり曹洞宗幸勝天沢院未あさハ乳室貞哺
祿元の創建云々

金玉丸饗洗池

北栗田村の洗束の傍にあり其れハ今大ハ畑と云へて横に
モる四面に其面敷と砂せりハ小池云々

長田

世乃ハ村後に出甲に入面のめき致あり云々
村の惣魂化して神と云ふハ里人云々

野間天神社

大睦

野間天神社

上中乃村小あり本國帳に從三位野間天神云々
小宇摩志麻治命十三世物部金連公野間連祖也云々

廣石天神社

廣目村小あり俗に怨せ境況と稱す本國帳に從三位廣石天神云々
是又ハ此に畏沙門堂云々

大谷洞

大谷村小あり海岸崩れり其下ハ巖石の碎けあり
此處ハ磯角れれ巖石に似る云々の布云々

御嶽山高讚寺

西阿比村にあり天台 御佛ハ白鳳十二年の奉創

文武帝の勅願云々七堂伽藍ハ大地云々

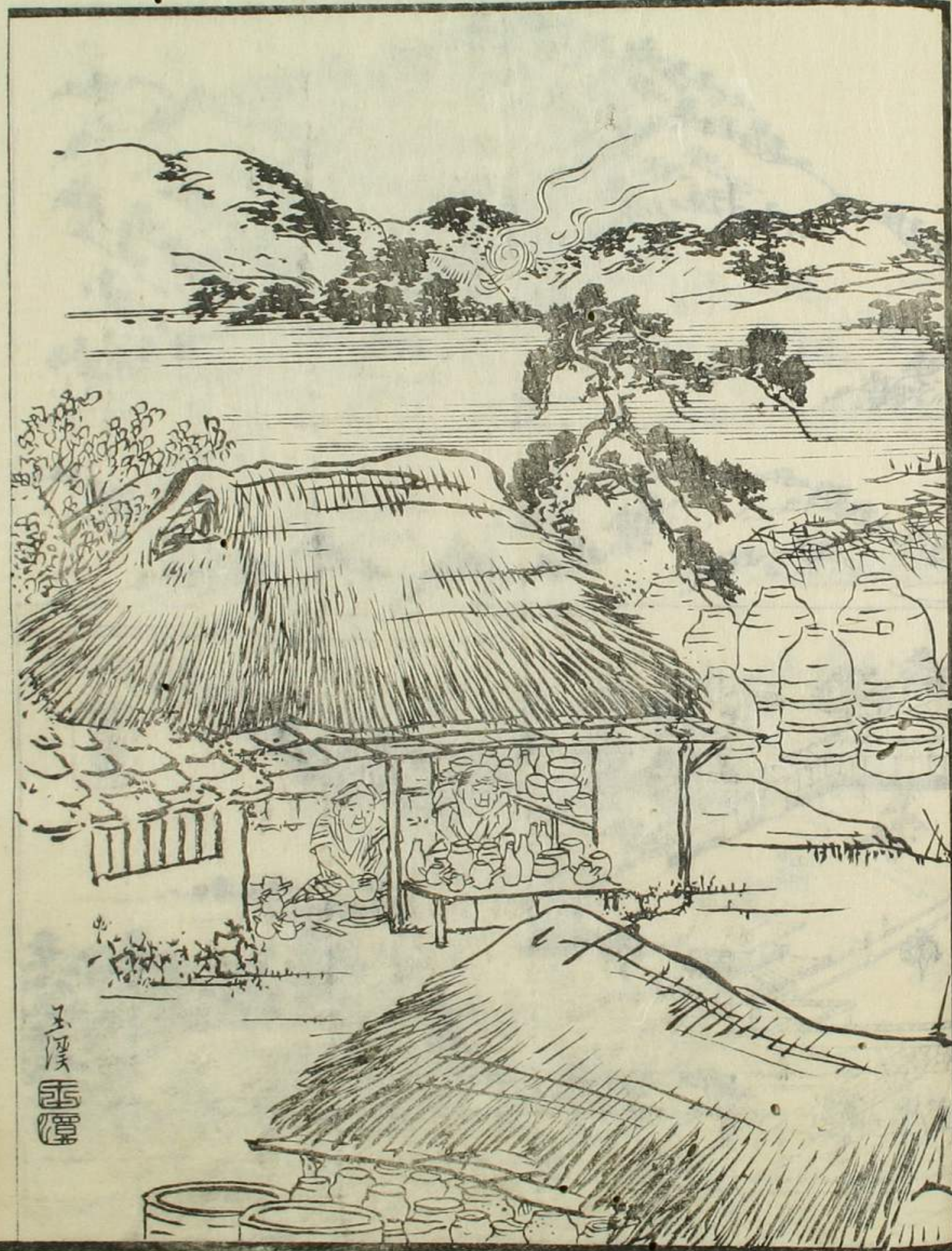
文祿の兵火小かりて悉く灰燼一ハ本寺の云々
長祐云々

又ハ存焼失して其れ坊一院の云々今ハ寺是之古ハ伽藍

の跡ハ今も大ましく旧姿と砂せり

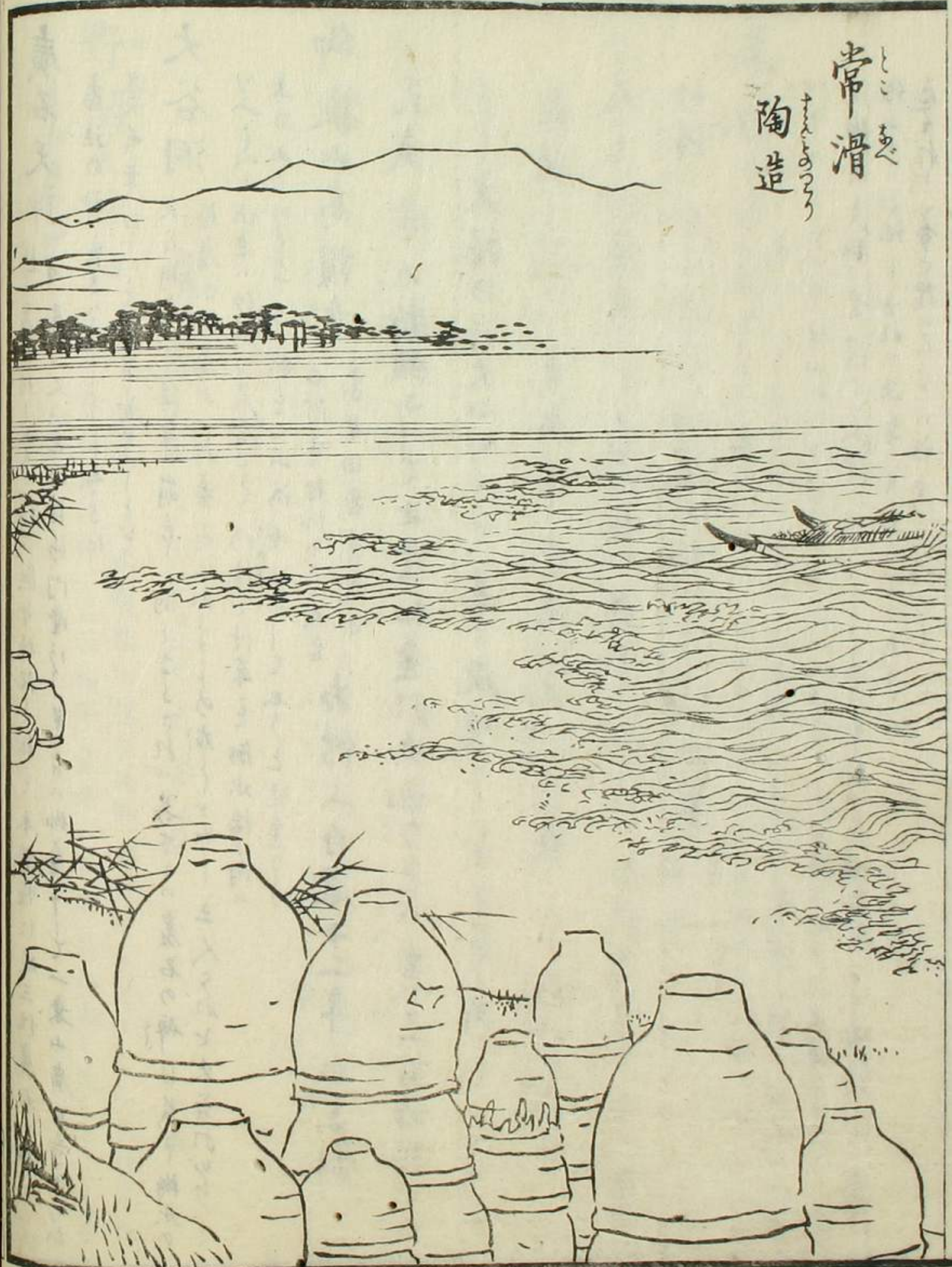
床島

宗願の藤原等云々南玉に入云又宗祇の方角抄云々
四年の宗長が宇津山記云々伊勢多氣に一日連云々

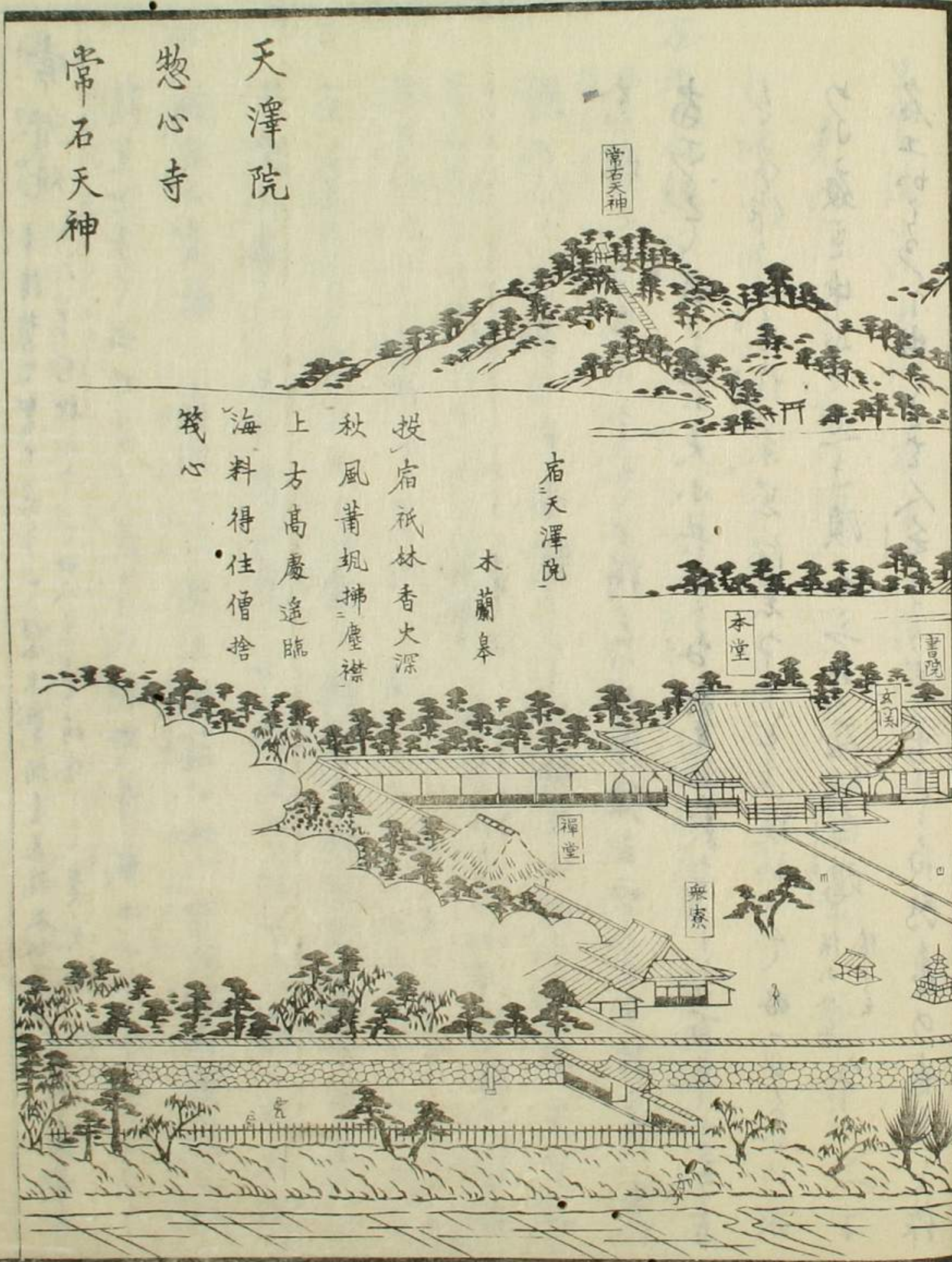


玉屋
陶造

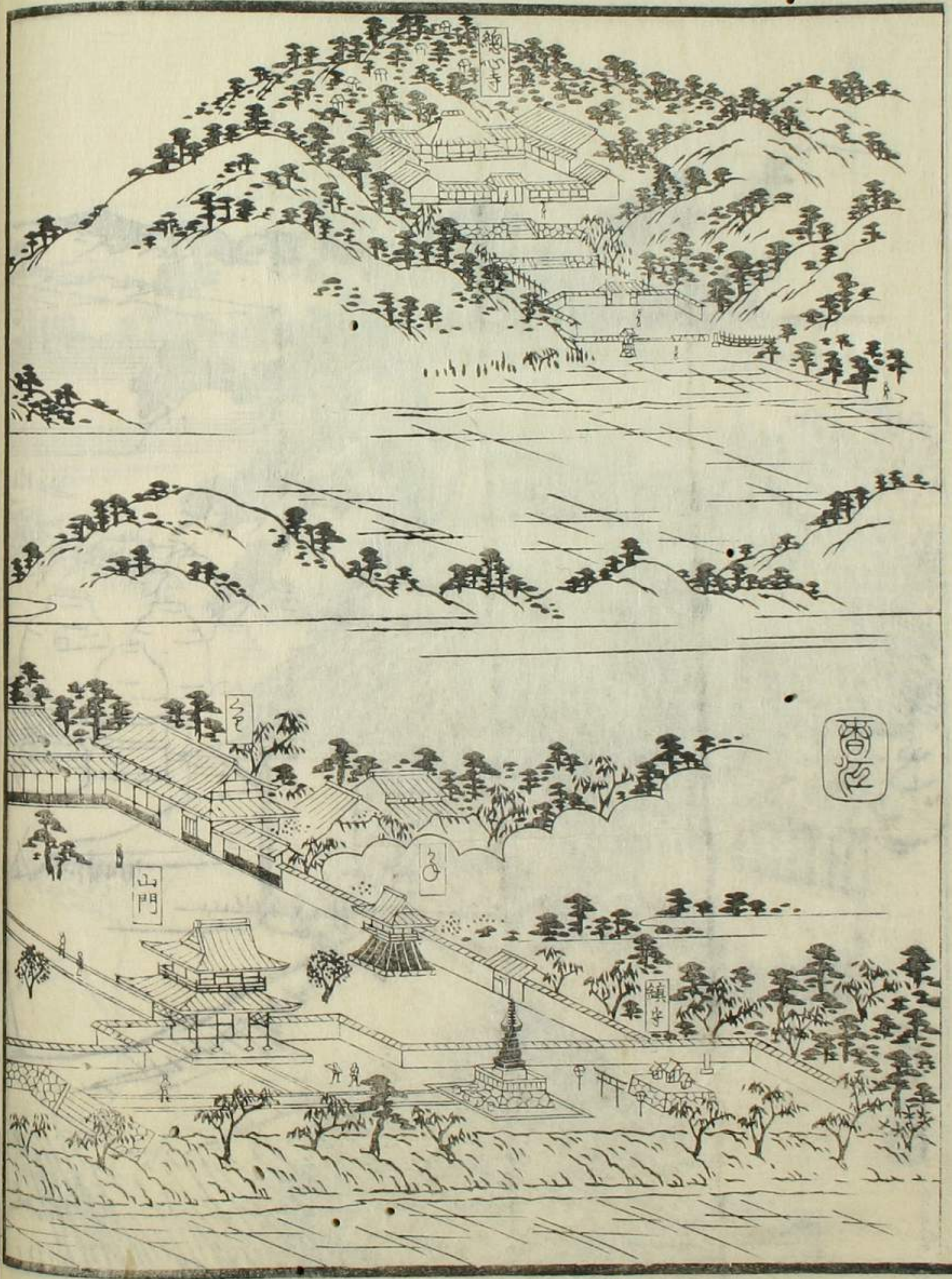
常滑
陶造



天澤院
惣心寺
常石天神



宿天澤院
木蘭阜
投宿祇林香火深
秋風黃瓦拂塵襟
上方高處遙臨
海料得住僧捨
篋心



香印

常滑焼

常滑村にて製せしもの大甕酒壺花瓶及び茶壺の政をむねありて世人是と常滑焼とて賞みたり

古く由り

陶器と多く出せり。延喜式朝野群載小山もいへてなる。朝廷小貢献。古村に即陶器造作の地。今の世俗陶器と呼ばれて瀬戸おとらる。古國春日井郡瀬戸村少く作る所の陶器上品ありてあま天下に普く流通。焼おける数も亦多し。とむべくか。通称もなり。或は小瀬戸といふ所の稱也。は常滑焼に古くあり海も近し。瀬戸焼は戸おとらる。初ては稱れ天下に流傳。今もは也の山中と焼は古陶器と稱し。多し。昔焼。その地中小埋。全きそのを稀之を。全きと得。世俗珠玉の。小珍を以て。古所と造る。大小共。小甕の。百年とあり。古子作りの急焼。茶壺。酒壺。と。焼おして好る。象の求。小甕。中。近き。須長。之。帝。及び白鴉。俗のハ。名工か。出。人。之。白鴉。電の香合と作

つて後小治大納言有長。定。新。バ

光。信。衣の浦人。つ。電乃。年。ゆ。と。泳。賜。ぬ。来。に。白。鴉。近。世。の。名。工。と。す。

万年山總心寺

常滑村にあり。曹洞宗。法懸。即。洞。村。圓。成。寺。末。

元和元年花影總心禪尼。天外ハ。則。總。心。禪。尼。の。子。

禪尼、水地。下。せ。ち。の。女。則。水。地。堂。お。の。後。堂。之。の。創建。山。天。外。和。尚。う。り。寺。依。ハ。圓。祖。君。所。寄。附。う。り。又。後。圓。此。山。に。西。國。三。十。三。の。靈。場。と。移。り。て。觀。音。と。安。坐。せ。り。○。本。尊。新。迎。の。靈。宝。神。居。所。を。手。記。佛。書。簡。大。猷。院。之。の。侍。詠。信。長。公。の。書。簡。弘。法。大。師。作。の。地。花。堂。也。

寶壺山天澤院

同村にあり。曹洞宗。緒。川。村。乾。坤。院。末。

古く岡山ハ。周。鼎。和。尚。う。り。て。創建。の。年。月。洋。う。り。○。本。尊。觀。音。十一。面。

常滑城址

同村にあり。水地。堂。お。直。盛。の。居。據。う。り。て。俗。小。常。滑。殿。と。稱。す。今。ハ。田。圃。と。す。宋。牧。東。國。紀。行。小。常。滑。ま。と。急。き。侍。に。や。り。水。野。堂。お。並。より。供。り。て。三。と。宗。長。手。記。小。常。滑。水。地。在。三。帝。常。滑。と。い。ふ。人。と。り。三。帝。常。滑。ハ。並。盛。の。初。名。う。り。

龜松山正住院

北条村にあり。淨土宗。成。若。村。常。樂。寺。末。

近。世。年。中。空。觀。音。兼。覺。上。人。の。開。

正住院

過正住院題
龍燈松

深田明奉

聞說有高僧
龍神夜獻燈
門前松尚在
懸得月初昇



香印

炭火行

いよりの

あつきの

あつきの

あつきの

あつきの

あつきの

あつきの

あつきの

あつきの



前住
宣阿

基うて則常樂ありありあり隱居退任ありとひ上人道徳
 高く沈神も是と云ふて其頃夜あり門前の松小龍姥と載せ
 一とぞある今もと松と竜燈松と号し龍松の山号も又小龍
 とらふ又天正十年 神君都より清下白の長成岩村常樂寺へ
 成らせらるべきとてまづあ村へ清着岸行せらるる小あちより所
 案内中より一〇本尊 石浜院の座像 慈光大師の作 靈寶 系列名号 空蓮上人のまかり
 て四十八幅 一切經藏 文政年中 名号の内之 尚書書院より海面と眺む風系
 又小絶倫

常石天神社 石浜村小あり俗小 常石の社と稱す 本國帳小從三位常石天神とあり是
 傳云昔社地千代ヶ峯 今の社 小あり 明應年中今此地小後り
 なる宮山と号し又常清のゆ小神祠三基あり中宮ハ同村大
 善寺に法也西宮ハ小糸村小あり なる宮ハ則南社之又法座
 の旧地を傳の年記小に末歴傳由多けとども今号と畧と

八幡社 多石村にあり社地三楠山と林十保女四年癸卯とて建つひり山の名に 清水ありて粟井清水と稱す正月八日の神饗調進に清水と用ひ

鬼ヶ崎 田園とあり 板戸村にありて西南に海中一環をわたりたしが眺を折開きて風景を 又小絶倫

祥光山龍雲寺 同村にあり 藤原宗美隆芥見清水寺末近宝四年竹腰山 城守春日井群外原村の廢寺とすつて建立せり

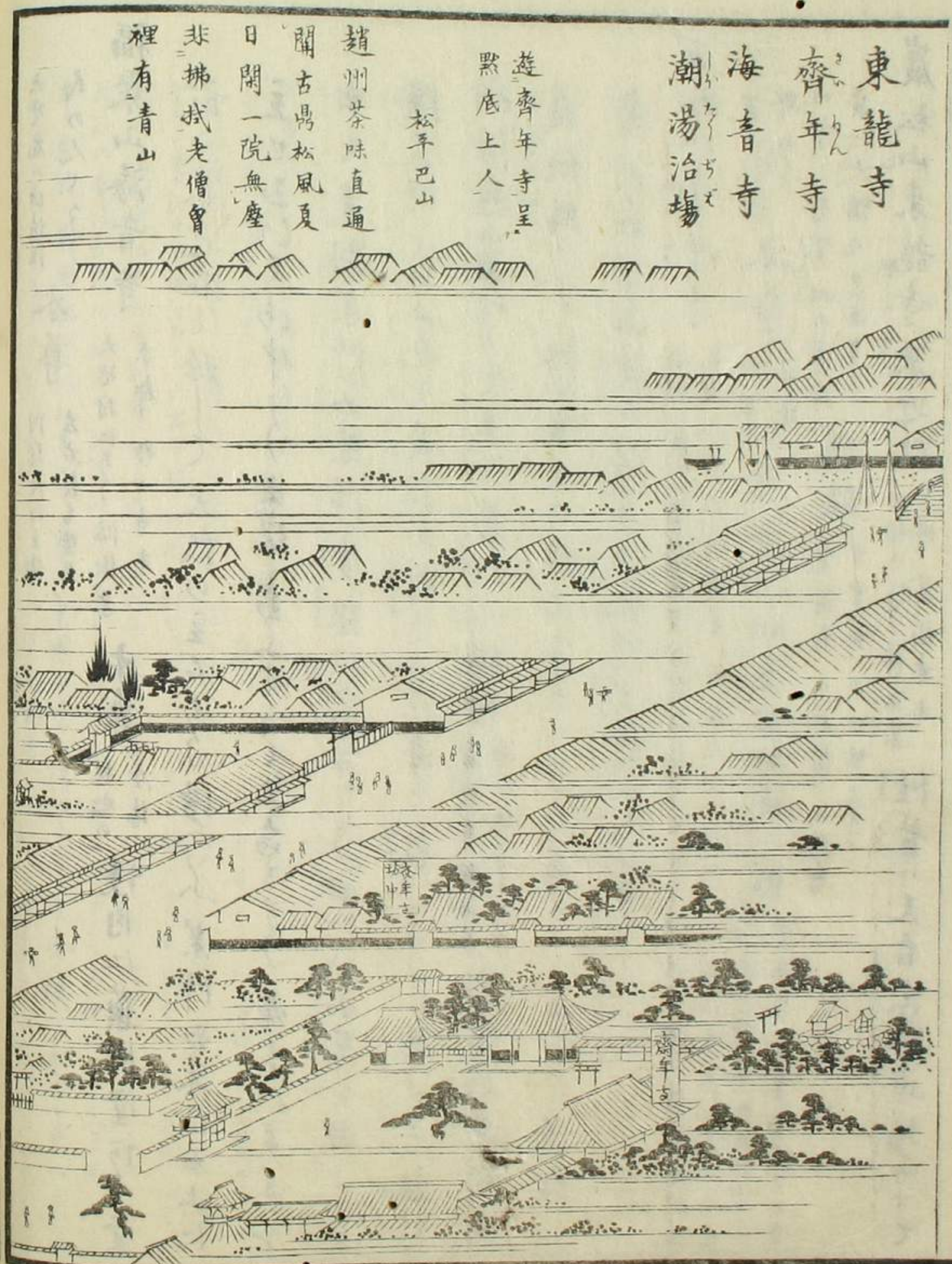
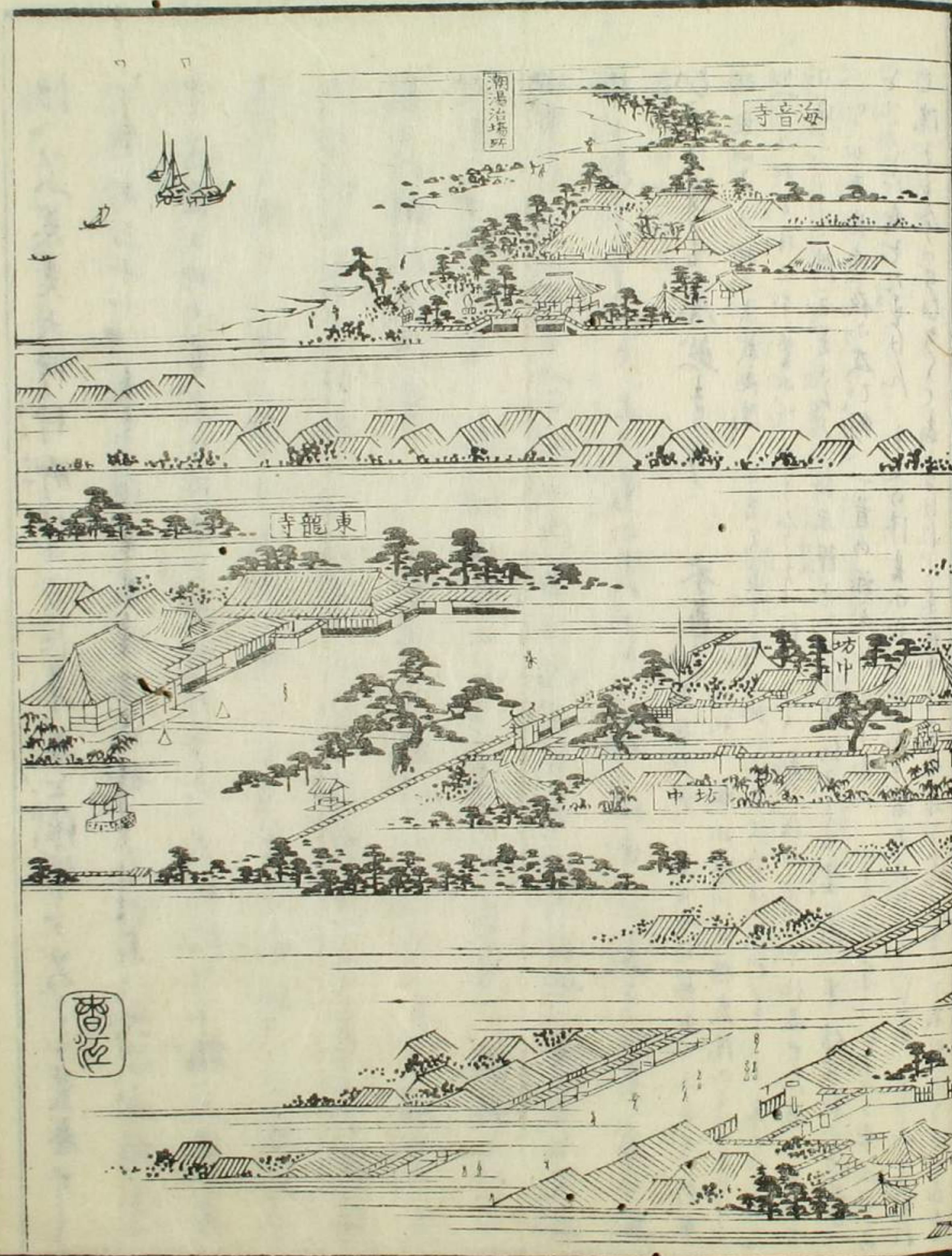
本尊 寺宝 金屏風 竹腰家の所蔵の 七十二候の画 竜の額 同家の所蔵の 画時板あり

美御天神社 宮山村小あり 今天福宮と稱す本國帳に 從三位

鍬山天神社 鍬山村にあり 本國帳に從三位

鑄物司 久米村にあり 代々清忠と業とて天福元年土月賜所の 宣旨とす 近衛院御守係三位に改稱と射る一吋波清工小命とて金燈 籠と造らしめ所庭の本に懸けし鶴の落し松と云ふことと傳はれり

標屋天神社 北槽屋村にあり 伊勢 豊田 八劍 無也 多度 八幡 天王 源太夫 といふ故に八所傳記と稱す本國帳に正四位標屋天神とあり



東龍寺
 齊年寺
 海音寺
 潮湯治場

趙州茶味直通
 關古島松風夏
 日開一院無塵
 非拂拭老僧曾
 裡有青山

遊齊年寺呈
 默庵上人
 松平巴山

傳へり慈覺大師行脚此日に草菴と結びて荒廢せし
と應永三十一甲辰年僧東岩惠全再興し今此家に改む永祿年
中信長公四十貫文の田地と寄附あり又制札も賜ふ相光秀
以公と裁りし時 神祖泉州堺のみづの徴行して整州と
河内村小野り多し尚寺に三日まで神庵ありせらるし小彼信
長公に制札と神覽ありはされ神後救済ふ及びせりし由是
七年 壬寅六月 神祖駿府小ありし時尚寺に任信洞山の
旧事と同しせり洞山神峯に信長公寄附の田地ハ秀吉公没収
せりし時中上り尾小ありし 神祖寺の朱章と賜
いへ今も歴然あり ○本尊 阿彌陀佛春日の作像起の云々阿彌陀
陀ハ八坂山横川の櫻庭院のまきまき
明應四年の秋の末或夜院の若て直く我の地にありて台徳と利の年久し
りども於万機の牛警ふたり今も好いあり 蘇のの底生と化蓋せん我と東の方
小送るべし 院の主若きありし時示現とありし 何ふとも堂のねハ半信半疑のち捨
がかりし若連夜小及び判の一首の源分と示し 山よりも来りむつと東の
とありし我をたしけん と又の若者小我と迎へ者ありしと東に送るしわれ
と院の主今もせひうてありしとありしとめ茶と送るし不思議なり尚寺

才三世竹堂上人、連夜の灵友と蒙りて是も方々へはけりしと都とてより
がに妙三場の宿をてりし候も出合東西まひりしと清りに符符と合すしとく
是は二僧奇異の思ひとありし終小尚寺に 寺宝 法然上人像 北殿
司印 耆婆像
宋徽宗 山水二幅 牧溪
の筆 小舟救多われも畧也 ○塔頭 林齊軒 福用軒
感迎院 甘露院
室池院 實相院
徳用軒 七宝院
小林山光明寺 因村にありし東本願
寺末の院家 因郡小林村にありて天台宗此
道場聖徳太子の神創 後醍醐帝の勅願所なりしが中世佛性
上人嘉禎元年親嘗聖人とゆ伝へて終小今此家に改む傳へり
在原業平朝臣故わりの尚郡蓋尾里に来住せり小も子孫代々
此地小居る佛性上人ハ則業平十三世の孫蓋尾公平の子なりし
其後尚古任備淨念水地後伊弉の女と娶り故小水地下地也十
町の寺産と寄附す又佐治上地介尚雨と伝せり時亦十町と増
ふふとるにいま後織田有永と寄附すと裁り豊太閤又主附地と懸く没
収せりも是長五年の兵火小古院焼及び什宝小と没亡也と云れり

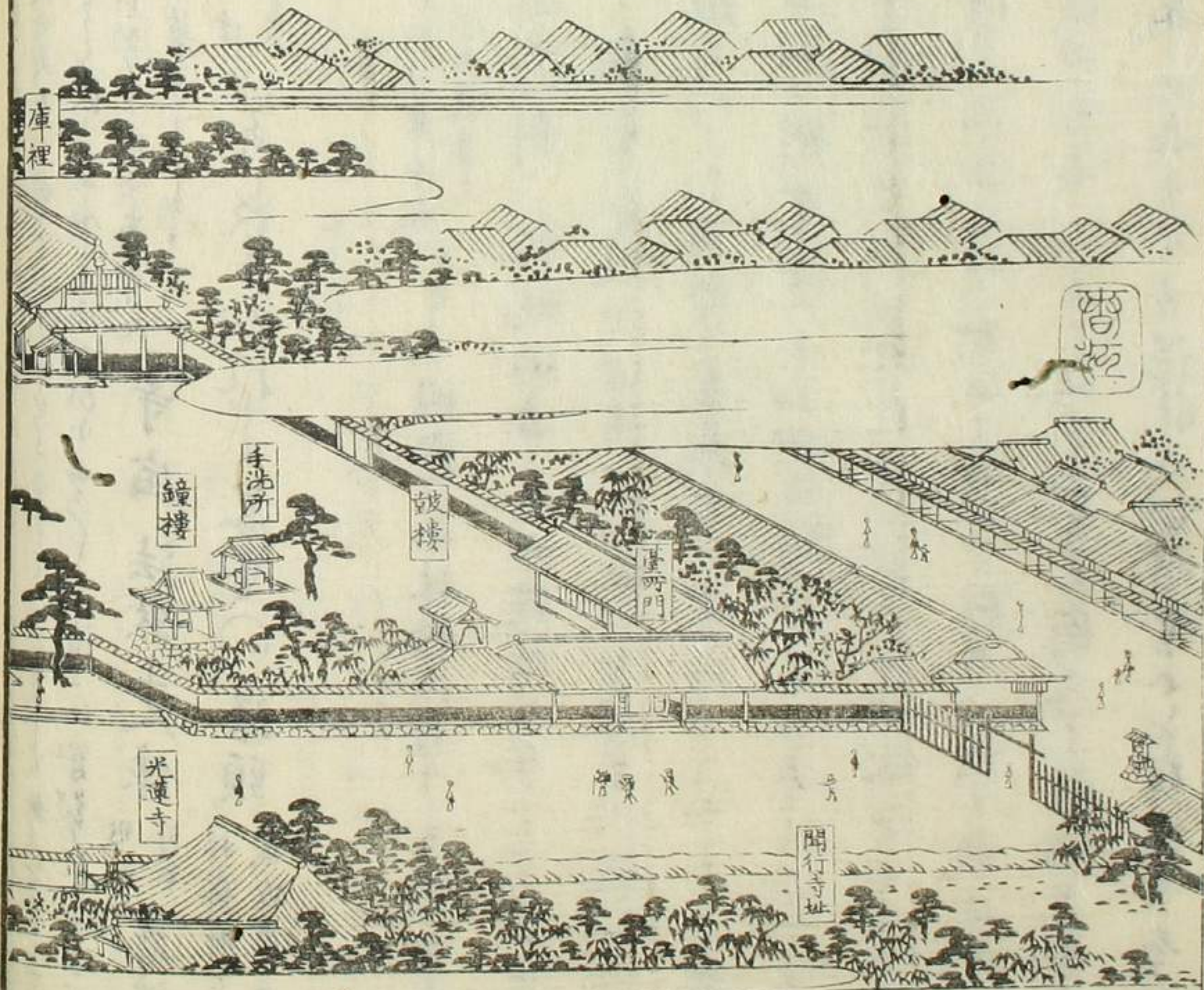
光明寺

深田正室

小林山上光明寺相
遇閻僧問往年佛性
上人垂跡後至今堂
宇正巍然

謀

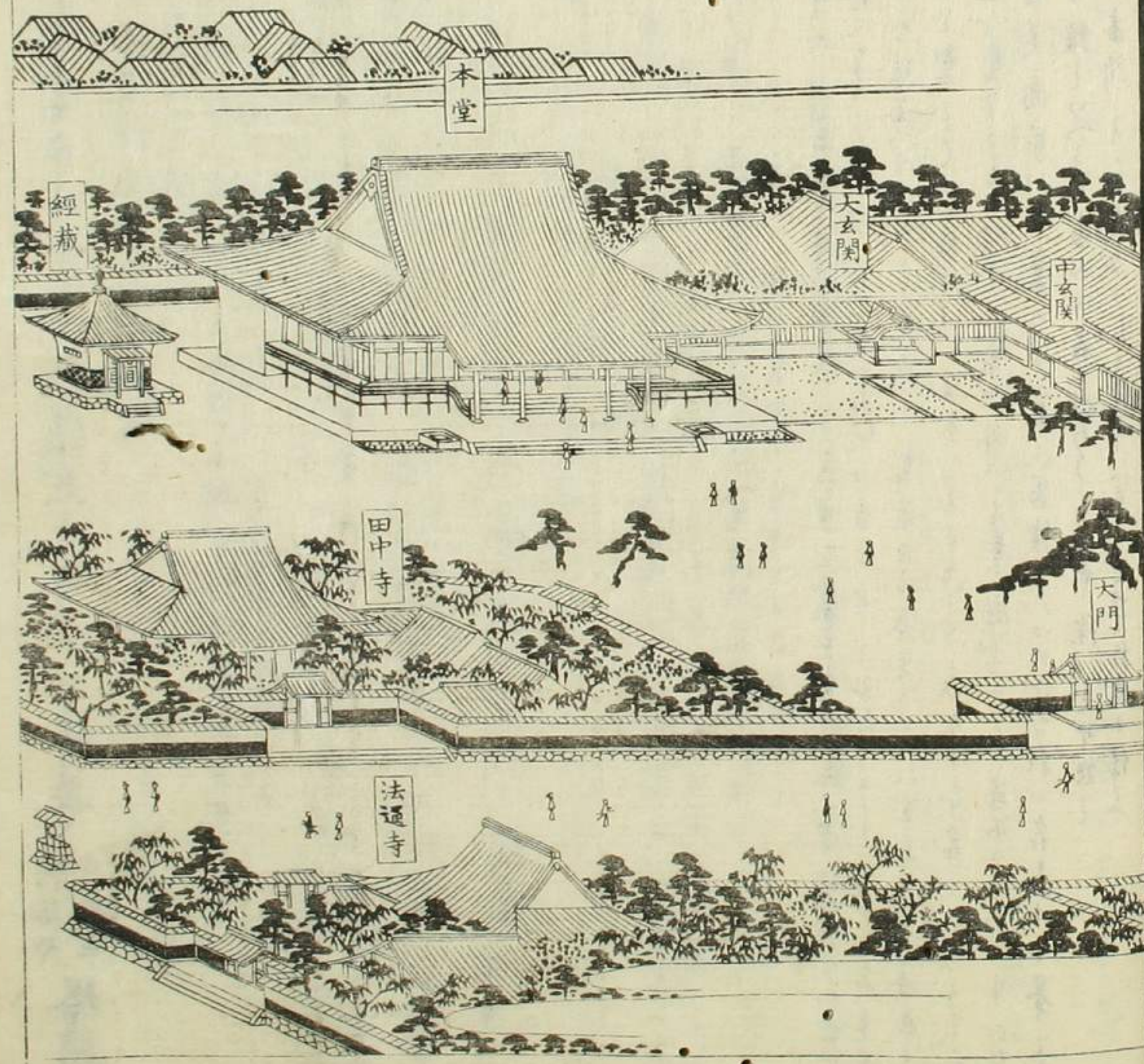
六のひ
法くろ佛に
寺此名と

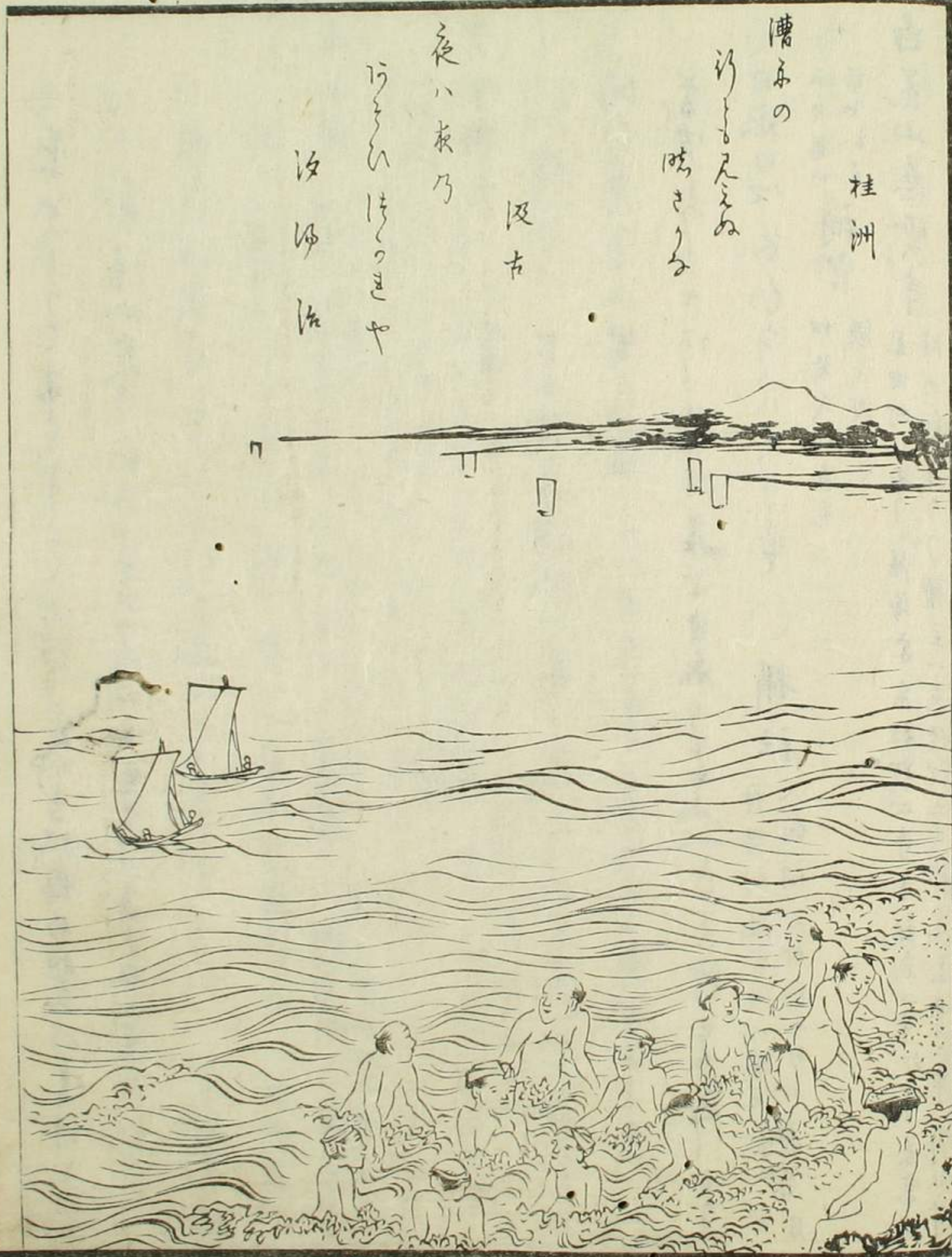


善く代々
かやきに

賣茶園

縁起
杉ぬい
かきつ
ま
あ
ま





桂洲

博多の

汐よも足さぬ

晴さうな

汲古

夜ハ萩乃

あそびのけつさや

汐河

潮湯治



玉澤

統の西帝と初王洛十三代の帝王を以て國家法護の勅
 所よりその歴然よりある二世と勤操和尙三世と弘法大師
 とす當年伽藍堂塔の盛なりそのハ悉く大師の撰りて儀
 軌小足えり人々事なきに減りつ ○寺室 大日如來
 弘法大 山越の阿彌陀 惠心傍 當山儀軌 弘法大 法海寺謠本 信也
 師の字 涅盤像 土佐の信 不動明王 巨勢全 藥師如來 北殿 三千佛
 宅磨法眼 兩界曼陀羅 粟田口信 十六善神 恭思 三佛 十菩薩
 榮智系 顏輝 以外希代の什宝救十種あれどもくに有きぬ ○常光
 院 文祿三年榮保 大乗院 文祿三年澄永 吉祥院 慶長元年緒蓮 三
 院 法下の中興 法下の中興 法下の中興
 院皆茶王山と通称と ○牛若辨慶の繪馬二枚 慶長十八年癸丑
 寺本中島村に依後 何津股野角力の繪馬一枚 元和三年丁巳二月
 源古傳のとあり 龜山院の佛宇同本山田郡木佐寺母寺
 の開山無任圓師のおこり佛其も依りて味流村に有助しつる者も亦ありけれ
 ば年の初ハ家々に來りて福を著せ此密が浦のとくは舞をて物とをいひるま

万歳

萬歲 數村に表福大夫吉福大夫米福大夫加木石村に上明方丈等計數人ありて三河院
 内萬歳の因流なり 抑 入皇八十九代 龜山院の佛宇同本山田郡木佐寺母寺
 の開山無任圓師のおこり佛其も依りて味流村に有助しつる者も亦ありけれ
 ば年の初ハ家々に來りて福を著せ此密が浦のとくは舞をて物とをいひるま

正法院

正法院 佐布里村にあり創建の年記洋々成修つて往昔 後寺お院の勅取不
 て旧号と西室山ぬ善寺といひて慶永年中憲齋法下是と尋島とて今
 天台宗を地村万徳とましくつりて正法堂とて額牌して見ゆに地蔵堂の跡也
 又古き銘あり 銘に明應七年戊午五月十日檀那 平朝臣宗宣とるんを宗
 宣ハ何人の名 洋々成修つて 本尊 地藏菩薩 密嚴院 淨蓮坊 實相坊
 佐布里村の御とてしつる

景清宅址

景清宅址 半月村あり今田圃とて小き表のこむり一悪七き信法清とて
 居居とて土入の地又あるの山上に古ねあり信に忠見のねと
 つふ景清の地あり一頂彼山にきて月とて見ゆ清光の地にて信に忠見のねと
 此が別波月と村の名とつけしつるつて呼ばれて半月村といふ又ある村に親
 音堂あり此本堂ハ景清の屋敷跡とて呼ばるるつて去れども景清の地ハ景清
 せしつるハ古記に記すねと里氏の口碑とてそのまじつて後の考とつるの

八幡社

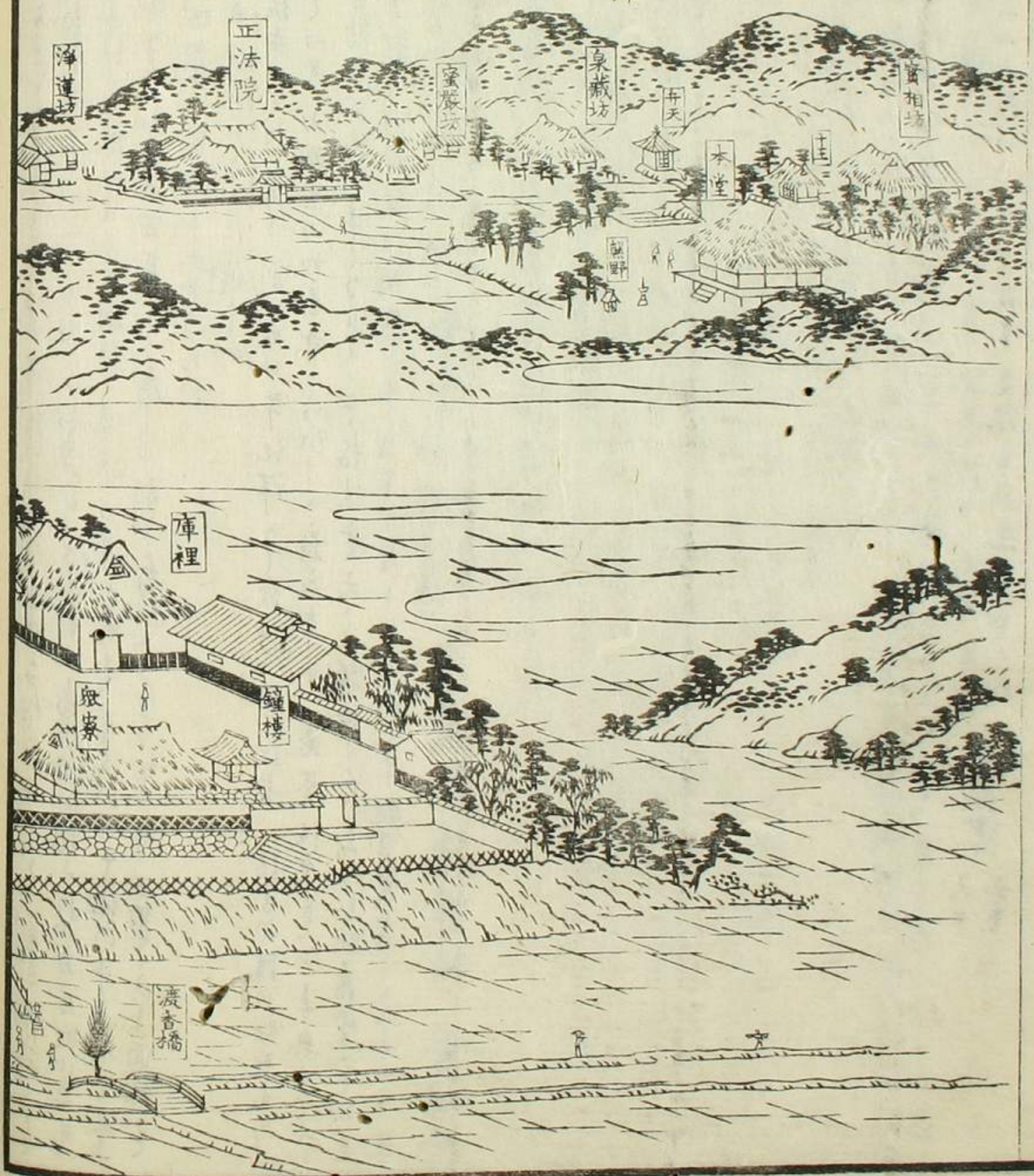
八幡社 中流村にあり比西大なる社ありて流來
 砂地ありむ絶景此地

安樂院

安樂院 數村にあり仙養山菩提院とて天台宗也田密院院未信に大日とて
 往古伽藍の遺場とて天文年中火災おかりて悉く燒こりつるに
 本尊の存せし元龜元年庚午法下園秀再建 本尊 大日
 今一山三院あり妙宗院常定院玉泉院とあり

慈雲寺
正法院

過正法院
佐分清雄
空苑春深草
樹香滿庭點
石自成行藟
經長誦東凡
裏一任擔鈴
語夕陽



過慈雲寺

竺垣道

溪山長繞旧禪
庭金磬秋清木
葉飛雲意應憐
定僧冷床頭護
作一重衣



香

万歳

禁中正月五日御新始の後清涼殿の南庭より音千壽万歳樂ハ職人等分合に画りて見送は法防より奉施烏帽子と着り又室町將軍家の以代万葉ハ大夫府と持才三鼓とちてあかま掛ま池にて以中の上ふあわとつうと壺袴とほきと今あくに因るあ郡の万葉も畧これ類せり



小川

惣五郎塚

同村にあり昔花井惣五郎といふ者或人のより小教きと首とくにうづめて依に弓提塚といふ瘡とけり人小まに弓矢と作りて墓前小掛をとりたるにあり

虫供養

あ郡西浦十四ヶ村東浦十六ヶ村一年小一ヶ村と抑は供養の淵源と尋らに 醍醐天皇の御宇英比丸は地と依りむいしは彼

公波といひて後村民是とありて供養せり小まらまらとて又虫供養 定家々の明月記に云々 伊美辻家の秋うらら といふと云ふは農民常小田畠の虫と

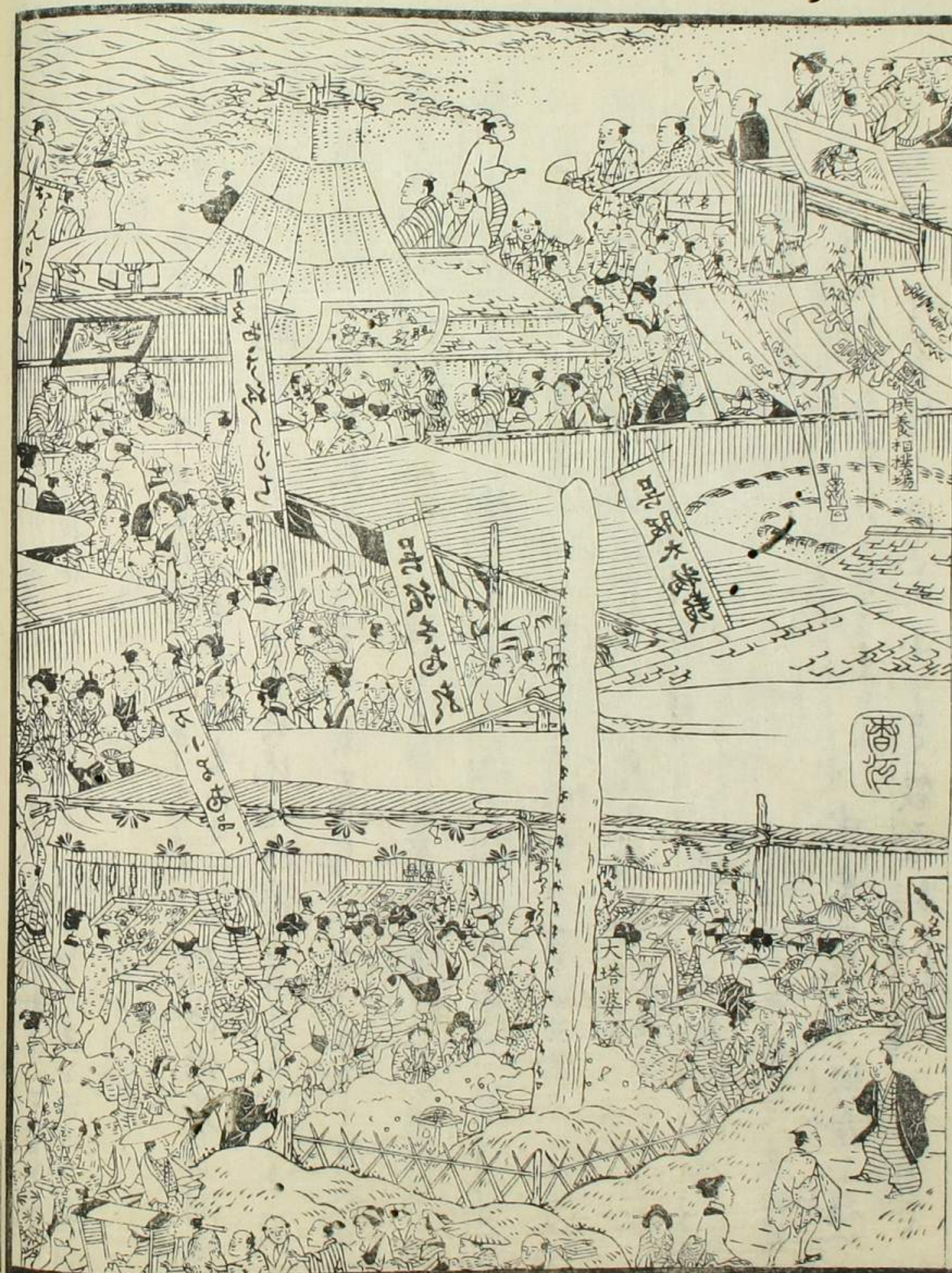
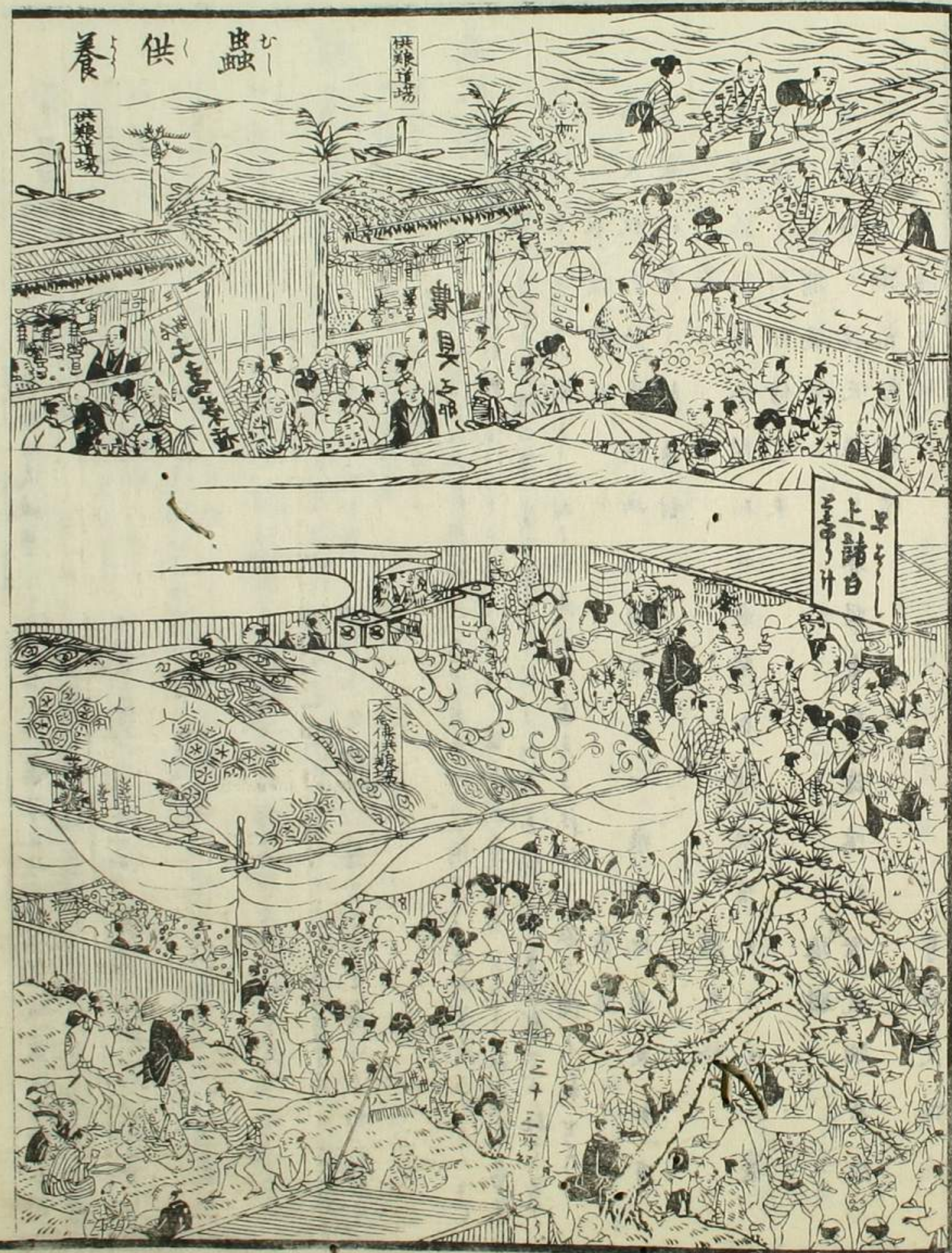
教と法貴のゆ小佛事と云は長根と公連の遊福ふる也 一とさて年暮小あ村ハ正月七日供養の奉さるる三とれ

阿弥陀佛

あか俗 郡の事 と開扉ありて八月の彼岸 西浦ハ入りの日 東浦ハ中目之 小供

まき場と設け念佛和讃 征太鼓ありて 執行もおけ法舎 上人 ともあ郡の庵りて好融通念仏と勧誘あり 俗徒斗りおて文に傳

と月いす 漢めて執りてと山供養といふ 中央小大う 假屋と構へ 念佛の供まき場とさざり小まき 假屋 三ッあり道とおきて



本号

甲州家礼士法樂左史政慶と云者好 許南家に仕へて大坂屋敷の御太閤
と考附一供其の清元に入らば本号ハ
別号あり又政盛の塚も教村にあり 大安寺一 大塔婆三四丈の丸木と
まゝして落文と記して

横須賀

古名馬走瀬といひて名巴が富士見道記にまじりてありて
けりともあるは元祿の頃 國君馬走瀬に浴あひさせ給ひて殿令
存せり高家も教村の石軒
とうていしは名巴の街なり

衣れ浦

横須賀村の政盛と云る東法行の方角抄にありて五古里衣れ浦なり
又曰衣れ浦の地名考にも見えたり 堀尾秋實が著りて衣れ浦十鳥集
といへ刺本ありて衣れ浦の事と委しく記し記分も能く多く我せりれども
紫衣れ浦に省きつ 都て衣れ浦より西南にあはる 法溪と衣れ浦と称せり

海天秋色絶塵喧幽趣猶添月一痕斯地秋衣如有
意寒砧處起漁村 藤長幹 見天邊上裏
風波緑洲海邑開砧杵遙聞衣浦隈晴際風烟無限
色紫斜照傍雲來 張驥 際風烟無限
海門渺接天涯日暮歸禽隔渚鳴此際風烟無限
好偏令騷客動詩情 宇野久恒

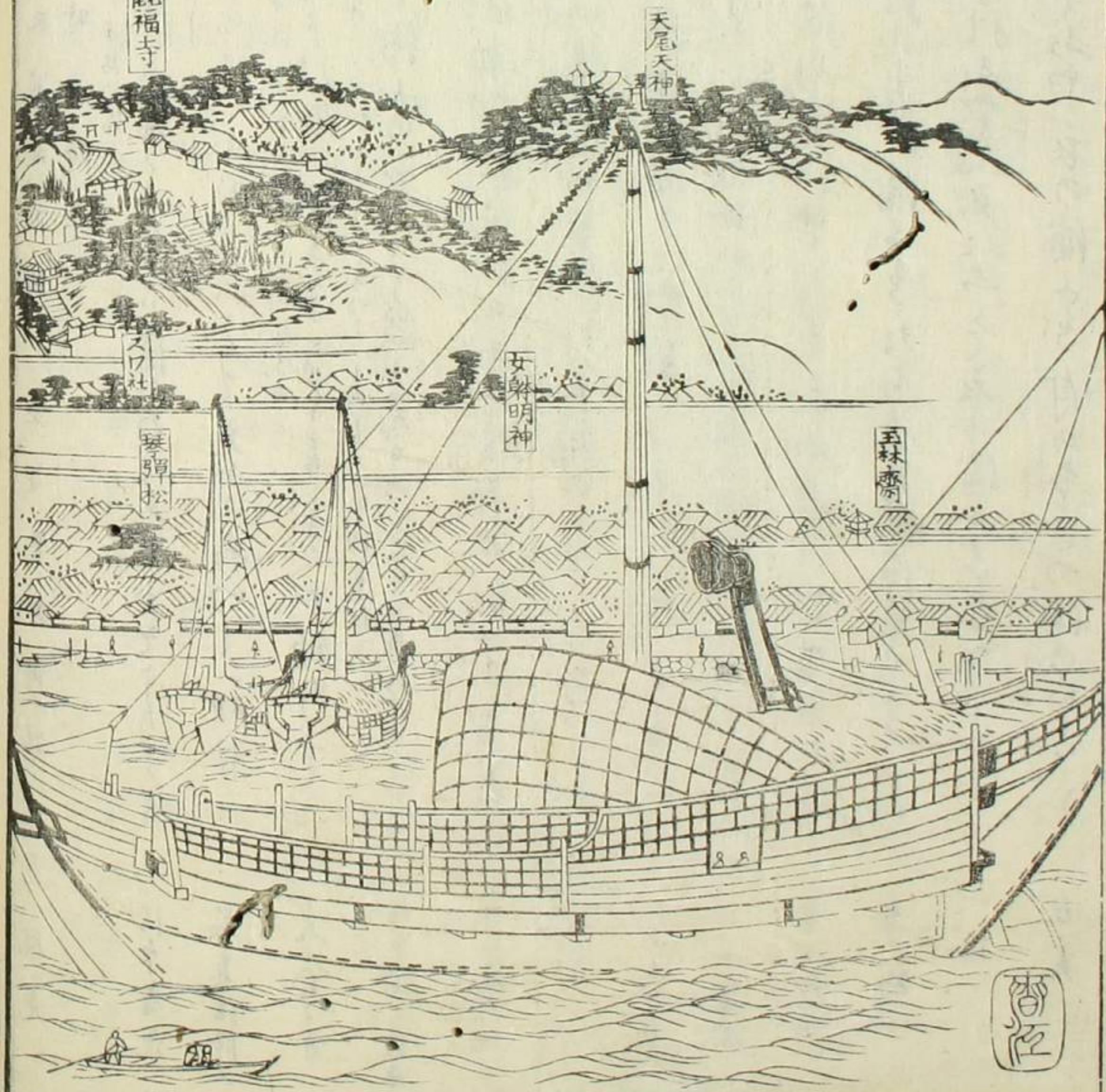
青鳥翩、衣浦邊波濤一望与雲連可憐佳舊風光
美猶似昔時巡狩年

波かゝ衣の浦と云ふは是は藤原の浦とて玉をよりり
あゝいとぬ衣の浦れ玉のわいりくさるゝあつと初けん
あやうき 衣の浦子あやうき喜小きや袖ぬすん
ぬすてはは衣の浦と云ふは是は藤原の浦とて玉をよりり
吹くす衣の浦乃秋風ふくも玉とわつと白雲
波わゝ衣の浦れ神貝とけ小風のききみあつと
まはる雪れ衣の浦よりや玉とわつと白雲
漢子あやうき衣の浦れ名と云ふは是は藤原の浦とて玉をよりり
おち枝小天伴乙女のかげは衣の浦乃花のふら辰
いづる衣の浦と云ふは是は藤原の浦とて玉をよりり
仲は浪よれ衣の浦と云ふは是は藤原の浦とて玉をよりり
きて衣の浦と云ふは是は藤原の浦とて玉をよりり

法華盛運
最真法師
よみあやう
後系極極改
西行
九条内大臣
氷室直長
栗田知周
専阿
一阿
秋実

横須賀

新の浦より集
 尾津は横須賀の
 濱のついで天の尾崎
 とついで中津の浦と
 して名を以て枕を
 取ると保元の以り
 やる走衛の甲と侍
 来りて天和年中
 小
 邦君降のまるとま
 在りてより上の村
 の名を以りてなると
 濱の横須賀を以りて
 今も又字のめりて
 尾津なりとて



香印

新の浦

下津の浦

龍らりり

長源寺



多懸岬故昔有馬村南有徑東向登之可三四十
蓋浮屠氏之為也坦平方百餘步有山後改爲前
望北有信越飛濃之山加賀白山亦見遠者五六
里近東北濱海而信與尾加賀之山則江勢其
之馬騰吹多度積翠濼江之山而冠峯如冠層樓
如杖朝開特秀距此三十里皆仰而南西北射層
百尺金魚鎮壁波日熱田別館其南檣如射層樓
蒼松蔚鬱勢如屋船泊日茫沐碧波之木明滅如
陰闔而北西一名也城以南南邑里而眺也去時
里曰大里中築堤方數百步矣松列去山足六
相公營以老之慶今也則墟矣松列去山足六
尾根次平野行最可觀見次田次森次大野次
多田次林銅野間次內海平治中長田忠致野次
典廐處次日尾浦次諸崎郡之南臨是謂島尖
以上諸村皆沿海南北對峙餘里八里通潮之
島尖志之鳥羽海南北對峙餘里八里通潮之
渾是為海門以內古謠呀謂其勢之海兮南
者南帆之三四里東西五六十里如織東維參遠
爲芥帆之三四里東西五六十里如織東維參遠
山如黛時見一鳥作大白其間芙蓉織東維參遠
僅高三十餘而能望十二州者我尾無山於此

矣右轉而下懸村也北寺曰觀音寺是余幼
時讀書之處清淨幽寂塵垢不至春夏之月都人
多遊焉出門左行里餘曰坂則海也沿河北里餘
下右岬之懸湖至不可行自巖上行而岬前百餘
岬曰一之懸湖至不可行自巖上行而岬前百餘
步如馬脊者曰高石潮成石此其石也
金王跳馬而占至馬化不成此其石也

大悲山觀音寺

同村にあり高云宗
府下大頂真福寺本

本尊 正觀音

當古境内ハ海濱の改岸

救十仞の上して絶頂小堂宇と稱ふ堂上より下瞰してハ松林

古樹倚て梢とん流雲飛鳥も常小御下に過ぎ去る西南と眺

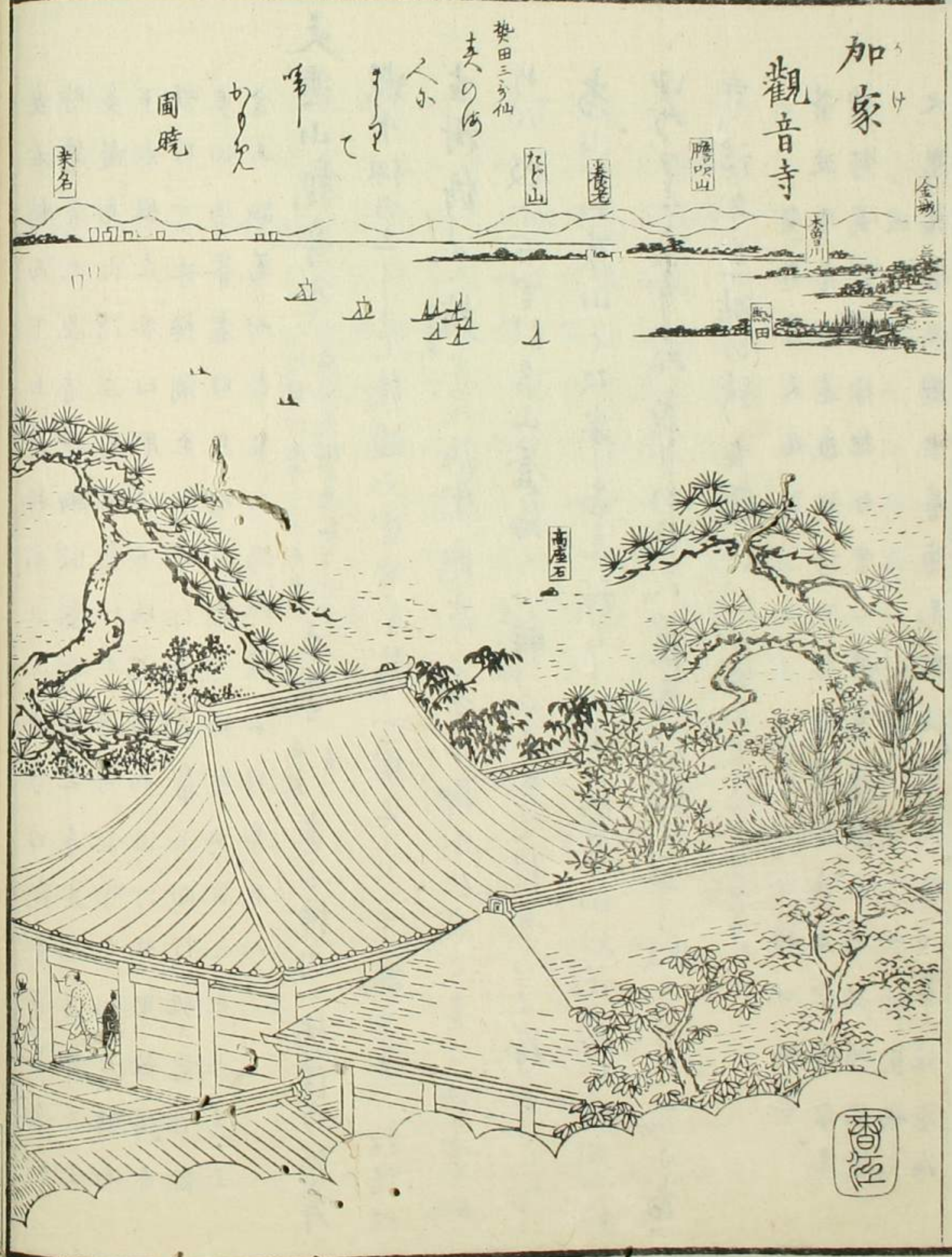
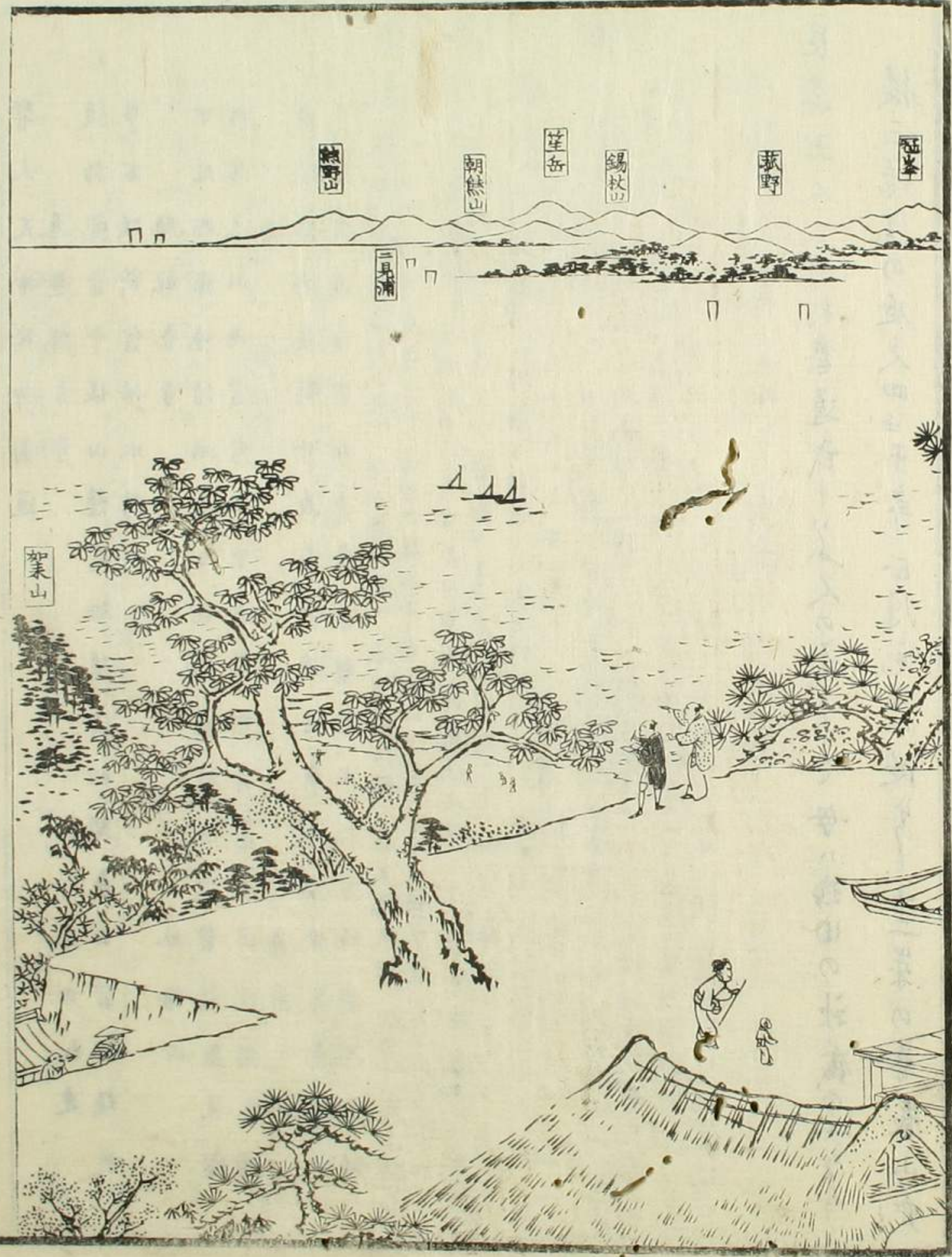
めハ救十百里れ名山蒼海も一瞬小をきて風系いと後とる

岬山ハ如來山と双峯而立初ちうけとハ如來山の記及び画圖に

いづるそ界しぬ府下の文人藤峯は地ハ如來の如く

寺法分主佛の新古題稱と花もらるるの甘き

蒼波千萬里遠嶽影浮沈勝地高吞海虛堂聳架岑
將舒黃鶴翼徐抱白雲心倏忽綠方外總無煩惱侵
大悲樓閣画圖中蒼菖花飄彼岸凡隱
山村良棋滄海



響人天捨筏仰圓通 奥田叔建

復訪觀音寺後山懸崖眺望倚松間桑田碧海須臾

事万頃新雷接水灣 林梅山

世外探禪境清幽夏月寒織蘿纏院壁靈籟動波瀾

送客三山兩當窓七里灘懸帆舟急去出沒海雲端

曳杖斜陽裏醉吟最是濃漁舟爭入浦晚鳥盡歸松

日落素名海雲暗多度峯蟹莊火已上時聽梵宮鐘

天尾天神社 本田村にあり今八幡と稱す本國帳に從二位天尾天神とあり是之後人改

兩尾山觀福寺 同村にあり天台宗也田密院未大空二年壬寅行基并の開基之

本尊 土面觀音行基の作りて又因作の 寺室 國君降夢附の什

業平塚 富田村にあり俗に車邊一帯初を委とし里老古傳業平胡岳此地に於て

と云ふ人傳て業平胡岳の塚と云ふなり又此の方に業平の墓と云ふこと

列業平胡岳の本居沖よりなり又因那加本を村に業平の烏帽子塚と

稱するものあり是にて是後此の塚と云ふこと

良忍上人 同村秦道武と云ふ人の子にて母は熱田の神祇の女なり

後三條院の延久四年正月元日小池より十二葉の春巖山兜

卒谷の惠心院の良賀法平れ許して台教と學び難發して本

覺坊良忍と名のりて東塔の西谷無動寺千日活と云

限遁の心行といひて廿三葉の秋素懐のくく大原の美かかく

てのくともをいひてね世のくといひて来るといひて大原のく

と云ふくもいひてくひ地小東連院と云創一結界法と修せんと

まけく鬼魅共小活つと云や上人の法力いでうあまき我亦

いもぎ退散と云とありけと上人親しくすことと又或阿含

文殊法と修せりて庭上の大石愛して椰子と云り吼と

らん又一日鞍馬寺の毘沙門天美人と化し上人小東湯にゐりて

いしく師河を融通念佛と唱へざりやと云にありて上人遂に融

通念仏と信俗男女小勸誘せりて上人空也上人と遊い下り深空

上人小及びて古字稱名弘通の功徳末世に登りても皆上人の法力

ありと云長承元年二月朔日行年六十一して入寂し

迫き安永二年十月十六日 勅しき聖徳大師と謚号と修らぬ

杉委しき元亨釈書及び大念佛寺兩祖繪詞傳ホにゆづらぬ

荒太天神社 清水村にあり 祭神と祭神 菅田天皇 玉依姬命 息長足姫命 本國帳に従三位荒太天神とあり 邑之 杉社 神明祠 山神祠

船津社 名和村にあり 舟玉十二所とあり 神宝 連摩正宗刀一腰 長三尺一寸 舟玉 應永二十五年戊戌造管せり 沼谷金王丸 舟玉とあり

例祭 三月十日

名和干温飩 同村の名産之凡為郡の小麦粉精密して最上の粒品なれば大庄若庄横 須賀佐布里木の法邑を索麩と製して名産とせし年々干

温飩と精製し法邑(野)運送す主製甚法浄潔白くして形所風味共に精進 とも波東坡が法邑一盃湯餅 銀糸乱と作るハあれ等れたらんと形容せし白ゆく 浪糸此二字さきさき

大高村 旧名火上の里水上也かけは名とありて境川 祝元が日記に尾張國大 鷹郷大梅院被申安堵事云々とあり又旧法小初ハ史云とあり

大高菜 大高村にて 莖葉の丈二三尺より四尺余に及ぶもの有り 葉は 根をわたりて或は煮或は漬漬ふすも風味甚美として 魚籠の有出たり

凡形所風味もに他境為産の産とハ大小異なり

大高菜

大高や

菜の花

山

士朗



玉漢

大高城址

大高村の辰巳の方にあつて東西五十九町
南北十八町今志水家の地所の址なり

信長公築きおふありし
公の家臣山口左馬助子細ありし公の叔き調景といふ城と侵掠し
刺へ今川家に討たせりありし小桶校るれ役に織田勢勢津丸根二
ヶ布の岩と接へ今川勢れ糧道と遮り絶んとせりしなり
神君十九歳の御初陣小奇策といふも由縁へ兵糧とをもと
運送しおひしりハ若く世の初めおれは妻しりし記に記して
ありしなり

鷲津岩址

田村の庄裏の方八町半ありし東四十四町南北十五町四方わきりガの岩
五百二十坪の勢あり

丸根岩址

大高村の四町北の方にあつて鷲津の岩より東西五町南北一町ありし
ありしなり

前關白正二位内大臣豊臣秀次公

將軍家譜に關白内大臣初為三好山城守
養子故号三好孫七郎實三位法印子秀
吉養子云尾張人物志畧智多郡
大高村産父長尾武藏守吉房云

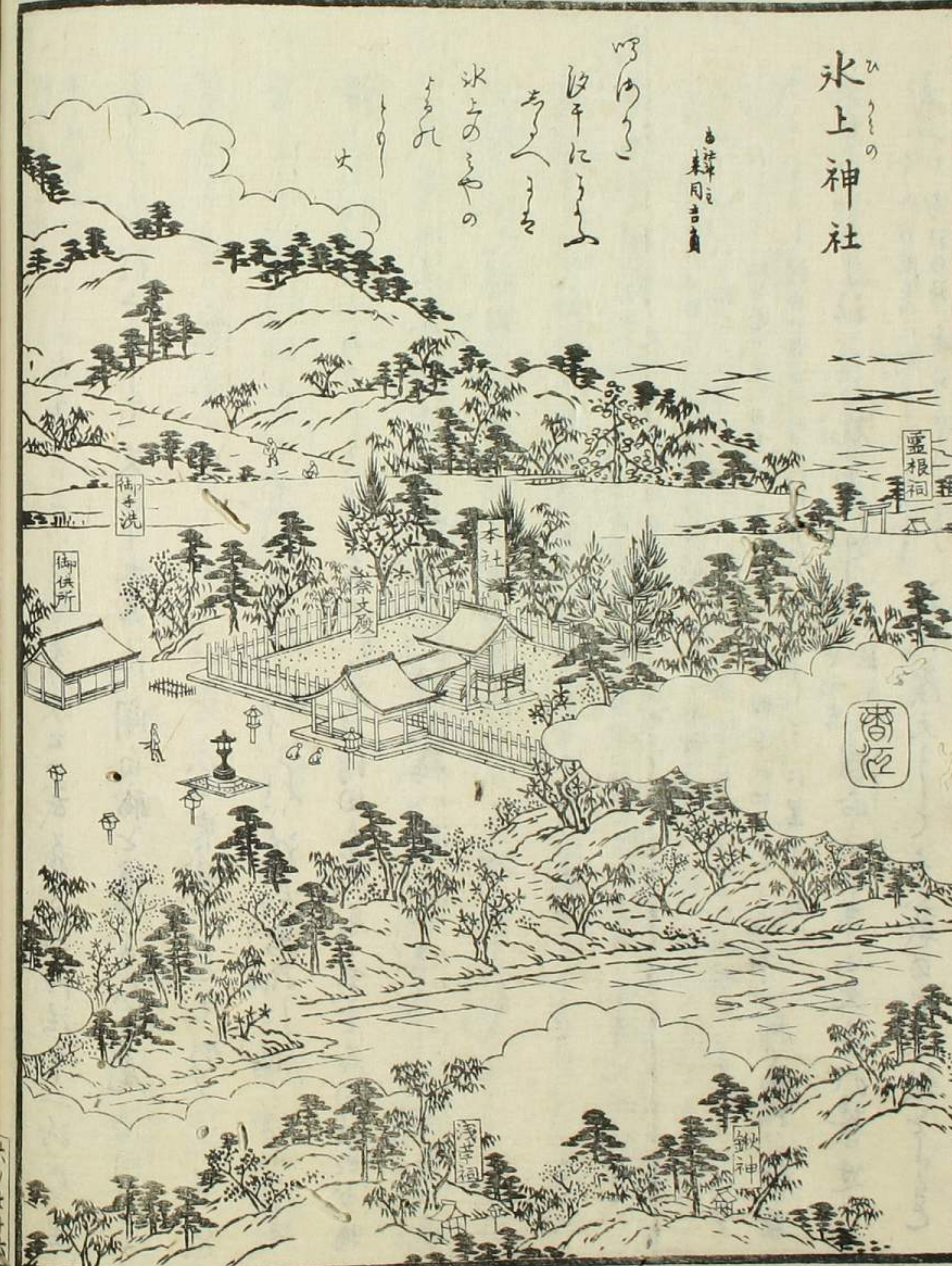
忠義士拔書

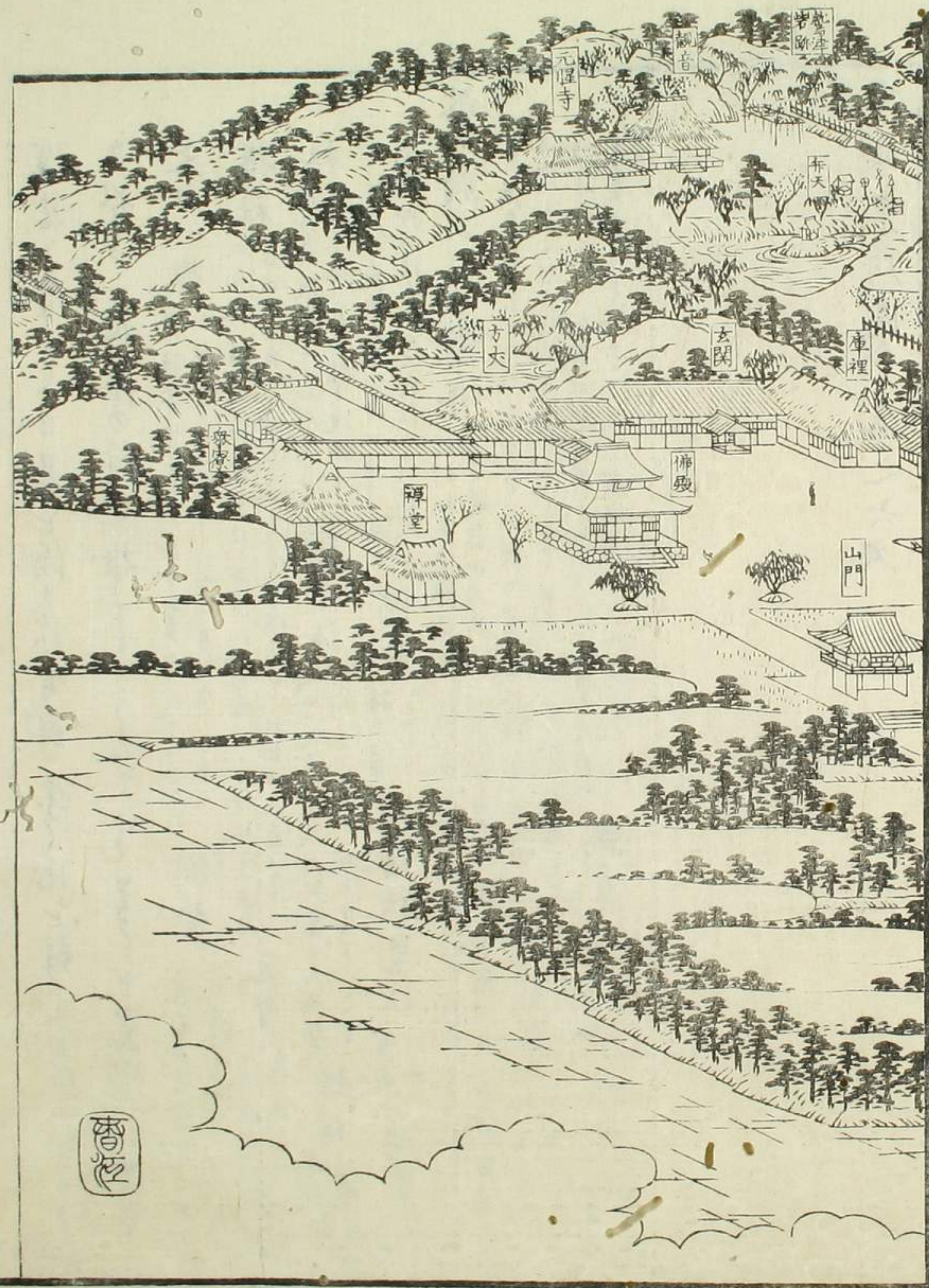
堀田上中介正信入道忠三郎信
濃に於て寛文三年癸卯二月

撰之天和三癸丑
年れ刻本也

小関白秀吉公の嫡男秀次公は武苑寺三位法印一坊の男
をりしと程子して天正十九年に關白職と譲りしりて尾張國小居
置きしなり

其の跡を承りて我我言れりし法民無様に海は小居
深くは沙汰もありし秀吉公は家臣堀田重長を石田三成に捕
三成等日來不和ありしに幸に海と接へ時々咄嗟せし秀吉公は
と領りし保坂人の格なりし秀次公は誤りし有神文と歎きおひしりし女
者程止りし終小文祿四年七月十五日甲子山崎青表寺ありし自害しりしなり
火上姉子神社 田村にありし今水上神社と稱は安田七社の一なり
起まに皆指撞の跡とわれし姉子神社の稱号ハ指撞の姉妹の稱ありしなり
小居にありし神鏡とありしなりしに日本武尊東征の御時御神鏡とありしなり
天皇の御宇社と皆脱島に近し
社地廣大なりて千載の古本枝とありし





深碧と疊て日晷と漏き青蘚厚く地を封じそのまじりさ由

さねし 神徳のほほも推しそへていそぐど美四〇神宝

太刀一振 平治年中義朝の御多郡に下り由社 例祭 八月廿日花車禊りおと出

撰社 八坂社 源大夫社 紀大夫社 廣田社 稻荷社 山神社 天王社 元宮 上古水上法 常世

社 官置 暖命の霊魂の 朝亭社 火言大老徳の灵とある大老徳 姓社 火明命

尾張の林うけ大姓社とも稱す 濱社 陸古公海 兩請社 星社 社あり 祠官 久米

就馬頭山長壽寺 因村にあり 臨海家江州永源寺末とて古祐寺といひて之を

と法名によつて今のち号に改め 養徳社 佛載徳を中興 本尊 阿弥陀佛

の関山とて 元福二巳己年 再び今の家に後せり 塔頭 元曜寺

寺養寺の本号なりとを右りてふらなり 觀音堂 境内に 塔頭 元曜寺

尾張名所圖會卷之六終

